

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第519集

と ちゅう うそざわ  
戸仲遺跡第1次・宇曽沢遺跡第2次  
発掘調査報告書

特定安全施設整備事業関連遺跡発掘調査

2008

岩手県盛岡地方振興局土木部  
(財)岩手県文化振興事業団  
埋 藏 文 化 財 センター

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財発掘調査報告書  
第519集 戸仲遺跡第1次・宇曾沢遺跡第2次発掘調査報告書  
正誤表

頁	誤	正
77~80頁の表中にある出土地点名	III B9P	III B9p

# 戸仲遺跡第1次・宇曾沢遺跡第2次 発掘調査報告書

特定安全施設整備事業関連遺跡発掘調査

## 序

岩手県には旧石器時代から連綿と続く数多くの遺跡が残されております。先人達が創造してきたこれらの貴重な文化遺産を保存し、後世に伝えていくことは、私達県民に課せられた責務であるといえましょう。一方、広大な面積を有し、その大部分が山地である本県にあっては地域開発による社会資本の充実も県民の切実な願いであります。

このような埋蔵文化財の保護、保存と開発との調和は今日的な課題であり、当岩手県文化振興事業団は埋蔵文化財センターの創設以来、岩手県教育委員会の指導と調整のもと、開発事業によってやむを得ず消滅する遺跡の緊急発掘調査を行い、記録保存する措置をとってまいりました。

本報告書は、特定安全施設整備事業に関連して平成18年度に発掘調査を行った盛岡市川口地区に所在する戸仲遺跡第1次・字曾沢遺跡第2次の調査結果をまとめたものであります。

発掘調査によって、字曾沢遺跡からは本県では発見例の少ない縄文時代早期の土器片が発見されました。また戸仲遺跡では縄文時代中期～晩期の遺構や遺物がみつかっています。篠川流域の段丘上には多くの遺跡が確認されていますが、今回の調査でその一端が明らかになりました。

この報告書が広く活用され、斯学の研究のみならず、埋蔵文化財行政に対する理解の一助になれば幸いです。

最後になりましたが、これまでの発掘調査及び報告書作成に御援助・御協力を賜りました岩手県盛岡地方振興局・盛岡市教育委員会をはじめとする関係各位に衷心より感謝申し上げます。

平成20年3月

財團法人 岩手県文化振興事業団

理事長 武田牧雄

## 例　　言

1 本報告書は岩手県盛岡市川日4-60-16ほかに所在する戸仲遺跡第1次調査および、同2-20-11ほかに所在する宇曾沢遺跡第2次調査の結果を収録したものである。

2 本遺跡の調査は、特定安全施設整備事業に関わる事前の緊急発掘調査である。調査は岩手県教育委員会事務局生涯学習文化課と岩手県盛岡地方振興局土木部との協議を経て、財團法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターが委託を受け、受託事業として実施した。

3 本遺跡の調査成果は、すでに『平成18年度発掘調査報告書』(岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第505集)において発表しているが、内容については本書が優先する。

4 岩手県遺跡登録台帳に登録されている戸仲遺跡第1次調査・宇曾沢遺跡第2次調査の遺跡番号と遺跡略号は次の通りである。

戸仲遺跡 第1次調査 遺跡番号 LE 28-0232 ／ 遺跡略号 YTT-06-01  
宇曾沢遺跡第2次調査 遺跡番号 LE 28-0376 ／ 遺跡略号 YOS-06-02

5 野外調査の面積・期間・担当者、室内整理の期間・担当者は次の通りである。

野外調査担当者・・・滝浩二郎・北村忠昭

戸仲遺跡 第1次調査 調査面積：654m<sup>2</sup>／調査期間：平成18年7月18日～11月2日

宇曾沢遺跡第2次調査 調査面積：96m<sup>2</sup>／調査期間：平成18年9月1日～9月26日

室内整理担当者・・・滝浩二郎・荒谷伸郎

戸仲遺跡 第1次調査 整理期間：平成18年11月1日～平成19年3月31日

宇曾沢遺跡第2次調査 整理期間：平成18年12月16日～平成19年1月31日

6 遺物の鑑定は次の機関に依頼した。

黒曜石产地同定および火山灰分析：株式会社古環境研究所

石材鑑定：花崗岩協会

7 基準点測量は株式会社ハイマーテックに委託した。

8 野外調査・室内整理にあたって次のの方々の御協力・御指導をいただいた（敬称略）。

盛岡市教育委員会

9 本報告書の編集については、滝浩二郎が行った。各章の執筆については第Ⅰ章「調査に至る経過」は岩手県盛岡地方振興局土木部に原稿を依頼し、執筆していただいたものである。また、第Ⅳ章の付編「自然科学分析」については受託機関の原稿をそのまま転載したものである。第V章「宇曾沢遺跡第2次調査」は滝浩二郎と北村忠昭が分担してを行い、他の章はすべて滝浩二郎が執筆した。

10 本遺跡の調査で得られた一切の資料、出土遺物・撮影写真・遺構実測図・遺物実測図などは岩手県立埋蔵文化財センターにおいて保管している。

## 目 次

I 調査に至る経過 .....	1
II 遺跡周辺の地理的環境	
1 遺跡の位置 .....	1
2 地形と地質 .....	1
3 遺跡周辺の歴史的環境 .....	4
III 調査の経過と方法	
1 野外調査の経緯 .....	7
2 野外調査の方法 .....	7
3 室内整理の手順と方法 .....	10
4 外部委託 .....	12
IV 戸仲遺跡第1次調査	
1 遺跡の立地 .....	13
2 基本土層 .....	13
3 検出遺構 .....	17
4 出土遺物 .....	29
5 まとめ .....	81
付編 自然科学分析 .....	86
V 宇曾沢遺跡第2次調査	
1 遺跡の立地 .....	95
2 基本土層 .....	95
3 検出遺構 .....	96
4 出土遺物 .....	97
5 まとめ .....	98
報告書抄録 .....	153

## 図版目次

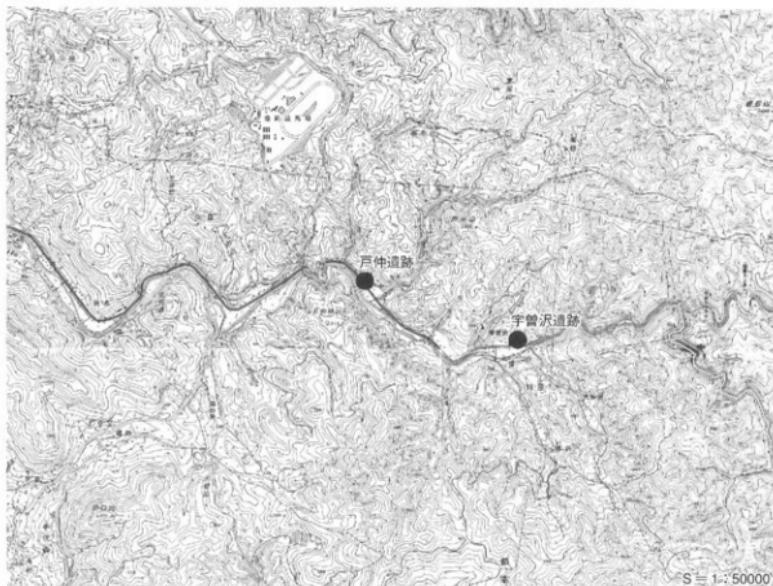
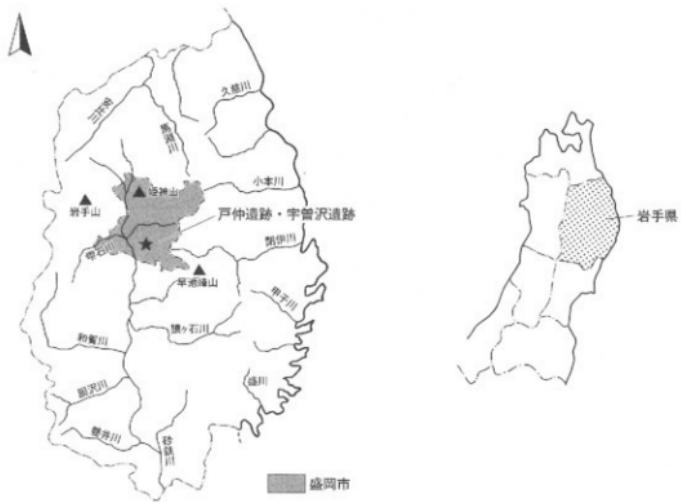
第 1 図 遺跡位置図	48
第 2 図 遺跡周辺の地形分類図	2
第 3 図 遺跡周辺の地形図	3
第 4 図 周辺の遺跡分布図	6
第 5 図 グリッド配置図	8
第 6 図 凡例図	12
<戸仲遺跡第1次調査>	
第 7 図 基本土層	13
第 8 図 遺構配置図(全体図)	14
第 9 図 遺構配置図(B区③-1)	15
第 10 図 遺構配置図(B区③-2)	16
第 11 図 RD001～RD006	19
第 12 図 RF001～RF006	21
第 13 図 RH001～RH005、RH010	25
第 14 図 RH006～RH009	26
第 15 図 RP001	27
第 16 図 P1～P4・P6・P7	27
第 17 図 P8・P11・P13・P14・P16～P23	28
第 18 図 遺構内出土土器(1)	36
第 19 図 遺構内出土土器(2)	37
第 20 図 遺構内出土土器(3)	38
第 21 図 遺構内出土土器(4)	39
第 22 図 遺構内出土土器(5)	40
第 23 図 遺構内出土土器(6)	41
第 24 図 遺構内出土土器(7)	42
第 25 図 遺構内出土土器(8)	43
第 26 図 遺構内出土土器(9)	44
第 27 図 遺構内出土土器(10)	45
第 28 図 遺構内出土土器(11)	46
第 29 図 遺構内出土土器(12)	47
第 30 図 遺構外出土土器(1)	48
第 31 図 遺構外出土土器(2)	49
第 32 図 遺構外出土土器(3)	50
第 33 図 遺構外出土土器(4)	51
第 34 図 遺構外出土土器(5)	52
第 35 図 土製品(1)	53
第 36 図 土製品(2)	54
第 37 図 石器(1)	55
第 38 図 石器(2)	56
第 39 図 石器(3)	57
第 40 図 石器(4)	58
第 41 図 石器(5)	59
第 42 図 石器(6)	60
第 43 図 石器(7)	61
第 44 図 石器(8)	62
第 45 図 石器(9)	63
第 46 図 石器(10)	64
第 47 図 石器(11)	65
第 48 図 石器(12)	66
第 49 図 石器(13)、石製品(1)	67
第 50 国 石器(14)、石製品(2)	68
第 51 国 RP001出土土器分布図	82
第 52 国 菅内遺跡出土のイノシシ形獸面	83
<宇曾沢遺跡第2次調査>	
第 53 国 基本土層	95
第 54 国 RD001・RD002・RF001	99
第 55 国 RF002、調査区、遺構配置図	100
第 56 国 出土遺物(1) 土器	101
第 57 国 出土遺物(2) 土器・石器	102

## 表 目 次

第 1 表 周辺遺跡一覧表	4・5
第 2 表 苏半杭・補助杭一覧	9
第 3 表 遺構名一覧表	11
<戸仲遺跡第1次調査>	
第 4 表 柱穴観察表	28
第 5 表 土器観察表(1)～(7)	69～75
第 6 表 土製品観察表(1)・(2)	75・76
第 7 表 石器観察表(1)～(3)	77～79
第 8 表 石製品観察表	80
第 9 表 出土土器重量一覧表	80
第 10 表 RP001 グリッド別重量一覧表	82
<宇曾沢遺跡第2次調査>	
第 11 表 遺構観察表	98

## 写真図版目次

<戸仲遺跡第1次調査>	
写真図版 1 航空写真	105
写真図版 2 濟柵区、基本土層	106
写真図版 3 RD001～RD004	107
写真図版 4 RD005・RD006、RF001・RF002	108
写真図版 5 RF003～RF006	109
写真図版 6 RH001～RH003・RH005	110
写真図版 7 RH004～RH007	111
写真図版 8 RH008～RH010	112
写真図版 9 P1～P4・P6・P9～P11・P13・P14	113
写真図版 10 P15～P20・P22・P23	114
写真図版 11 RP001、遺物出土状況（1）	115
写真図版 12 遺物出土状況（2）	116
写真図版 13 配石柵、検出状況	117
写真図版 14 濟柵区（B区）	118
写真図版 15 遺構内出土土器（1）	119
写真図版 16 遺構内出土土器（2）	120
写真図版 17 遺構内出土土器（3）	121
写真図版 18 遺構内出土土器（4）	122
写真図版 19 遺構内出土土器（5）	123
写真図版 20 遺構内出土土器（6）	124
写真図版 21 遺構内出土土器（7）	125
写真図版 22 遺構内出土土器（8）	126
写真図版 23 遺構内出土土器（9）	127
写真図版 24 遺構内出土土器（10）	128
写真図版 25 遺構内出土土器（11）	129
写真図版 26 遺構内出土土器（12）	130
写真図版 27 遺構内出土土器（13）	131
写真図版 28 遺構外出出土土器（1）	132
写真図版 29 遺構外出出土土器（2）	133
写真図版 30 遺構外出出土土器（3）	134
写真図版 31 遺構外出出土土器（4）	135
写真図版 32 遺構外出出土土器（5）	136
写真図版 33 土製品（1）	137
写真図版 34 土製品（2）	138
写真図版 35 石器（1）	139
写真図版 36 石器（2）	140
写真図版 37 石器（3）	141
写真図版 38 石器（4）	142
写真図版 39 石器（5）	143
写真図版 40 石器（6）	144
写真図版 41 石器（7）	145
写真図版 42 石器（8）	146
写真図版 43 石器（9）、石製品（1）	147
写真図版 44 石器（10）、石製品（2）、動物遺存体	148
<宇曾沢遺跡第2次調査>	
写真図版 45 航空写真、基本土層	149
写真図版 46 RD001・RD002、RF001・RF002、P1	150
写真図版 47 出土遺物（1）土器	151
写真図版 48 出土遺物（2）土器、石器	152



第1図 遺跡位置図

## I 調査に至る経過

戸仲遺跡及び宇曾沢遺跡は、一般国道106号川目地区特定交通安全施設整備事業の実施に伴い、その事業区域内に存することから発掘調査を実施することとなったものである。

事業地区である盛岡市川目地区は盛岡市立川目小学校、盛岡市立河南中学校および盛岡市内の高等学校等の通学路である。一般国道106号は、県都盛岡市と岩手県沿岸市町村を連結するアクセス道路であることから自動車交通量6,427台/24h、重交通量1,191台/24hと交通量が多い路線であるが、事業地区の川目地区には歩道が未整備であるため、通学児童及び地域住民の交通安全確保が困難な状況である。そのため、本事業により歩道を整備し、通学児童及び地域住民の交通安全確保を行うものであり、平成16年度より歩道整備を実施している。

当該遺跡については、本事業の施工主体である盛岡地方振興局土木部からの依頼により、岩手県教育委員会事務局生涯学習文化課が平成17年度に試掘調査を実施した。その結果を踏まえ、岩手県教育委員会と協議し、平成18年度に財団法人岩手県文化振興事業団と盛岡地方振興局との間で委託契約を締結し、発掘調査を実施することとなった。

(岩手県盛岡地方振興局土木部)

## II 遺跡周辺の地理的環境

### 1 遺跡の位置(第1図)

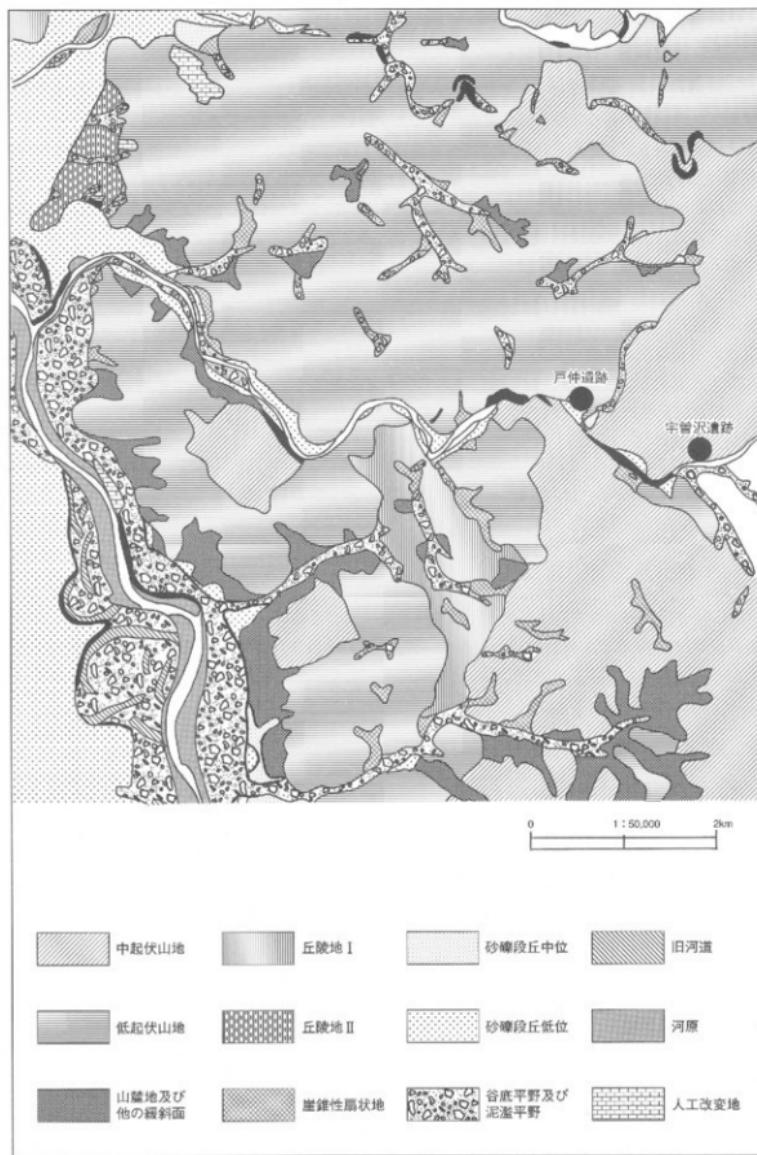
戸仲・宇曾沢遺跡が所在する盛岡市川目地区は盛岡市の東部にあたり、北上山地の北西部に位置する。戸仲遺跡はJR東北本線盛岡駅から南東に約8.7kmの盛岡市川目第4地割60番地16ほかに位置する。宇曾沢遺跡はさらに東に約3.0kmの位置にある。北上山地に源を発する篠川は盛岡市東部をほぼ西流して北上川に合流する。

### 2 地形と地質(第2図)

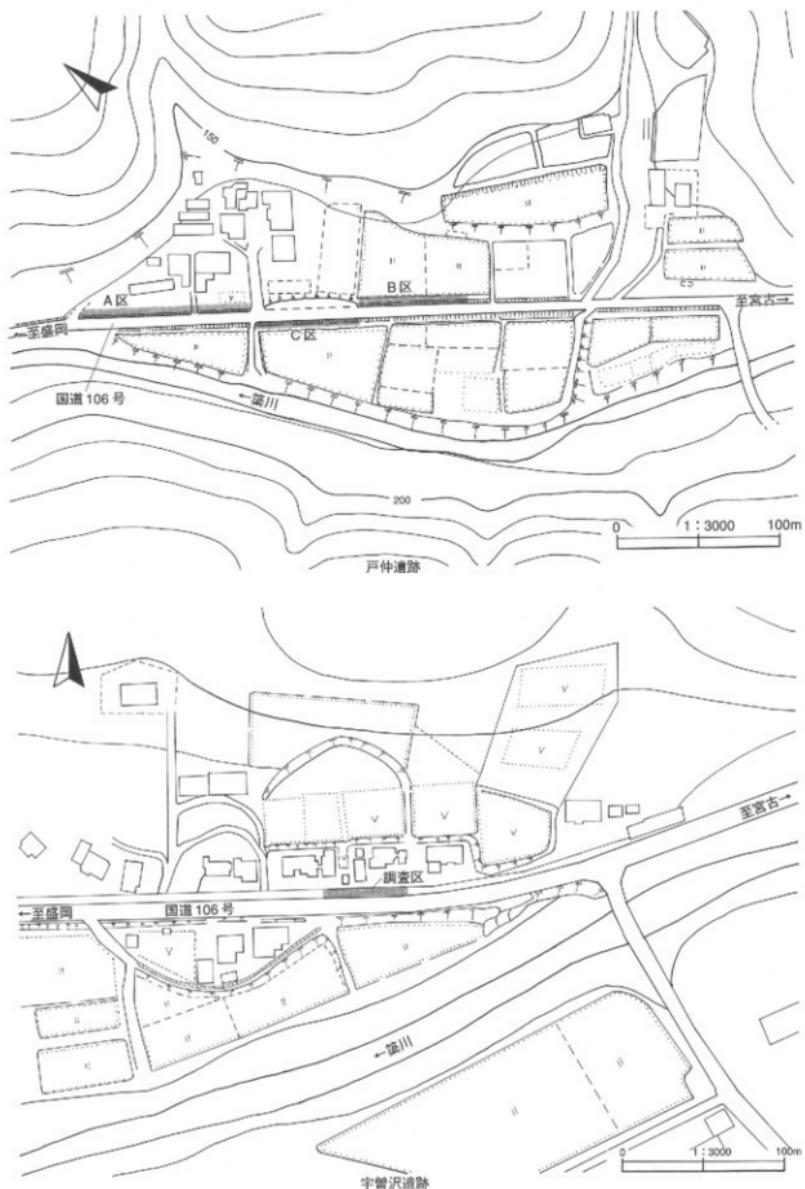
遺跡のある北上山地は中央部の早池峰山(標高1,914m)を最高峰に剣ヶ峰(1,827m)・中岳(1,679m)・鶏頭山(1,445m)・毛無森山(1,427m)などとともに、東西に連なる早池峰連峰を形成し、両側には薬師岳(1,645m)があるが、これらを除くと、比較的なだらかな山地が広がっている。遺跡のある盛岡市川目地区周辺でも、遺跡の南側を流れる篠川を挟んで北側に寒風山(428m)・建石山(標高661m)・戸中山(標高378m)、南側に日向林山(313m)・朝島山(標高607m)・鬼ヶ瀬山(標高724m)など北上山地起源の中小起伏山地に囲まれ、これらの山間部を流れる沢や河川によって開析されて形成された、わずかな砂礫段丘・氾濫平野が広がっている。

地質をみると、中・古生界の北上山地は先シルル紀の基盤岩類、シルル系(オルドビス系?)~下部白亜系の堆積岩類と、これらを貫く前期白亜紀花崗岩類でおもに構成される。北上山地は、盛岡-早池峰連峰-篠石にいたる早池峰構造体を挟んで、南部北上山地・北部北上山地にわけられ、南部北上山地は南部北上帯に属し、北部北上山地は西側の葛巻-釜石帶・東側の安家-田野畠帯にわけられている。

戸仲・宇曾沢遺跡の所在する盛岡市川目地区は北上山地中央部西側に位置し、「早池峰構造体」に



第2図 遺跡周辺の地形分類図



第3図 遺跡周辺の地形図

のる。川口地区を含む盛岡東方地域の早池峰構造体の古生界の岩層はチャート・チャートラミナイト・珪質頁岩などを伴う他地域と異なり、砂子沢層・川口層にみられるような頁岩・砂岩・塩基性の火山岩類でおもに基盤が構成され、これに表層堆積物として泥岩・輝緑凝灰岩がみられる。

### 3 遺跡周辺の歴史的環境

#### (1) 盛岡市の遺跡

平成17年3月現在、岩手県遺跡情報検索システムによれば、盛岡市内では733箇所の遺跡が登録されている。そのうち縄文時代のものは471遺跡で全体の約64%を占める。縄文時代の遺跡の多くは山間部・丘陵部間に流れる川（沢）沿いの段丘上の緩斜面部に立地し、対して、古代以降の遺跡の多くが、北上川の流れによって開析された沖積平野上に平坦な場所に立地している傾向が伺える。また、盛岡南部の沖積平野部分は急速な都市開発で、遺跡の発掘調査も多く行われ、古代を中心多く調査成果をあげているが、一方で、本宮熊堂A遺跡のように縄文時代の遺構・遺物が見つかっている遺跡もあり、平坦な沖積平野にも縄文時代の人々が暮らしていたことが明らかになった。

ただし、全体としては、沖積平野に占地する縄文時代の遺跡は段丘あるいは山地に位置する遺跡に比べて少ない傾向にある。

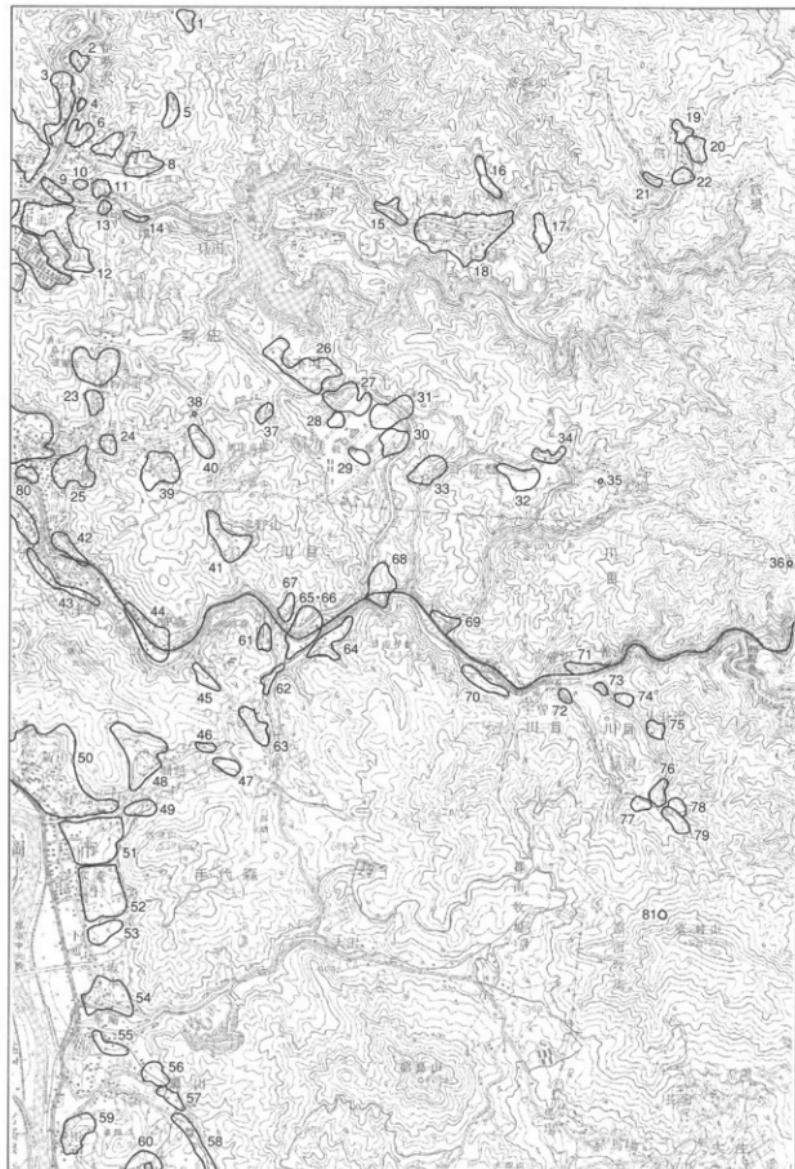
#### (2) 周辺の遺跡

本遺跡の周辺に分布する81遺跡を掲載した。時代別にみると古代の遺跡は八木沢山・郷ヶ沢・本宮の3遺跡と少ない。中世は城館跡である川目館（30）、手代森館（52）、近世は一單塚である高畠一里塚（35）、大倉峰一里塚（36）、八木田一里塚（38）、中近世の神社跡である榮師山遺跡（10）を除く72箇所が縄文時代の遺跡である。このうち至沢（1）・堀越I（48）が弥生時代との複合遺跡で、下八木田（26）・八木田I（27）・八木田II（28）・八木田III（29）・八木田V（31）、滝ノ上A（39）、滝ノ上B（40）、道達（44）などを含む17遺跡が古代との複合遺跡である。これらは篠川に代表されるような山間部を流れる川や沢によって開析された段丘上に立地している。これまでに遺跡周辺で行われた発掘調査では平成2年・3年に新盛岡競馬場建設に伴って行われた八木田遺跡群（旧上八木田I～V遺跡）の発掘調査で縄文時代前期後葉～晩期・弥生時代・平安時代と複数時期にわたって遺跡が存在していることが確認された。また、戸仲遺跡・宇曾沢遺跡と同じ染川流域では左岸の河岸段丘に立地する川目A遺跡（64）で第1次～第5次調査（昭和28・30・31年、平成12・18年）が行われ、縄文時代中期～晩期の遺構・遺物がみつかり、中でも県内でも稀な配石遺構が多数検出された。他にも同じ染川流域で川目C遺跡（66）や仁反田遺跡（80）の調査が盛岡市教育委員会によって調査され、川目C遺跡からは縄文中期の竪穴住居跡が約300棟、貯蔵穴約900基、仁反田遺跡では深さ5mもある縄文時代中期の土坑が発見される成果が得られている。近年、岩手県教育委員会事務局生涯学習課および盛岡市教育委員会が行った分布調査で篠川流域の段丘上から縄文時代の遺物等が見つかっており、未発見の遺跡の存在や遺跡範囲の拡大の可能性も考えられる。なお、掲載した唯一の中世城館である川目館は岩手県教育委員会作成による『岩手県遺跡情報検索システム』では堀跡・郭部と掲載されているが、本格的な調査は行われていない。

第1表 周辺遺跡一覧表

No	遺跡名	ふりがな	種別	時代	時期
1	郷沢	いたりざわ	散布地	縄文・弥生	
2	伊勢沢	いせざわ	散布地	縄文	縄文土器

3 大豆門	まめかど	敷地	説文 訓文	編文上部（中・後期）	
4 下米門	しもまい	敷地	説文 訓文	編文下部（中期）	
5 車ノ沢	くるまのさわ	敷地	説文 訓文	漢文上部（前・中期）	
6 馬籠井	ばのい	敷地	説文 訓文	編文上部	
7 一本松	いっぽんまつ	敷地	説文 訓文	編文上部（草・後期）	
8 一本松沢	いっぽんまつざわ	敷地	説文 訓文	編文上部（中・後期）	
9 斎師林	さいじりん	敷地	説文 訓文	鶴子土器（草・中期）	
10 座師山	ざくしやま	神社	近世 説文 訓文	御室跡、平湯	
11 アカトリ	あかとり	敷地	説文 訓文	鶴子土器（中・後期）、土師器	
12 南無	なんむ	敷地	説文 訓文	鶴子土器（中・後期）、土師器	
13 八木沢山	やぎさわさん	地名	古代 説文 訓文	土師器	
14 菊水平	きくひょう	敷地	説文 古文 訓文	鶴文上部（中・後期）、土師器	
15 ユドコ山	ユドコサン	敷地	説文 古文 訓文	鶴文上部（中期）	
16 大馬ヶ渓	おおまがせき	敷地	説文 古文 訓文	鶴文上部（中・後期）	
17 伊ノ平	いのひら	さきのだいら	敷地	説文 古文 説文 説文 説文	鶴文上部（早・中期）、土師器
18 大裏	おおさと	おおさと	敷地	説文 古文 説文 説文	鶴文上部
19 上弓	じょうゆみ	おおさと	敷地	説文 古文 説文 説文	鶴文上部、土師器
20 元柳原	もとのやなな	おおさと	敷地	説文 古文 説文 説文	鶴文上部
21 向	むかひ	おおさと	敷地	説文 古文 説文 説文	鶴文上部
22 先臣	さきしん	おおさと	敷地	説文 古文 説文 説文	鶴文上部
23 沢山崩	さわさんくずれ	敷地	説文 古文 説文	鶴文上部（早・後期）、土師器、土壤	
24 白鳥	しらとり	敷地	説文 古文 説文	鶴文上部（中・後期）	
25 和手	わて	敷地	説文 古文 説文	鶴文上部、土師器	
26 下八木田	しもやぎた	敷地	説文 古文 説文	鶴文上部（早・後期）、土師器	
27 八木田Ⅰ	やぎたⅠ	敷地	説文 古文 説文	鶴文上部（中・後期）、土師器、丘上・八木田Ⅰ	
28 八木田Ⅱ	やぎたⅡ	築高跡	説文 古文 説文	鶴文上部（中・後期）、土師器、土塁、櫛火七尻跡、丘上・八木田Ⅱ	
29 八木田Ⅲ	やぎたⅢ	築高跡	説文 古文 説文	鶴文上部（中・後期）、土塁、櫛火七尻跡、丘上・八木田Ⅲ	
30 八木田Ⅳ	やぎたⅣ	築高跡	説文 古文 説文	鶴文上部（中・後期）、土塁、櫛火七尻跡、丘上・八木田Ⅳ	
31 八木田Ⅴ	やぎたⅤ	築高跡	説文 古文 説文	鶴文上部（中・後期）、土塁、櫛火七尻跡、丘上・八木田Ⅴ	
32 高幅A	たかひだA	敷地	説文 古文 説文	鶴文上部（中・後期）、土師器、土塁、櫛火七尻跡、丘上・八木田Ⅵ	
33 高幅B	たかひだB	敷地	説文 古文 説文	鶴文上部（中・後期）、土師器、土塁、櫛火七尻跡、丘上・八木田Ⅶ	
34 高幅C	たかひだC	敷地	説文 古文 説文	鶴文上部（中・後期）、土師器、土塁、櫛火七尻跡、丘上・八木田Ⅷ	
35 高幅一塙原	たかひだいつちづら	一塙原	説文 古文 説文	鶴文上部（中・後期）、土塁、櫛火七尻跡、丘上・八木田Ⅸ	
36 大金峰、当塙	おおくらとうげひらりづか	一塙原	説文 古文 説文	鶴文上部（中・後期）、土塁、櫛火七尻跡、丘上・八木田Ⅹ	
37 ト八木田	トやぎた	敷地	説文 古文 説文	鶴文上部（中・後期）、土塁、櫛火七尻跡、丘上・八木田Ⅺ	
38 八木庄・里塙	やぎやう・さとさか	里塙	説文 古文 説文	鶴文上部（中・後期）、土塁、櫛火七尻跡、丘上・八木田Ⅻ	
39 鹿ノトA	かののうとA	敷地	説文 古文 説文	鶴文上部（中・後期）、土塁、櫛火七尻跡、丘上・八木田Ⅼ	
40 鹿ノトB	かののうとB	里塙	説文 古文 説文	鶴文上部（中・後期）、土塁、櫛火七尻跡、丘上・八木田Ⅽ	
41 沢原	なきはら	敷地	説文 古文 説文	鶴文上部（中・後期）、土塁、櫛火七尻跡、丘上・八木田Ⅾ	
42 字座原	なづざわら	敷地	説文 古文 説文	鶴文上部（中・後期）、土塁、櫛火七尻跡、丘上・八木田Ⅿ	
43 川口寺沢	かわぐちでらさわ	敷地	説文 古文 説文	鶴文上部（中・後期）、土塁、櫛火七尻跡、丘上・八木田ⅰ	
44 道塙	みちぢがい	敷地	説文 古文 説文	鶴文上部（中・後期）、土塁、櫛火七尻跡、丘上・八木田ⅰ	
45 ブナト	ぶなと	敷地	説文 古文 説文	鶴文上部（中・後期）、土塁、櫛火七尻跡、丘上・八木田ⅰ	
46 金糞沢I	かなほりざわⅠ	敷地	説文 古文 説文	鶴文上部（中・後期）、土塁、櫛火七尻跡、丘上・八木田ⅰ	
47 金糞沢II	かなほりざわⅡ	敷地	説文 古文 説文	鶴文上部（中・後期）、土塁、櫛火七尻跡、丘上・八木田ⅰ	
48 墓蔵	はこそし	敷地	説文 古文 説文	鶴文上部（中・後期）、土塁、櫛火七尻跡、丘上・八木田ⅰ	
49 平代奈筆の森	ひらしろなびのもり	敷地	説文 古文 説文	鶴文上部（中・後期）、土塁、櫛火七尻跡、丘上・八木田ⅰ	
50 畠寺日	はたけじひ	敷地	説文 古文 説文	鶴文上部（中・後期）、土塁、櫛火七尻跡、丘上・八木田ⅰ	
51 墓ノ原	やなのはら	敷地	説文 古文 説文	鶴文上部（中・後期）、土塁、櫛火七尻跡、丘上・八木田ⅰ	
52 平代森脇	ひらしろもりわき	森脇	説文 古文 説文	鶴文上部（中・後期）、土塁、櫛火七尻跡、丘上・八木田ⅰ	
53 高見	たかみ	敷地	説文 古文 説文	鶴文上部（中・後期）、土塁、櫛火七尻跡、丘上・八木田ⅰ	
54 平代春	ひらしろし	角落	説文 古文 説文	鶴文上部（中・後期）、土塁、櫛火七尻跡、丘上・八木田ⅰ	
55 墓の山	みねのやま	敷地	説文 古文 説文	鶴文上部（中・後期）、土塁、櫛火七尻跡、丘上・八木田ⅰ	
56 継ヶ沢	つがさわ	敷地	説文 古文 説文	鶴文上部（中・後期）、土塁、櫛火七尻跡、丘上・八木田ⅰ	
57 本宮	もとみや	敷地	説文 古文 説文	鶴文上部（中・後期）、土塁、櫛火七尻跡、丘上・八木田ⅰ	
58 清瀬	きよせ	敷地	説文 古文 説文	鶴文上部（中・後期）、土塁、櫛火七尻跡、丘上・八木田ⅰ	
59 本宮	もとみや	敷地	説文 古文 説文	鶴文上部（中・後期）、土塁、櫛火七尻跡、丘上・八木田ⅰ	
60 下道	したみち	敷地	説文 古文 説文	鶴文上部（中・後期）、土塁、櫛火七尻跡、丘上・八木田ⅰ	
61 高尾	たかお	敷地	説文 古文 説文	鶴文上部（中・後期）、土塁、櫛火七尻跡、丘上・八木田ⅰ	
62 曲ノ沢B	まのくわB	敷地	説文 古文 説文	鶴文上部（中・後期）、土塁、櫛火七尻跡、丘上・八木田ⅰ	
63 曲ノ沢C	まのくわC	敷地	説文 古文 説文	鶴文上部（中・後期）、土塁、櫛火七尻跡、丘上・八木田ⅰ	
64 川口A	かわぐちA	敷地	説文 古文 説文	鶴文上部（中・後期）、土塁、櫛火七尻跡、丘上・八木田ⅰ	
65 川口B	かわぐちB	敷地	説文 古文 説文	鶴文上部（中・後期）、土塁、櫛火七尻跡、丘上・八木田ⅰ	
66 川口C	かわぐちC	敷地	説文 古文 説文	鶴文上部（中・後期）、土塁、櫛火七尻跡、丘上・八木田ⅰ	
67 川口D	かわぐちD	敷地	説文 古文 説文	鶴文上部（中・後期）、土塁、櫛火七尻跡、丘上・八木田ⅰ	
68 川口E	かわぐちE	敷地	説文 古文 説文	鶴文上部（中・後期）、土塁、櫛火七尻跡、丘上・八木田ⅰ	
69 丹神	たんじん	敷地	説文 古文 説文	鶴文上部（中・後期）、土塁、櫛火七尻跡、丘上・八木田ⅰ	
70 小畠野	こばの	敷地	説文 古文 説文	鶴文上部（中・後期）、土塁、櫛火七尻跡、丘上・八木田ⅰ	
71 平曾野	ひらその	敷地	説文 古文 説文	鶴文上部（中・後期）、土塁、櫛火七尻跡、丘上・八木田ⅰ	
72 タキノ沢	たきのさわ	敷地	説文 古文 説文	鶴文上部（中・後期）、土塁、櫛火七尻跡、丘上・八木田ⅰ	
73 人神沢A	ひとかみさわA	敷地	説文 古文 説文	鶴文上部（中・後期）、土塁、櫛火七尻跡、丘上・八木田ⅰ	
74 大神沢B	だいじんさわB	敷地	説文 古文 説文	鶴文上部（中・後期）、土塁、櫛火七尻跡、丘上・八木田ⅰ	
75 大神沢C	だいじんさわC	敷地	説文 古文 説文	鶴文上部（中・後期）、土塁、櫛火七尻跡、丘上・八木田ⅰ	
76 沢西A	さわにしA	敷地	説文 古文 説文	鶴文上部（中・後期）、土塁、櫛火七尻跡、丘上・八木田ⅰ	
77 沢西B	さわにしB	敷地	説文 古文 説文	鶴文上部（中・後期）、土塁、櫛火七尻跡、丘上・八木田ⅰ	
78 沢西C	さわにしC	敷地	説文 古文 説文	鶴文上部（中・後期）、土塁、櫛火七尻跡、丘上・八木田ⅰ	
79 沢西D	さわにしD	敷地	説文 古文 説文	鶴文上部（中・後期）、土塁、櫛火七尻跡、丘上・八木田ⅰ	
80 仁坂田	にんざた	里塙	説文 古文 説文	鶴文上部（中・後期）、土塁、櫛火七尻跡、丘上・八木田ⅰ	
81 鬼ヶ瀬山洞穴	おにがせわ	洞穴	説文 古文 説文	鶴文上部（中・後期）、土塁、櫛火七尻跡、丘上・八木田ⅰ	



第4図 周辺の遺跡分布図

### III 調査の経過と方法

#### 1 野外調査の経緯

- 7月18日 戸仲遺跡第1次調査開始。現場設営・環境整備（安全対策用単管設置）。
- 7月27日 戸仲遺跡基準点設置。
- 8月8日 盛岡地方振興局土木部と旧地権者との調整のため調査中断。
- 8月17日 調査再開。
- 9月1日 宇曾沢遺跡第2次調査開始。環境整備。
- 9月4日 宇曾沢遺跡基準点設置。
- 9月12日 宇曾沢遺跡終了確認。戸仲遺跡部分終了確認で県交通バス停（宮古→盛岡側）建設予定地部分（C区）の調査を中止・埋め戻しすることを確認。
- 9月19日 戸仲遺跡・宇曾沢遺跡の航空写真撮影実施。（東邦航空株式会社）
- 9月26日 宇曾沢遺跡第2次調査終了。
- 10月12日 戸仲遺跡終了確認。
- 10月13日 戸仲遺跡配石遺構平面図作成測量業務実施。（株式会社シン技術コンサルによる）
- 11月2日 戸仲遺跡第1次調査終了。現場撤収。
- （＊終了確認および部分終了確認はいずれも委託者・岩手県教育委員会・理文センターの3者による）

#### 2 野外調査の方法

##### (1) 調査区の設定

###### 戸仲遺跡第1次調査

本遺跡は県交通バスの停留所を挟んで大きく2つに分かれる。そこで便宜的に北西側（盛岡側）の調査区をA区、東南側（宮古側）をB区とした。国道106号盛岡-宮古線を挟んだ川側の調査区をC区とした。

###### 宇曾沢遺跡第2次調査

調査区の中央部に車庫が出入りする進入路があったため調査時は便宜上西側からA区・B区・AB区という名称を用いたが、報告にあたってはこれらの名称は使用していない。また、当初調査予定に含まれていた民家進入路から東側の箇所については調査は行わなかった。

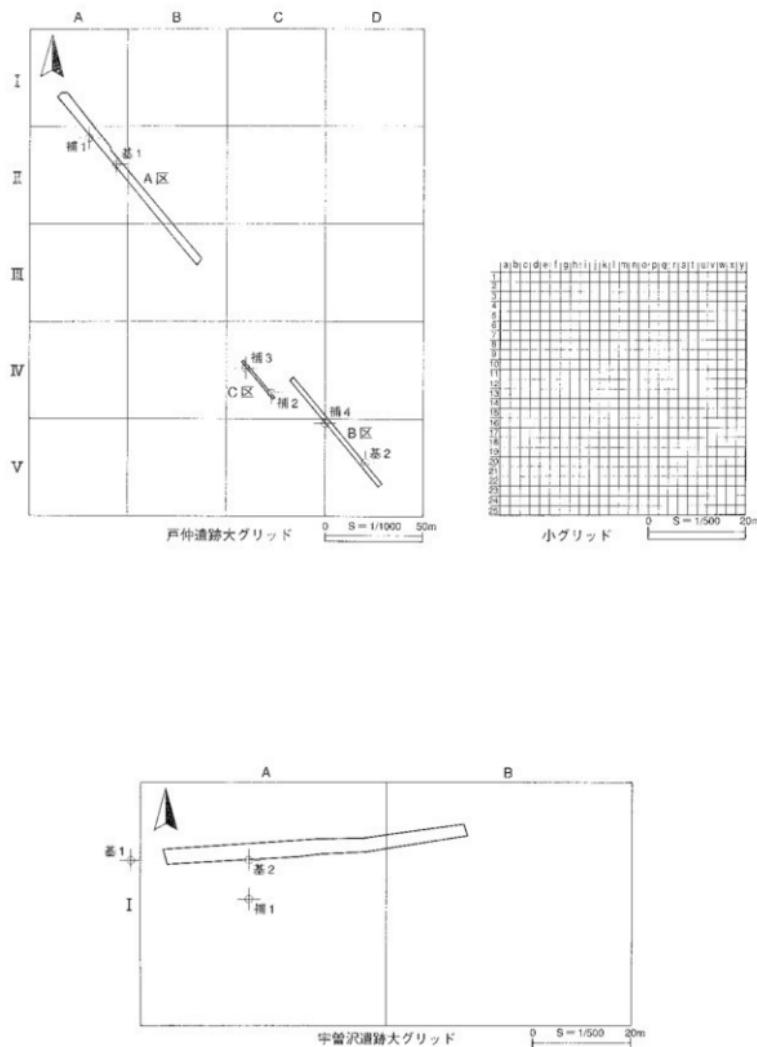
##### (2) グリッドの設定

###### 戸仲遺跡第1次調査

平面直角座標第X系のX = -35,800.000, Y = 33,750.000を原点として 50 × 50 m の大グリッドを設定し、これを 25 等分し、2 × 2 m の小グリッドとしている。大グリッドの呼称は原点を起点に南北方向へ I ~ V、東西方向へ A ~ D、小グリッドの呼称は南北方向へ 1 ~ 25、東西方向へ a ~ y としている。小グリッドの呼称は I A1a となる。

###### 宇曾沢遺跡第2次調査

平面直角座標第X系のX = -36,550.000, Y = 35,450.000を原点として 50 × 50 m の大グリッドを設定し、これを 25 等分し、2 × 2 m の小グリッドとしている。大グリッドの呼称は原点を起点に南北方向



第5図 グリッド配置図

へ1、東方向へA・B、小グリッドの呼称は南方向へ1～25、東方向へa～yとしている。小グリッドの呼称はIA1aとなる。

### (3) 基準点の設定

遺構の実測に利用するため調査区内に基準点および補助点を株式会社ハイマーテックに委託して打設した。各基準点および補助点の成果値と杭高は第2表にまとめた。これらはいずれも世界測地系によるものである。

第2表 基準杭・補助杭一覧

戸仲遺跡第1次調査				宇曾沢遺跡第2次調査			
点名	X	Y	H	点名	X	Y	H
基準点1	-35,870.000	33,794.000	188.738	基準点1	-36,566.000	35,448.000	211.581
基準点2	-36,022.000	33,920.000	190.664	基準点2	-36,566.000	35,472.000	210.764
補助点1	-35,856.000	33,780.000	189.757	補助点1	-36,574.000	35,472.000	210.886
補助点2	-35,986.000	33,872.000	190.196				
補助点3	-35,974.000	33,860.000	189.778				
補助点4	-36,002.000	33,900.000	190.466				

※単位はm。

### (4) 表上除去と遺構の検出

戸仲遺跡第1次・宇曾沢遺跡第2次の調査に先立って、岩手県教育委員会事務局生涯学習文化課による事前の試掘調査が実施されている。

#### ＜戸仲遺跡第1次調査＞

事前の試掘トレンチは調査区の東側（B区）のみで、西側（A区）・中央部（C区）は行われていない。試掘の結果、土坑・柱穴状土坑などの遺構とともに多量の縄文時代の土器・石器が出土している。またこの試掘によって、調査区全体に盛土（水田・畑地のため）が厚く堆積していることが、予想されたため、表土除去は重機で行い、その下の縄文時代面の検出は人力によって行ったが、遺構・遺物がないと予想される箇所（A区西側）については重機も併用した。また、C区については道路法面と水田の間で調査区幅が1m未満と狭く、調査区が細長いため、重機を搬入できなかったため、人力によって表土除去および遺構の検出を行った。さらに調査によって生じた廃土を置く場所がなく、その細長い調査区内での仮置きを余儀なくされたため、検出にかなりの時間と手間を要した。

#### ＜宇曾沢遺跡第2次調査＞

事前の試掘トレンチは調査区の西側のみで、この際に土坑（調査の結果風倒木痕と判明）および縄文土器・石器が確認されている。試掘によって、調査区全体に盛土が厚く堆積していることが、判明したため、表土除去は重機で行い、縄文時代面の検出は人力にて行ったが、上面で遺構・遺物がない箇所については重機を併用した。

### (5) 遺構の精査と実測

戸仲遺跡および宇曾沢遺跡で検出された遺構は以下の手順で調査を進めた。土坑類・焼土遺構は二分法で行い、埋土の堆積状況の確認を行なながら掘り下げた。戸仲遺跡で検出した配石遺構については遺構検出の段階で外部委託による平面図作成を行い、その後に断ち割り・掘り込みの確認を行った。柱穴状土坑については検出時に柱痕を確認し、光波トランシットにより平面図に記入後、セクションベルトを設け、断面確認→完掘の順で作業を行った。縮尺は、調査区全体図および遺構配置図が1/100、土坑類・配石遺構・柱穴状土坑が1/20、焼土遺構が1/10で行った。

### (6) 遺物の取り上げ方

遺物の取り上げは遺構内と遺構外に大別し、遺構内出土遺物については遺構名と相対的層位（検出面・上位・中位・下位・底面）を記し、遺構外出土遺物についてはグリッドおよび出土層位を記して取り上げたが、この際、グリッドをまたいで取り上げたものについてはグリッド名を複数記した。また、取り上げに際しては事前に必要に応じて出土地点の座標値の測量および写真撮影を行っている。

戸仲遺跡第1次調査では調査過程で微細自然遺物（主に動物遺存体）が確認できたため、焼土や炭化物粒が散布する箇所の土壤の一部を採取し、ウォーターセパレーションによる選別回収を試みた。この際にフルイは1mmメッシュを使用した。

### (7) 写 真 摄 影

調査記録用に35mmモノクロームとカラースライド各1台、モノクローム6×7cm判カメラを使用した。また、調査時の補助としてデジタルカメラを使用した。撮影にあたって、整理時の混乱を防ぐため撮影内容を記入した撮影カードを対象遺構撮影前に撮影している。その他、調査期間中にセスナ機による航空写真撮影を実施した。

## 3 室内整理の手順と方法

### (1) 作 業 経 過

戸仲遺跡第1次調査および宇曾沢遺跡第2次調査の室内整理期間は前述の例言のとおりで、整理作業は出土遺物の洗浄と遺物の仕分けは野外調査と平行して現地で行った。室内整理期間中は戸仲遺跡が4名、宇曾沢遺跡が1名の作業員が作業に従事し、土器の接合・復元作業・実測図作成・拓影作成・トレースなどの作業を行った。整理担当者はこれらの作業の確認・点検と平行して、図面合成・原稿執筆・各種観察表の作成等の作業を実施した。

### (2) 遺 物

現場で洗浄した遺物の注記作業から開始し、続いて接合・復元を行った。その過程で本書に掲載するものを抽出し、それらの実測図を作成、トレースした。抽出にあたっては遺構内のものについては小破片でもなるべく掲載するようにした。遺構外のものについては出土地点・層位・文様の特徴などを考慮して選別した。石器についても同様である。また、石器については表土・盛土・攪乱から出土したものが多く、層位的な検証からは除外されるが、本来、遺跡内に埋蔵されていたものであることが確実であり、出土傾向の参考になることから掲載した。実測と平行して、これらを撮影し、合わせて登録作業を行った。

### (3) 遺 構

実測図を点検・合成しながら遺構の検討を行った。その後、第2原図を作成し、そのトレースを行った。また、野外調査で撮影した遺構の写真も整理し、台帳登録をしている。その後、掲載するものを抽出し、トリミングなどを行った後に写真図版とした。

#### (4) 掲載図

<戸仲遺跡第1次調査>

掲載している遺構の縮尺は平面図・断面図ともに土坑・配石遺構は1/40、焼土を1/20、柱穴状土坑は平面図は遺構配置図のみで断面図は1/40とした。また、遺物掲載は土器は1/3を基本としたが、大形の深鉢土器を1/5、鉢形土器を1/4とした。他にミニチュア土器は1/2、剥片石器を1/2、礫石器1/3・1/4・1/5、土製品・石製品を1/2を基本とした。ただし、一部異なるものもあるため、各図にスケールおよび縮尺を付した。また、図中において土器は「p」、石器・礫は「s」と表記した。スクリーントーンの使用は凡例図(第6図)のとおりであるが、これ以外の使用については使用箇所に用例を表記した。なお写真図版については縮尺不定である。

<宇曾沢遺跡第2次調査>

掲載している遺構の縮尺は平面図・断面図ともに土坑・陥し穴状遺構1/40、焼土を1/20、柱穴状土坑は遺構配置図の平面図のみで断面図はない。また、遺物掲載は土器は1/2、剥片石器を原寸大、礫石器は磨石1/3、石皿1/4を基本としている。写真図版については縮尺不定である。

#### (5) 掲載した遺構の名称

遺構の名称については盛岡市教育委員会で使用している略号に準じて付している。遺構略号は以下のとおりであり、これによる現場で使用した遺構名称と本報告書に記載した遺構名称の変更は下表のとおりである。

RD…土坑・陥し穴状遺構

RF…焼土遺構

RH…配石遺構

RP…遺物集中区

P…柱穴状土坑

掲載した遺構番号

<戸仲遺跡第1次調査> <宇曾沢遺跡第2次調査>

RD001～RD006

RD001～RD002

RF001～RF006

RF001～RF002

RH001～RH010

RP001

第3表 遺構名一覧表

戸仲遺跡第1次調査

掲載遺構名	旧遺構名	掲載遺構名	旧遺構名	掲載遺構名	旧遺構名	掲載遺構名	旧遺構名
RD001	1号土坑	RF005	9号焼土	RH010	16号配石	P12	12号柱穴
RD002	2号土坑	RF006	6号焼土	P1	1号柱穴	P13	13号柱穴
RD003	3号土坑	RH001	1号配石	P2	2号柱穴	P14	14号柱穴
RD004	7号土坑	RH002	2号配石	P3	3号柱穴	P15	15号柱穴
RD005	5号土坑	RH003	4号土坑	P4	4号柱穴	P16	16号柱穴
RD006	6号土坑	RH004	4号配石	P5	5号柱穴	P17	17号柱穴
RF001	1号焼土	RH005	5号配石	P6	6号柱穴	P18	18号柱穴
RF002	2号焼土	RH006	6号配石	P7	7号柱穴	P19	19号柱穴
RF003	3～5号・ 7号焼土	RH007	7号配石	P8	8号柱穴	P20	20号柱穴
		RH008	15号配石	P9	24号柱穴	P21	21号柱穴
RF004	8号焼土	RH009	9号配石	P10	10号柱穴	P22	22号柱穴
				P11	11号柱穴	P23	23号柱穴

宇曾沢遺跡第2次調査

掲載遺構名	旧遺構名
RD001	1号十灰
RD002	1号陥し穴
RF001	1号焼土
RF002	2号焼土
P1	1号柱穴

### (6) 遺跡名について

本報告書内においては戸仲遺跡・宇曾沢遺跡と表記されているものは今回の調査区を含む周知の遺跡範囲全体を示すが、同じ項においては戸仲遺跡第1次および宇曾沢遺跡第2次の第●次を省略したものもあり、必要に応じて第●次を付した。

## 4 外 部 委 託

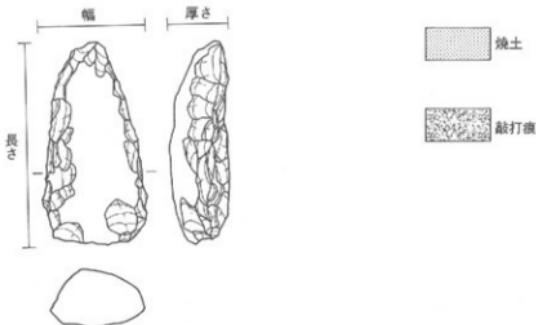
調査で得られた遺物を客観的に評価するために理化学的な分析を行った。その業務は外部機関に委託している。この結果はいずれも附図として掲載している。

### (1) 火山灰分析

株式会社古環境研究所に依頼した。分析したのはバス停西側の調査区における遺物集中区下層の第V層からサンプリングしたものである。時期は縄文時代後期面より下層であるが、サンプリングを行った土層およびその下層から遺構・遺物は確認されていない。このため鑑定には、サンプリングしたものが洪水堆積による土砂であるのか、また火山灰であるのかのみに重点を置いた分析に限定したものとした。

### (2) 黒曜石产地同定

株式会社古環境研究所に依頼した。分析をしたのは9点でいずれも縄文時代の遺物包含層から出土したものである。いずれも縄文時代のもので遺構外からの出土による。



第6図 凡例図

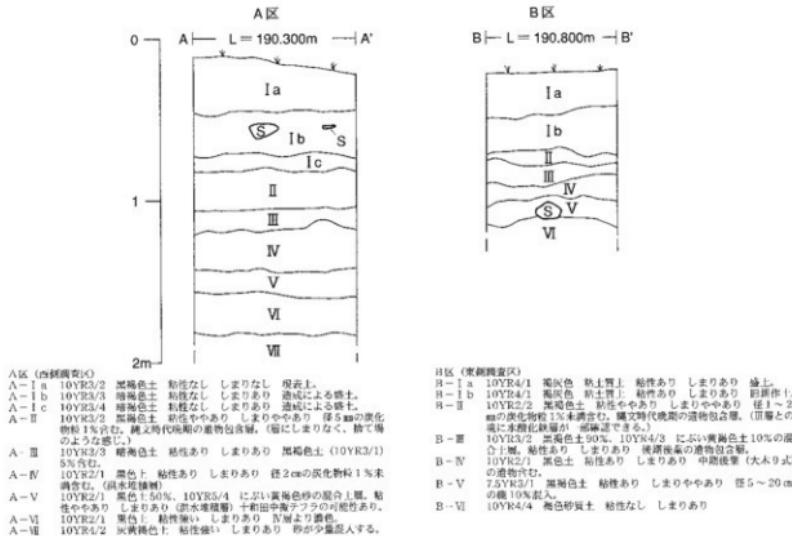
## IV 戸仲遺跡第1次調査

### 1 遺跡の立地

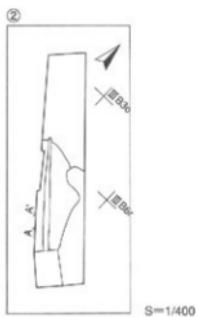
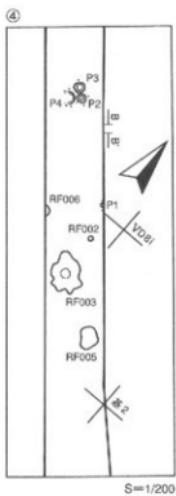
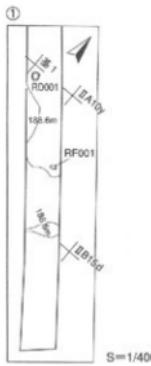
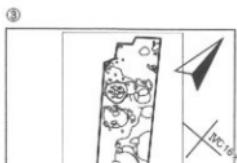
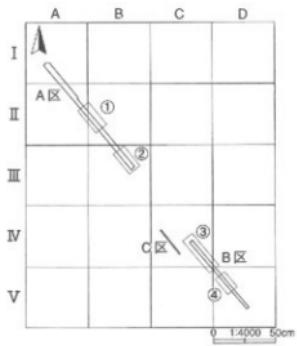
戸仲遺跡が所在する盛岡市川目地区は盛岡市の東部にあたり、北上山地の北西部に位置する。戸仲遺跡はJR東北本線盛岡駅から南東に約8.7kmの盛岡市川目第4地割60番地16ほかに位置し、築川によって形成された河岸段丘上に立地する。遺跡の現況は国道106号と宅地・水田・畑地などである。

### 2 基本土層

調査区A区・B区を分断するように沢が流れしており、この沢を挟んでB区（築川上流）側が一段高い段丘であり、A区（築川下流）側は近年まで洪水の影響を大きく受けた箇所で、木舗装道路から舗装へとなる昭和40年代後半以降に実施された国道の改良工事に伴って盛土造成され、現在のような地形になったもので、それを裏付けるように調査では厚く盛られた土砂や縄文後期以前の洪水堆積層と考えられる、にぶい黄褐色火山灰層（中振火山灰）がA区で確認された。また、段丘の切れ目であるA区東端には廃棄したと考えられる縄文時代晚期の遺物が狭い範囲から出土した（RP001）。よって、基本層序は、地形により大きくA区とB区の2つに分かれ、遺物の取り上げに際してはA-I層、B-II層と調査区と層位を併せて表記した。C区に関しては表土除去後すぐに調査が中断されたため、基本土層を確認しておらず、暫定的に表土をC-I層、表土下の暗褐色土層以下（縄文晚期遺物包含層）をC-II層と一括した。遺跡の現況は水田・畑地などでこれらの造成工事などの影響で縄文時代晚期以前までの土層しか残存せず、これ以降の時代の様子は遺物も出土していないことから不明である。

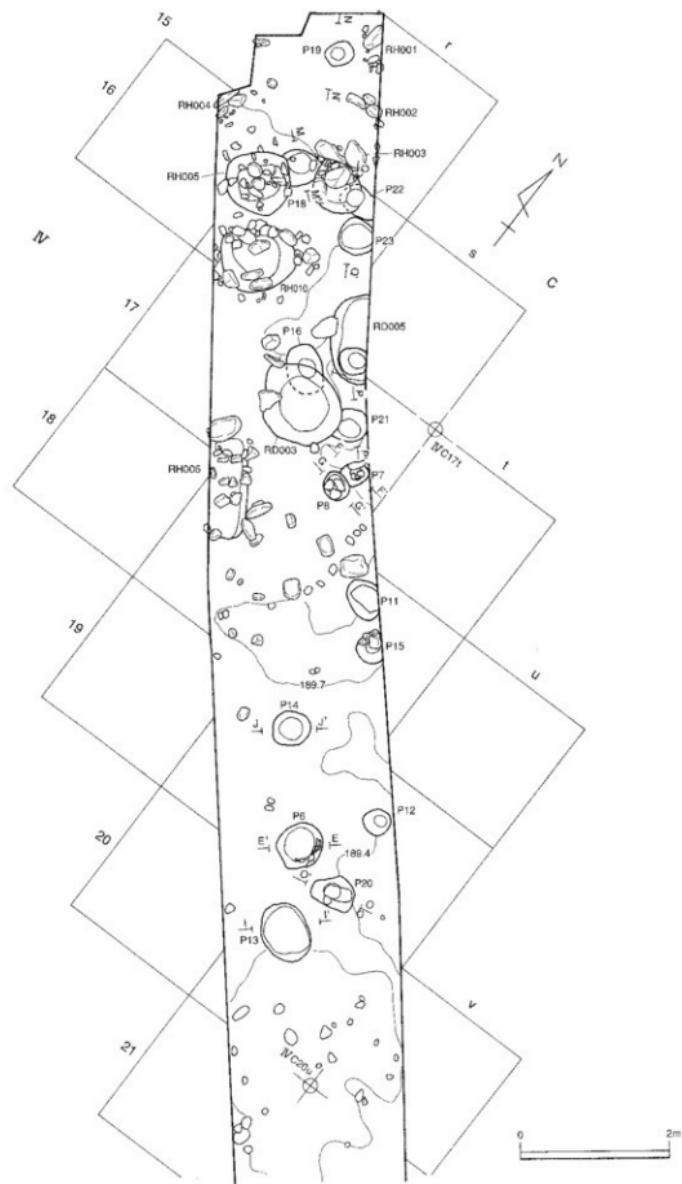


第7図 基本土層

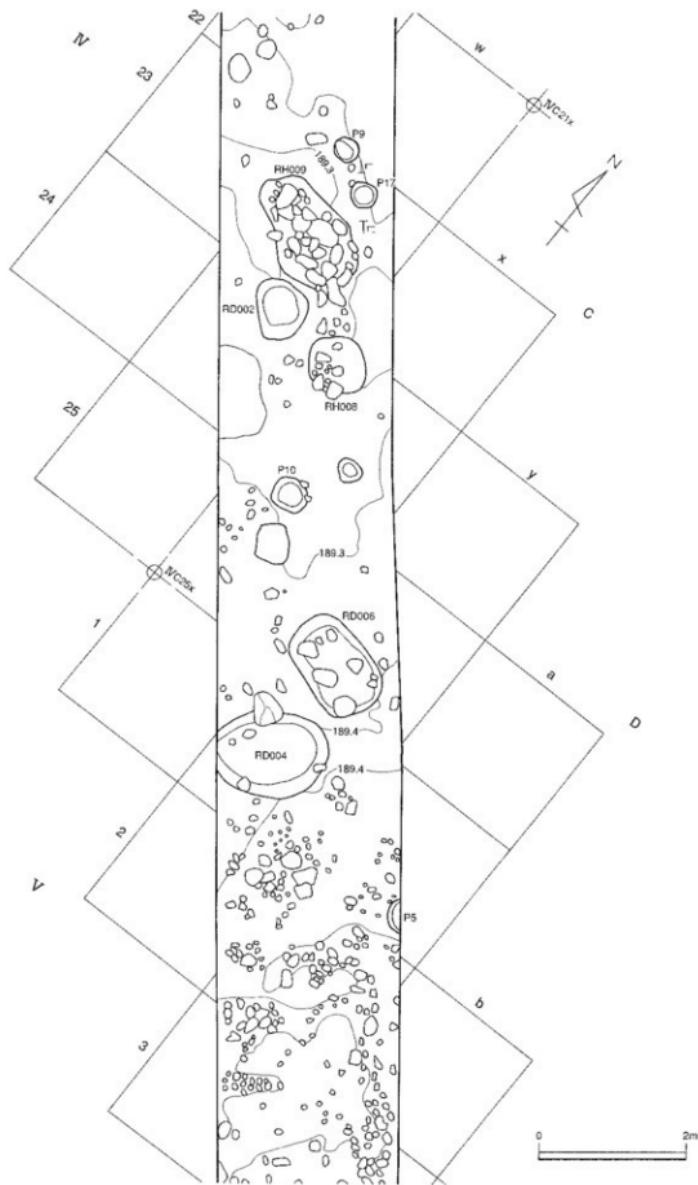


0 1:200 10m

第8図 遺構配置図（全体図）



第9図 遺構配置図 (B区③-1)



第10図 遺構配置図 (B区③-2)

### 3 検出遺構

今回の調査で検出した遺構は土坑6基、焼土6基、配石遺構10基、柱穴状土坑23個である。時期はいずれも縄文時代である。

#### (1) 土 坑

A区で1基、B区で5基が検出された。A区から検出されたRD001は表上下の縄文時代後期の面で検出されたが、遺構から遺物の出土はなく、詳細は不明である。B区から検出されたRD002～RD006は縄文時代後期末葉～晩期中葉に属するもので遺構内から土器片が出土するが、遺構周辺と同様に小破片が多い。各遺構の詳細は以下のとおりである。

##### RD001 土坑（第11図、写真図版3）

＜位置・検出・重複関係＞ A区・IA11wグリッドに位置する。表土除去後に第Ⅳ層で検出した。＜平面形・規模＞ 平面形は円形で、規模は、開口部径70×60cm、底面径54×44cm、深さは14cmを測る。

＜底面・壁面＞ 底面はほぼ平坦で壁面は外傾して立ち上がる。

＜埋土＞ 埋土は3層からなり、堆積状況から自然に埋没したものと推測される。

遺物 なし。

時期 遺構を検出した層位から縄文時代後期に属すると考えられる。

##### RD002 土坑（第11図、写真図版3）

＜位置・検出・重複関係＞ B区・IVC22wとIVC23wグリッドに跨って位置する。表土除去後、第Ⅱ層で検出された。

＜平面形・規模＞ 平面形は梢円形で、規模は開口部径86×70cm、底径54×48cm、深さは11cmを測る。

＜底面・壁面＞ 底面はほぼ平坦で中央がわずかに凹む。壁面はやや内湾して立ち上がる。

＜埋土＞ 南東壁に一部攪乱が見られたが、埋土は2層からなる。埋土の大部分が1層で遺物が多く含まれる。

遺物 埋土1層から深鉢土器片（1～3）、円盤状石製品（371）などが出土した。

時期 遺構から出土した遺物から縄文時代後期後葉頃と考えられる。

##### RD003 土坑（第11図、写真図版3）

＜位置・検出・重複関係＞ B区・IVC17rとIVC17sグリッドに跨って位置する。表土除去後、第Ⅲ層で検出され、P16・P21と重複関係にあり、これらを切る。

＜平面形・規模＞ 平面形は円形を基調とする形状で、規模は開口部径120×100cm、底径92×62cm、深さは30cmを測る。

＜底面・壁面＞ 底面は中央付近に向かって緩く傾斜し、壁面はやや内湾気味に立ち上がる。

＜埋土＞ 埋土は4層からなり、埋土は上～中位は黒褐色シルトで炭化物粒や微細な骨片を含む。中位以下には黒褐色の砂質シルトが堆積する。

遺物 墓土から縄文土器片（4～6）が出土している。

時期 遺構から出土した遺物から縄文時代晩期中葉に属すると考えられる。

RD004 上坑（第11図、写真図版3）

＜位置・検出・重複関係＞ B区・IVC25y グリッドに位置する。表土除去後、第IV層で検出された。遺構の南西側が調査区外へと延びる。

＜平面形・規模＞ 平面形は梢円形で、遺構の一部が遺構外へと延びるため開口部径・底部径は不明、深さは32cmを測る。

＜底面・壁面＞ 底面はほぼ平坦で中央部付近がわずかに凹む。壁面は外傾して立ち上がる。

＜埋土＞ 墓土は4層からなり、上～中位は黒褐色シルト・砂質シルトで遺物を多く含む。下位は褐色砂質土からなり、炭化物粒を微量含む。

遺物 墓土1層から土器片（7・8）などが出土している。

時期 遺構から出土した遺物から縄文時代後期末葉に属すると考えられる。

RD005 土坑（第11図、写真図版4）

＜位置・検出・重複関係＞ B区・IVC15rとIVC16s グリッドに跨って位置する。表土除去後、第II層で検出された。

＜平面形・規模＞ 平面形は円形を基調とする形状で、遺構の一部が遺構外へと延びるため開口部径・底部径は不明、深さは25cmを測る。

＜底面・壁面＞ 底面は南側に向かって緩く傾斜し、壁面は垂直に立ち上がる。

＜埋土＞ 墓土は6層からなり、埋土は上～中位は灰黄褐色シルト・黒褐色シルトで炭化物粒や微細な獸骨片を含む。中位以下は黒褐色の砂質シルトが堆積する。

遺物 墓土2層から縄文土器片（9・10）等が出土した。土器片は深鉢胴部の小片がほとんどで縄文時代後期に属すると考えられるが詳細な時期の判断はできなかった。

時期 遺構を検出した層位・出土した遺物から縄文時代後期に属すると考えられる。

RD006 土坑（第11図、写真図版4）

＜位置・検出・重複関係＞ B区・IVC24yとIVC25y グリッドに跨って位置する。表土除去後、第IV層で検出された。

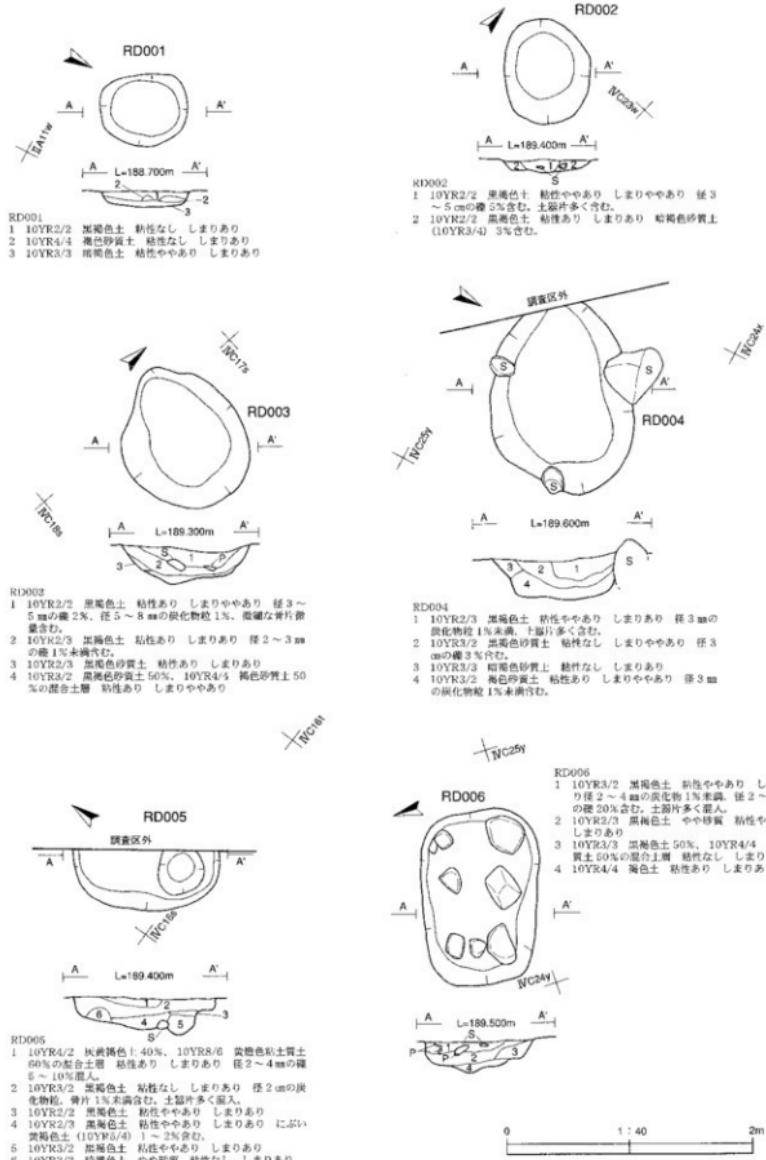
＜平面形・規模＞ 平面形は梢円形を基調とする形状で、規模は開口部径144×92cm、底径124×84cm、深さは26cmを測る。

＜壁面・底面＞ 底面中央はやや凹み、壁面は内湾～外傾して立ち上がる。底面には約20～35cmほどの疊が確認されたが、自然疊であり、疊層直上であることから人為的に置かれたものではないと考えられる。

＜埋土＞ 墓土は4層からなり、上位は黒褐色シルト、中位は黒褐色砂質シルト、下位は褐色シルトである。状況から自然堆積と推測される。

遺物 墓土上位～中位で縄文土器片（11～15）が出土している。

時期 出土した遺物から縄文時代後期後～末葉に属すると考えられる。



第11図 BD001～BD006

## (2) 焼土遺構

焼土遺構は6基検出された。いずれも縄文時代の面で検出した。RF002～RF004・RF006の周辺からは縄文中期後葉、RF005周辺からは縄文時代後期後葉の遺物が出土している。

### RF001 焼土遺構（第12図、写真図版4）

＜位置・検出＞ A区・II B 13a グリッドに位置する。表土下第IV層で検出した。

＜規模・平面形＞ 平面形の形状は円形を呈し、焼土分布範囲は約54×42cmで、全体に褐色焼土を含む。

＜埋土＞ 焼土層は約5cmの単層で、褐色焼土70%、灰黄褐色シルト30%の比率で構成される。

遺物 なし。

時期 遺物を作わないため、時期の詳細は不明であるが、遺構を検出した面から縄文時代に属すると考えられる。

### RF002 焼土遺構（第12図、写真図版4）

＜位置・検出＞ B区・VD9h グリッドに位置する。第IV層で検出した。

＜規模・平面形＞ 平面は不整な円形の形状を呈し、焼土分布範囲は約22×20cmで、全体に遺構中央～西側に褐色焼土が広がっている。

＜埋土＞ 2層に分かれるが、焼土の形成の主体は上層の第1層で、層厚は約3cmで褐色焼土80%、黒褐色土20%の比率で構成される。第2層は黒褐色土が主体で微量の褐色焼土粒を含む。

遺物 なし。

時期 遺構を検出した面から縄文時代中期後葉に属すると考えられる。

### RF003 焼土遺構（第12図、写真図版5）

＜位置・検出＞ B区・VD10hとVD10i グリッドに跨って位置する。第IV層で検出した。

＜規模・平面形＞ 焼土分布範囲は約180×122cmと広く、不整な形状を呈している。焼土の中央は搅乱？によって全体に橙色焼土が広がっている。

＜埋土＞ 4層に分かれるが、焼土形成の主体は上層の第1層～第2層で、第1層は橙色焼土が約20%、第2層には赤褐色焼土粒が微量含まれる。第3層には径8mmほどの炭化物粒が微量含まれるが、焼土粒の混入は認められない。

遺物 遺構検出面から中期後葉の深鉢の破片（135）が出上している。

時期 遺構を検出した面から縄文時代中期後葉に属すると考えられる。

### RF004 焼土遺構（第12図、写真図版5）

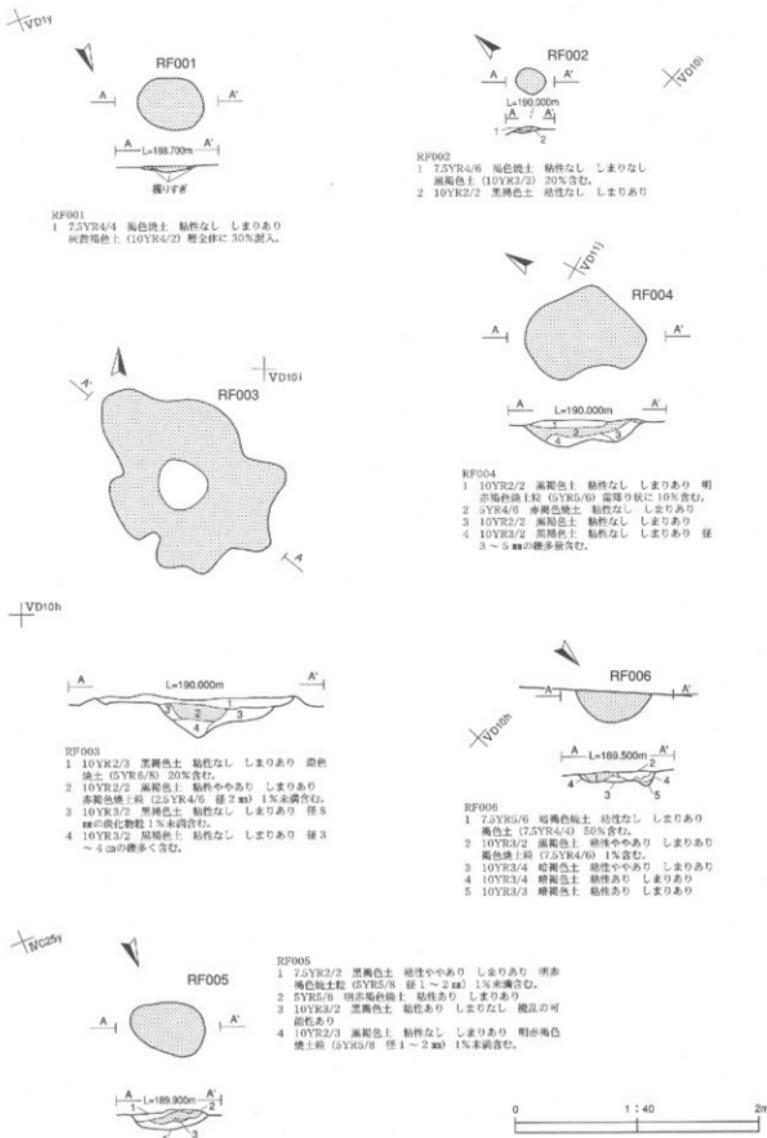
＜位置・検出＞ B区・VD10i・VD11i・VD11j グリッドに跨って位置する。第IV層で検出した。

＜規模・平面形＞ 焼土分布範囲は約180×122cmと広く、全体に橙色焼土が広がっている。

＜埋土＞ 4層に分かれるが、焼土粒は第1層にも含まれるが、主体は第2層で、赤褐色焼土が約7cmの厚さで形成する。

遺物 なし。

時期 遺構を検出した面から縄文時代中期後葉に属すると考えられる。



第12図 RF001～RF006

RF005 焼土遺構（第12図、写真図版5）

＜位置・検出＞ B区・VD9gグリッドに位置する。第IV層で検出した。

＜規模・平面形＞ 全体に燈色焼土が広がり、焼上分布範囲は約62×42cmで平面形は不整な形状を呈している。

＜埋土＞ 4層に分かれ、全体に焼土粒は含まれるが、主体は第2層で、明赤褐色焼土が約6cmの厚さで形成する。

遺物 なし。

時期 遺構を検出した面から縄文時代中期後葉に属すると考えられる。

RF006 焼土遺構（第12図、写真図版5）

＜位置・検出＞ B区・IVC24xグリッドに位置し、第III層で検出した。遺構の一部が調査区外へと延びている。

＜規模・平面形＞ 平面は不整な楕円形を呈し、全体に燈色焼土が広がっている。焼土分布範囲は約62×42cmである。

＜埋土＞ 4層に分かれ、全ての層に焼土粒の混入が認められるが、主体は第1層で、明褐色焼土50%、褐色土50%で構成され、層厚は約8cmである。

遺物 なし。

時期 遺構を検出した面から縄文時代中期後葉に属すると考えられる。

### （3）配石遺構

すべてB区で検出された。また検出された配石遺構は10基としたが、これはB区北西側～中央部の第II層～第III層中のシルト内で確認できたものを数えたものである。中央部～中央部南東側に広がる表土下に礫層が検出されている場所にも配石になる可能性があるものも數カ所あったが、礫層との判別がつかなかった。配石遺構の時期については検出された層や出土遺物から縄文時代後期～晩期中葉に属すると考えられる。配石を構成する自然礫は頁岩→チャート→ホルンフェルスの順に多く、いずれも北上山地産であるとの鑑定を受けている。一方、石器として使用されたものでは北上山地産の細粒閃綠岩を使用した磨石類、奥羽山脈産の安山岩を使用した石皿などが構成礫として利用されている。各遺構の詳細については以下のとおりである。

RH001配石遺構（第13図、写真図版6）

＜位置・検出・重複関係＞ B区・IVC15rグリッドに位置する。表土除去後、第III層で検出された。調査区境にあるため遺構の全容は確認できない。配石を構成する礫はいずれも遺跡周辺で採取できる頁岩で大きさ約36×20cmの細長い石と10～15cmの中小礫が数点である。配石下に土坑は見られない。遺物 なし。

時期 遺構の検出面から縄文時代後期後葉～末葉に属すると考えられる。

RH002配石遺構（第13図、写真図版6）

＜位置・検出・重複関係＞ B区のIVC15rグリッドに位置する。表土除去後、第III層で検出された。一部が調査区外に延びるために遺構の全容は確認できない。配石構成礫は周辺で採取できる頁岩・ホルンフェルスが利用され、北東側の調査区境から縦列状態で配置されている。配石下に土坑は見られ

ない。

遺物 なし。

時期 遺構の検出面から縄文時代後期後葉～末葉に属すると考えられる。

#### RH003配石遺構（第13図、写真図版6）

＜位置・検出・重複関係＞ B区・IVC15rとIVC16rグリッドに跨って位置する。表土除去後、第III層で検出された。配石は長さ40cm前後と10cm前後の疊数点で構成され、石材には遺跡周辺で採取できる頁岩が主に使用されている。配石下には径80×64cm、深さ22cmの土坑状のプランが確認され、この中から縄文時代後期前葉～中葉の土器片が出土しているが、底面の状態や壁面の立ち上がりから風倒木痕である可能性も考えられる。

遺物 構成疊に石錐状の形状を呈する石器（378）が使用されている。また、土坑内から土器片（16～18）が出土している。

時期 出土した遺物から縄文時代後期後葉～末葉に属すると考えられる。

#### RH004配石遺構（第13図、写真図版7）

＜位置・検出・重複関係＞ B区・IVC15gとIVC16gグリッドに跨って位置する。表土除去後、第III層で検出された。配石は長さ40cm前後と15cm前後の疊数点で構成され、石材には遺跡周辺で採取できる頁岩・チャートが使用されている。配石は調査区境に位置するため詳細は不明であるが、土坑状の掘り込み等は確認されていない。

遺物 なし。

時期 遺構の検出面から縄文時代後期後葉～末葉に属すると考えられる。

#### RH005配石遺構（第13図、写真図版7）

＜位置・検出・重複関係＞ B区・IVC16qとIVC16rグリッドに跨って位置する。第III層下で検出された。配石は長さ20cm前後と10cm前後の疊数点で構成され、石材には遺跡周辺で採取できる頁岩・チャートが主に使用されている。配石下には径88×82cm、深さ63cmの土坑が確認された。この中から縄文時代晚期中葉の土器片が出土している。

遺物 構成疊の中に磨石（325・336）が2点出土している。

時期 遺構の検出面から縄文時代晚期中葉に属すると考えられる。

#### RH006配石遺構（第13図、写真図版6）

＜位置・検出・重複関係＞ B区・IVC17sとIVC18sグリッドに跨って位置する。第III層上位で検出された。配石は長さ20cm前後の疊数点で構成され、石材には遺跡周辺で採取できる頁岩が主に使用されている。配石は北東～南西を軸とする長方形状に配置され、配石下には径88×82cm、深さ21cmの浅い落ち込み状のプランが確認された。この中から縄文時代後期後葉に比定される深鉢土器の破片が出土している。

遺物 土坑内から深鉢の破片（21）が出土している。

時期 遺構の検出面から縄文時代後期後葉に属すると考えられる。

RH007 配石遺構（第13図、写真図版7）

＜位置・検出・重複関係＞ B区・IVC18sグリッドに位置し、第Ⅲ層で検出された。配石は長さ16～40cm前後の礫数点で構成され、石材には遺跡周辺で採取できる頁岩が主に使用されている。配石は南東方向に向かってコの字型の石畠炉状の形態をしている。配石下に土坑はない。

遺物 なし。

時期 遺構の検出面から縄文時代後期後葉～末葉に属すると考えられる。

RH008 配石遺構（第14図、写真図版8）

＜位置・検出・重複関係＞ B区・IVC23wとIVC23xグリッドに跨って位置し、第Ⅱ層下で検出された。配石は長さ10～20cm前後の礫数点で構成され、石材には遺跡周辺で採取できる頁岩の他に奥羽山脈産の安山岩で石皿として使用されたものが1点ある。配石の形状は菱形で、配石下には径80×80cmの土坑が確認された。土坑の中からは縄文時代後期の深鉢の胴部破片が少量出土している。

遺物 配石の構成礫として石皿類（台石・352）が使用されている。

時期 遺構の検出面から縄文時代後期後葉頃と考えられる。

RH009 配石遺構（第14図、写真図版8）

＜位置・検出・重複関係＞ B区・IVC22wグリッドに位置し、第Ⅲ層で検出された。配石は長さ15～20cm前後の礫が多く、40cm前後の大きな礫も数点ある。石材には遺跡周辺で採取できる頁岩の他に台石・石皿として利用されている細粒閃綠岩や奥羽山脈産の安山岩が使用されている。配石は北西～南東を軸として細長い形状を呈する。配石直下には北東方向に倒れたと考えられる風倒木痕が径170×100cmの範囲で確認され、中からは縄文時代後期の土器片（22・23）が出土している。

遺物 配石の構成礫として石皿2点（348・349）が使用されている。

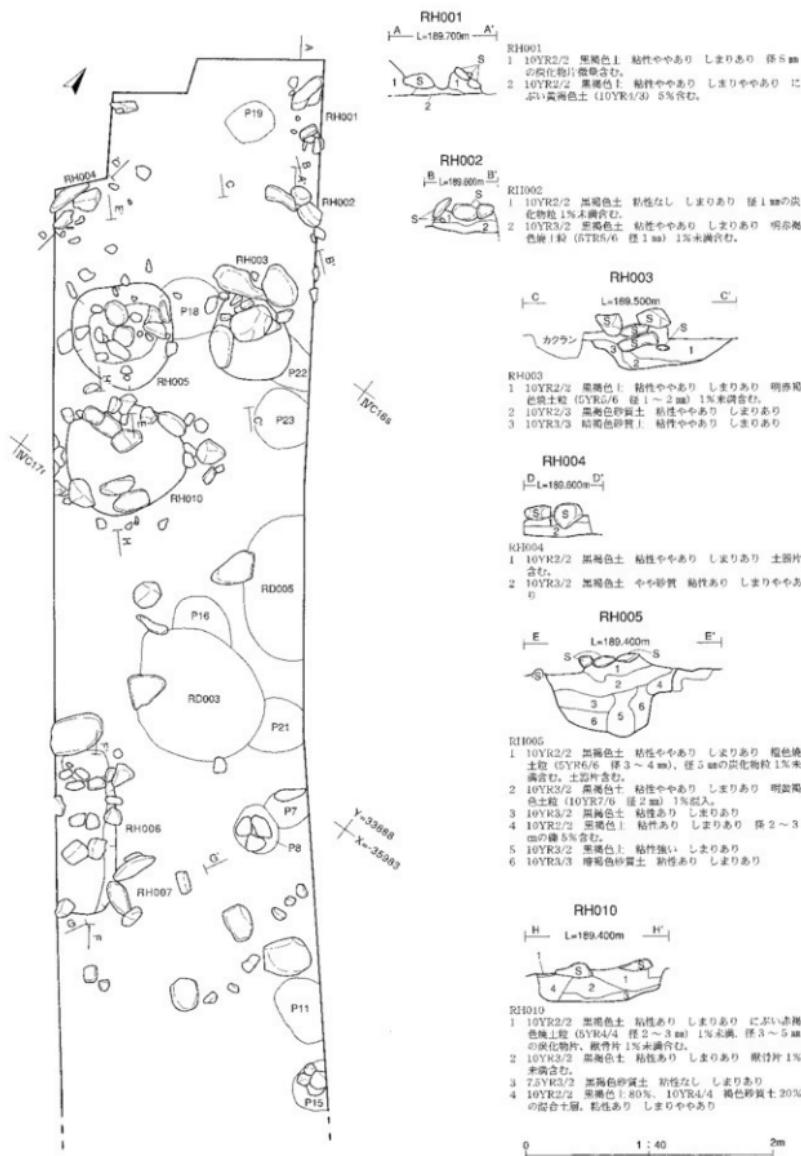
時期 遺構の検出面から縄文時代後期後葉頃と考えられる。

RH010 配石遺構（第13図、写真図版8）

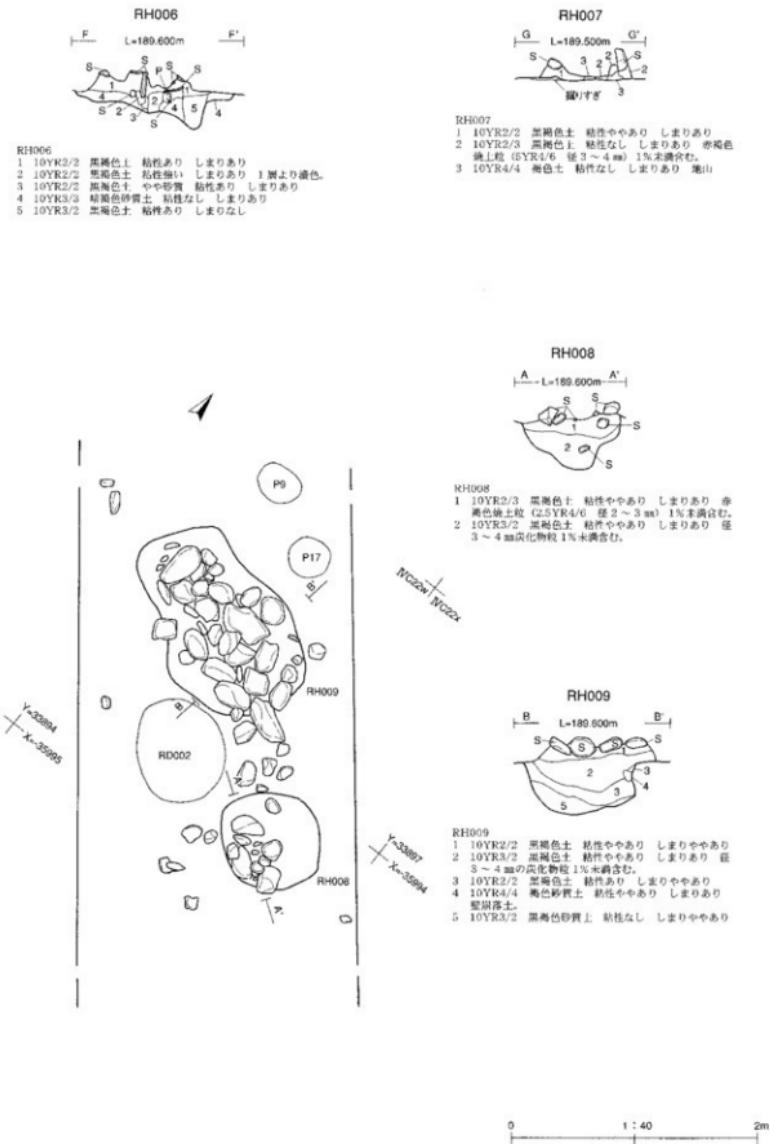
＜位置・検出・重複関係＞ B区・IVC16rとIVC17rグリッドに跨って位置し、第Ⅲ層上位で検出された。配石は長さ15～20cm前後の礫で構成され、石材には遺跡周辺で採取できる頁岩の他に磨石として使用された細粒閃綠岩や石皿として使用された奥羽山脈産の安山岩が利用されている。配石は北東～南西を軸として梢円状の形状を呈する。配石下には径96×90cm、深さ24cmの土坑が確認され、中からは縄文時晚期前葉の土器片が出土している。

遺物 配石の構成礫として石皿1点（350）が使用されている。また、土坑内からは鉢の口縁部破片（24・25）が出土している。

時期 遺構の検出面および出土した遺物から縄文時代晚期前葉頃と考えられる。



第13図 RH001～RH005、RH010



第14図 RH006～RH009

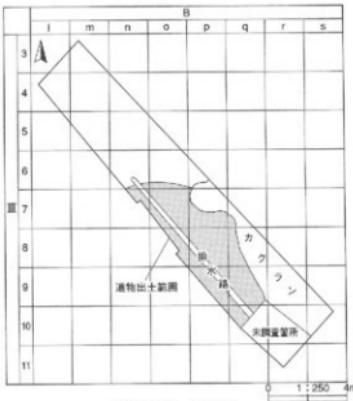
## (4) 遺物集中区 (第15図、写真図版11)

A区東端に位置する。約 $2 \times 6$ mの範囲で大コンテナ12箱分、重量約137.15kgの遺物が出土した。試掘調査時に表土とその下層との境界付近から多量の遺物が出土したため、表土除去後、人力によって掘り下げ、遺物の出土する範囲や遺構の有無を確認しながら地形から東側の段丘の縁部に位置すると考えられ、遺物を廃棄した場所と推察される。遺物の範囲は調査区外の国道下や東側を流れる沢との境界まで延びると考えられる。また、道路と反対側の調査区内は農業用貯水池（右図内カクラン）をつくるために大きく掘削され、遺物を包含する層が削平され、大半が消失した状態であった。

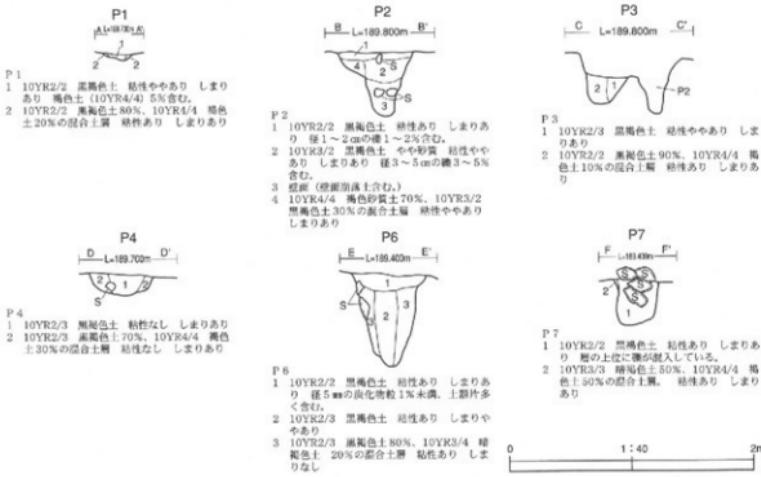
出土した遺物は縄文時代晩期中葉頃のものが主である。

## (5) 柱穴状土坑 (第9・10・16・17図、写真図版16・17)

B区で23個検出した。調査区幅の関係から建物の構成等については不明である。遺構内から遺物が出土しているのは13個あり、時期は縄文時代後期8個（P2・P4・P9・P11・P12・P15・P19・P20）、晚期前葉2個（P8・P17）、他は不明である。

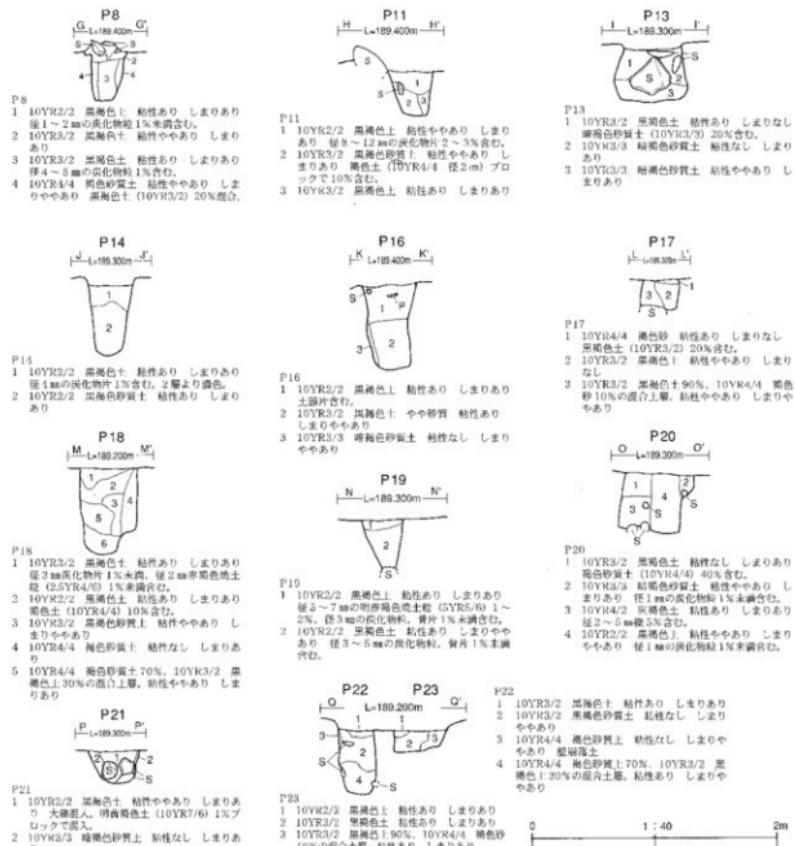


第15図 RP001



第16図 P1～P4・P6・P7

### 3 検出遺構



第17図 P8・P11・P13・P14・P16～P23

第4表 柱穴観察表

	出土地点	縦	深さ	出土遺物	時期
P 1	IVD 8 h	23×22	4		
P 2	IVD 7 i	38×36	53	26	後期前葉
P 3	IVD 7 f	42×42	22		
P 4	IVD 7 f	—	18	27	後期
P 5	VD25 a	—	55		
P 6	IVC19 t	66×61	76	28~30	
P 7	IVC19 u	32×?	38		
P 8	IVC17 s	42×35	40	31	晩期前葉
P 9	IVC21 w	36×30	29	32	後期初~前葉
P10	IVC24 x	50×44	74		
P11	IVC18 t	58×?	36	33	後期

	出土地点	縦	深さ	出土遺物	時期
P12	IVC19 u	37×36	55	34・35	後期
P13	IVC20 u	84×64	44		
P14	IVC19 t	52×46	58		
P15	IVC18 t	42×?	14	36・37	後期前葉
P16	IVC17 s	68×48	70		
P17	IVC22 w	34×34	26	38~40	晩期前葉
P18	IVC16 r	48×?	72		
P19	IVC15 q	38×32	39	41・42	後期
P20	IVC19 u	58×44	50	43・44	後期
P21	IVC17 s	44×?	26		
P22	IVC16 r	36×?	52		
P23	IVC16 r	50×?	18		

※律・深さの単位はcm。

## 4 出上遺物

### (1) 土器 (第18~34図、写真図版15~32)

本遺跡から出土した土器は大コンテナで約31箱分で、総重量は358406.6gである。時期は縄文時代中期後葉～晩期中葉頃に属する。遺構外から出土した遺物はRP001出土のものを除いては小破片が多く、接合できるものは少ない。また文様などの特徴による時期の判別も不明なものが多い。時期は中期後葉、後期後葉～末葉、晩期中葉の遺物の出土が顕著で、これはB区の基本土層Ⅱ～Ⅳ層に対応する。資料の部位名称は口唇部(=口縁部上端)、口縁部、頸部、胴部、注口部、底部、台部と記述した。分類は以下のとおりに行った。

第I群土器・・・縄文時代中期後葉～末葉に属する土器で大木9式・大木10式期に属する土器群。

第II群上器・・・縄文時代後期に属する上器群で時期により以下のとおり細分した。

A類・・・後期初頭に属する土器群。

B類・・・後期前葉～中葉に属する土器で十腰内I式～十腰内III式に平行する土器群。

C類・・・後期後葉～末葉に属する土器で十腰内IV・V式・瘤付土器群に平行する土器群。

第III群土器・・・縄文時代晩期に属する土器群。出土の大半がRP001から出土した大洞C2式の土器群のため、これらについては器種・形態によってさらに細分した。

#### 第I群土器

132～140は縄文時代中期後葉に属する土器で大木9式に比定される土器群で、B区東端部第IV層の焼土遺構(RF002～004・RF006)検出面から主に出土している。器種は深鉢・鉢で波状口縁の深鉢(132～138)には沈線による楕円形の文様帶に縱方向から工具による刺突文・縄文を充填しているのに対し、平縁の深鉢・鉢(139・140)は縄文のみの施文である。141・142は中期末葉の大木10式に比定される深鉢の胴部・口縁部破片、143は深鉢底部の破片で底部中央に径約3cmの穿孔が施されている。

#### 第II群上器

A類・・・後期初頭に属する土器で2点出土した。144・145はいずれも壺形土器の口縁部破片で遺構外からの出土である。

B類・・・後期前葉～中葉いわゆる十腰内I～III式を含む土器群である。146～153は十腰内I式の土器群で口縁部文様には沈線による入組文、方形文、三角形文、渦巻文などがある。159～161は後期前葉～中葉の十腰内II式に比定される深鉢の口縁部破片で波状の口縁部が大きく開く形状を呈する。162～164は深鉢の口縁部突起で162は圓扇形の突起をもち、胴部平行沈線と突起下から括弧状沈線が縦位に施されている。163・164の突起頂部は肥厚し凹んでおり、164は沈線に平行して刺突文が施されている。165は沈線区画の刻み列と充填縄文が施されている底部破片で後期中葉に比定される。154は頸部が括れ、口縁部が開く形状を呈する深鉢で地文に網目状撲糸文が施されている。170・171は深鉢で地文はLR縄文で、171の口縁部は文様が磨り消され無文帶である。170の底部には木葉痕がある。

C類・・・後期後葉～末葉に属する土器群で、十腰内IV式～瘤付土器を含む土器群。168は変形の帯状縫状文を特徴とする十腰内V式、39・166・173は瘤付土器第II段階で後期後葉、7・8・11・

172・176・177は輪付土器第IV期で後期末葉に属する。他に連続の刻目文が沈線間に施されているもの（174・175）、沈線文を入組状に展開する178の壺（178）などが出土している。

### 第Ⅲ群土器

縄文時代晩期に属する土器で出土量は中葉の土器が顕著である。遺構内から出土したものについては前葉（大洞BC式）のものはRP001を除く遺構内から少量出土している（19・24・25・31・38）。いずれも鉢の口縁部破片で24・25・38は羊歯状文、19・31は半浮彫的な文様が施されている。中葉（大洞C2式）の土器は4～6・20で4は鉢の口縁部破片、5は壺の胴部破片、6・20は深鉢の口縁部破片である。遺構外から出土したものは179～190で中葉のものでは179が大洞C1式、180～185・187が大洞C2式である。後葉（大洞A式）のものは186・188・189で186は香炉、188は鉢、189は浅鉢である。190は晩期終末期の浅鉢（台付）の口縁部破片で山形の突起中央と口縁内面・口縁頂部に沈線文が施されている。このうち最も出土量が多いのはA区のRP001から出土した大洞C2式期に属するもので、掲載土器の44%にあたり、各器種の個体数も多いことからRP001より出土した土器はさらに器種・形態・文様などで細分した。器種は深鉢・鉢・浅鉢・台付鉢・壺・注口土器であるが、破片などの欠損品については推定である。分類細分は形態をA類、B類・・・、口縁部～頸部の文様を1類、2類・・・、胴部文様構成a類、b類・・・とし、出土数が少ない注口土器については分類細分は除外した。

深鉢（45～63）・・・完形のものではなく、口縁部破片を中心とした出土である。63を除き、口縁部の形状はいずれも胴部上位に曲線的な張り出し、括れをもつもので、明らかに強く張り出すものとほとんど張りださないものなどの違いがあるが、実際に細分するといずれともとれないものもあり、形態は頸部の立ち上がりで分類した。また、文様は口縁～頸部に施される沈線文の有無や位置などの特徴で分類した。

形態・・・口縁部の立ち上がりで大きく2つに分類した。

- A類 頸部～口縁部が内湾・内傾して立ち上がるもの。（45・47・54・63）
- B類 頸部～口縁部が直立して立ち上がるもの。（46・48・51・53）
- C類 頸部～口縁部が外反して立ち上がるもの。（49・50・52・55～62）

### 口縁～胴部文様

- 1類 口縁部全体に数条の沈線文、胴部は地文が施されるもの。（45～48）
- 2類 口縁部上位と頸部に沈線文が施され、胴部は地文が施されるもの。（50・51）
- 3類 口縁部が無文で、胴部は地文が施されるもの。（52～61）
- 4類 口縁～胴部まで地文のみ施されるもの。（62・63）

鉢（64～88）・・・すべてRP001から出土した。形態的には頸部での屈曲点の有無、文様では頸部の沈線文・連続刺突文などによる文様帯や体部上半の文様帯が構成されているものなどがある。また、口縁頂部は刻目状に刺突文が施され、小波状の形状になっているものが大半である。

形態・・・形態は頸部～口縁部の形状や胴部の立ち上がりなどで大きく5つに分かれ、A～E類に分類した。

- A類 底部～口縁部まで明確な屈曲点をもたず、緩やかに内湾して立ち上がるもの。(64～66)
- B類 底部～胴部は曲線的に立ち上がり、胴部上位に屈曲点をもち、頸部～口縁部が内傾するもの。(67～75)
- C類 胴部上位～頸部にかけて内側に屈曲し、頸部は内傾し、口縁部が外傾するもの。(76～78・80～83・85)
- D類 胴部上位～頸部間に屈曲点をもち、頸部は直立して立ち上がり、口縁部が短く外傾するもの。(79・84・86)
- E類 胴部は内湾して立ち上がり、頸部～口縁部が外反するもの。(87)

口縁～頸部文様・・・口縁部～頸部の文様帯を1～6類に分類した。このうち胴部上位に文様帯をもつものをa類とした。

- 1類 口縁部～胴部まで地文のみ施されるもの。(64・67・68)
- 2類 口縁部～頸部に沈線が2本施され、胴部は地文が施される。(65・66・69～74)
- 3類 口縁部～頸部に沈線が3本以上施され、胴部は地文が施される。(76・77・84)
- 4類 口縁部～頸部に沈線が3本以上あり、沈線間に刻目列が施される。胴部は地文が施される。(78～83)
- 5類 口縁部～頸部が無文帯となるもの。(86・87)
- 6類 それ以外のもの。(75・85)

胴部・・・上半に沈線区画による文様帯が施されたもの。(85～87)

- a類 胴部上半に文様帯を有するもの。

#### 台付鉢 (89～105)

形態・・・形態的には鉢と同様に頸部での屈曲点の有無、文様では頸部の沈線文連続刺突文などによる文様帯や体部上半の文様帯が構成されているものなどがある。また、口縁部は刻目状に刺突文が施され、小波状の形状になっているものが大半である。A～H類に分類した。

- A類 底部～口縁部まで明確な屈曲点をもたず、直立かやや内湾ぎみに立ち上がるもの。(89・90)
- B類 胴部に屈曲点はなく、胴部上位～頸部にかけて内側に屈曲し、頸部・口縁部が内傾するもの。(91～95)
- C類 胴部に屈曲点はなく、頸部から内側に屈曲し、口縁部が直立して立ち上がるもの。(96)
- D類 胴部に屈曲点はなく、短い頸部が内側に屈曲し、口縁部が直立して立ち上がるもの。(97)
- E類 胴部に屈曲点はなく、頸部から内側に屈曲し、口縁部が外傾するもの。(98)
- F類 底部～胴部は曲線的に立ち上がり、胴部上位に屈曲点をもち、頸部～口縁部が内傾するもの。(99)
- G類 胴部上位に屈曲点をもち、頸部は直立して立ち上がり、口縁部が外傾するもの。(100・101)
- H類 胴部上位に屈曲点をもち、頸部～口縁部が外反するもの。(102～104)

文様・・・器面の文様は口縁部～頸部と胴部の文様帯の組み合わせで構成される。

#### 口縁部～頸部

- 1類 沈線文のみ2本以上施されるもの。(89・90・97・99)
- 2類 沈線文のみ2本以上+沈線間に刻目列が施されるもの。(91～96・101)

3類 口縁部と頸部間に沈線文が1本施されるもの。(100・103)

4類 頸部が無文のもの。(102・104)

#### 胴部文様帶

a類 頸部～口縁部に平行沈線文が施され、それ以外は繩文のみ施されるもの。(89・97～99)

b類 脇部上位は沈線区画による文様帯、下位は繩文が施されるもの。(90～96・100～105)

浅鉢（106～112）・・・すべてRP001から出土した。形態的には頸部での眉曲点の有無・胴部の立ち上がり・底部～胴部の形状などに相違点がみられる。また文様では沈線区画の文様帯で胴部全体が構成されるものや体部上半と下半で文様構成が異なるものなどがある。

形態・・・頸部～口縁部、底部～胴部の形状で大きく5つに分かれ、A～C類に分類した。

A類 底部が丸底で底部～胴部が曲線的な立ち上がりをするもの(109・110)。

B類 底部が平底で胴部・口縁間に屈曲点を有するもの(108)。

C類 底部が平底で胴部が内湾気味な立ち上がりを呈するもの(106・107)。

#### 胴部文様帶

a類 脇部全体に繩文が施されるもの。(112)

b類 脇部の上位は沈線文および沈線区画による文様帯、下位には繩文が施されるもの。(108～110)

c類 脇部全体に沈線区画による文様帯が施されるもの。(106・107)

#### 壺（115～127）

形態・・・いずれも胴部上位に最大径をもち、頸部と胴部間を沈線により、区分し、頸部に無文帯をつくっている。頸部の形態によりA～C類に分類した。

A類 頸部～口縁部が内傾するもの。(115～120)

B類 頸部が直立して立ち上がる。口縁部は短く外傾する。(121～123)

C類 頸部～口縁部が外傾するもの。(124～127)

#### 口縁部～頸部

1類 口縁部～頸部間に沈線文が施されるもの。(115～119・121・122・124・125)

2類 口縁部～頸部間に沈線文が施されないもの。(120・123・126・127)

#### 胴部文様帶

a類 脇部全体に繩文が施されるもの。(115・116・118～120・122・123・125～127)

b類 脇部の眉曲点より上位には沈線区画による文様帯、下位には繩文が施されるもの。(121・124・128・129)

c類 脇部の眉曲点より上位からの沈線区画による文様帯が下位にまでおよび、それ以下には繩文が施されるもの。(117)

d類 a類～c類以外のもの(130)

## (2) 土 製 品 (第35・36図、写真図版33・34)

本遺跡から出土し、掲載した土製品は動物形土製品1点、土偶11点、土製耳飾り6点、円盤状土製品13点、不明土製品1点である。

## 動物形土製品（194）

B区・IV C21vグリッド第II層より1点出土した。左右対称の形状でイノシシの顔を模したものと思われるが、後頭部および頸部より胴体部分は欠損しているため、全体は不明であるが、土器の一部である可能性も考えられる。大きさは幅38.89mm、長さ62.41mmを測る。眼・鼻・口・耳が表現され、耳の後方には貫通孔がある。眼部上下の縁は盛り上がり、斜方向に刻みが施されている。また、右耳後方上部から脇部に向かう沈線が斜方向に施されている。各部位の長さは口幅16.95mm、鼻孔径4.80mm、深さ約6.7mm、眼幅3.09×18.46mm、耳幅は約19.3mm、貫通孔径は約6～7mmである。時期は後期末葉～晩期中葉である。

## 土偶（195～206）

11点出土した。出土地点はA区1点、B区10点で、時期は後期8点、晩期3点である。部位は脇部3点、腕部4点、脚部3点で頭部のない完形品のものが1点である。

## 耳飾り（207～212）

6点出土した。すべてB区からの出土で4以外はIV C24yグリッド周辺で出土した。形態は207～210が輪状の形状を呈する滑車形で211が耳栓形、212は蓋形の形状を呈する滑車形である。207～210はいずれも残存率が1/3以下で中央部に厚みをもつ。211は側面中央部に3単位で文様が施されている。212は上面に菱形を崩したような文様が彫られ、中央部に穿孔が施されている。同じようなタイプのものが蛭米町長倉I遺跡・大日向II遺跡で出土している。時期は晩期初頭に属する。

## 円盤状土製品（213～226）

円形を基調とした形状に加工されたもので、18点出土し、13点掲載した。形状を整えるために周開を開ち欠いたり、擦るなどの調整を施した痕跡がみられる。使用された土器の部位は体部8点、口縁部4点、底部2点である。220・225は口縁部を利用しているが、口唇部は未調整でそれ以外のところを加工して成形している。

## 不明土製品（227）

227は円柱状の形状を呈する。上製品の一部と考えられるが詳細は不明である。

## (3) 石 器 (第37～48図、写真図版35～43)

## 石鐵（244～259）

总数17点出土した。このうち4点はA区の绳文時代晩期の捨場からの出土である。

石材には黒曜石・真岩・珪質真岩・メノウが使用され、頁岩の使用が7点(41%)と顯著である。基部の有無でI類=無茎、II類=有茎に大別した。

I類・・・A 凹基3点 B 平基1点 C 円基1点

II類・・・A 凹基2点 B 平基2点 C 凸基6点

#### 石錐（260～270）

11点出土した。石材には黒曜石・頁岩・珪質頁岩・メノウが使用され、頁岩が7点（58%）と顕著である。形態の分類についてはつまみ部の有無で大別でき、I類=つまみがなく棒状の形状を呈するもの3点（260～262）、II類=つまみを有するもの8点（263～270）となり、つまみを有するものはさらにつまみ部と錐部の区別が明瞭なものと不明瞭なものに細分が可能である。

また、石錐からの転用と思われるものが1点出土している。

#### 石匙（271～277）

15点中8点を掲載し、つまみ部・刃部などの一部のみで形態が不明なものを不掲載とした。2点（271・272）はA区RP001からの出土である。石材にはすべて奥羽山脈産の頁岩が使用されている。形態の分類についてはつまみ部の軸を垂直にしたときの形状で以下の3形態に大別される。

I類 横方向に刃部を有するもの。（271・272）

II類 縦方向に刃部を有するもの。（273～275）

III類 斜方向に刃部を有するもの。（276・277）

#### 両極石器（278・279）

2点出土した。いずれも上下一対の両極剥離痕をもつ。石材には頁岩が使用されている。

#### その他剥片石器（280）

剥離面のない片側に二次加工による刃部をもつ剥片である。出土地点はⅢB60グリッドの盛土中でA区の遺物集中区での出土である。石材には奥羽山脈産の頁岩が使用されている。

#### 磨製石斧（281～320）

出土した石器のなかでは最も、42点中40点を図化・掲載した。このうちA区から10点出土している。使用された石材は蛇紋岩・滑石・細粒閃綠岩・石英斑岩・ホルンフェルスの順に多く、中でも蛇紋岩を使用しているものが21点と50%を占める。いずれも北上山地産のものを利用している。出土品のうち28点（67%）が基部・刃部のいずれかが欠損した状態であるが、基部の形状には先端が尖ったもの（280～282）と平滑なもの（283～287）がある。また299～301は使用中の破損などにより再度調整を施した痕跡がある。302～308は厚さ1.1cm以下の小形のもので石材はすべて滑石を使用しており、他のものとは用途が異なっていた可能性もある。また309～319は研磨の痕跡ではなく、剥離・敲打調整までの未製品と考えられる。

#### 石鎌（378）

378はいわゆる石鎌と称されるもので、刃部は左右不对象で、刃部と基部間の抉りも一方にやや偏り、形状は鉈状を呈している。石材は北上山地産の蛇紋岩を使用している。

#### 磨石類（321～340）

いわゆる磨石・蔽石・凹石とよばれている石器を含むもので、23点出土した。このうちの14点（60.8

%) は配石内および遺構周辺からの出土である。磨石類には磨石+敲打、磨石+凹石、磨石+敲打+凹石など多岐の併用がみられる。使用された石材の割合は細粒閃綠岩 74%、砂岩 22%、砂岩 4%と細粒閃綠岩が顕著である。

#### 石皿 (341 ~ 356)

17 点出土した。このうち 12 点が配石遺構の周辺か構成砾として使用されたもので、4 点が A 区の遺物集中区、他 1 点と顕著な隔たりが認められる。素材に自然砾をそのまま使用したものが多い。341 は石皿の脚部破片、342 は縁があり、磨面および裏面には溝が数条あり、砥石としての使用も認められる。使用された石材は細粒閃綠岩・安山岩・ディサイト・砂岩・軽石で中でも細粒閃綠岩が 9 点と半数以上 (52%) を占める。

#### (4) 石 製 品 (第 49・50 図、写真図版 43・44)

##### 石棒類 (357 ~ 370)

石棒・石劍・石刀を石棒類とした。このうち製品は 11 点で、未製品は 5 点である。5 点は A 区の縄文時代晩期の捨て場からの出土である。使用されている石材は粘板岩・凝灰岩・凝灰質頁岩・石英斑岩・ホルンフェルス・蛇紋岩・滑石で、いずれも北上山地産のものである。出土した製品は完全体のものではなく、すべて断片であり、このうち頭部を作り出しているものは 3 点で他は胴部破片である。胴部の断面形の形状は円形・橢円形など様々であるが、左右対称のものが 4 点、側面片側が肥厚している非対称のものが 2 点ある。未製品のうち 368・370 は研磨、367・369 は敲打工程で終わっている。

##### 玉類 (375)

A 区の縄文晩期の遺物集中区で 1 点出土した。ヒスイ製のもので外径 0.97 × 0.99 cm、厚さ 0.77 cm を測る。両側からの穿孔が認められ、内径の最大値は 0.50 cm、最小値は 0.32 cm である。

##### 円盤状石製品 (371 ~ 374)

円形を基調とした形状に加工されたもので、4 点出土した。形状を整えるために周囲を打ち欠いた痕跡がみられる。使用された石材は細粒閃綠岩・蛇紋岩・砂岩である。出土地点 371 が RD002 の埋土、372・373 は A 区遺物集中区 374 は IV C23w グリッドの遺構外から出土した。

##### 不明石製品 (376・377)

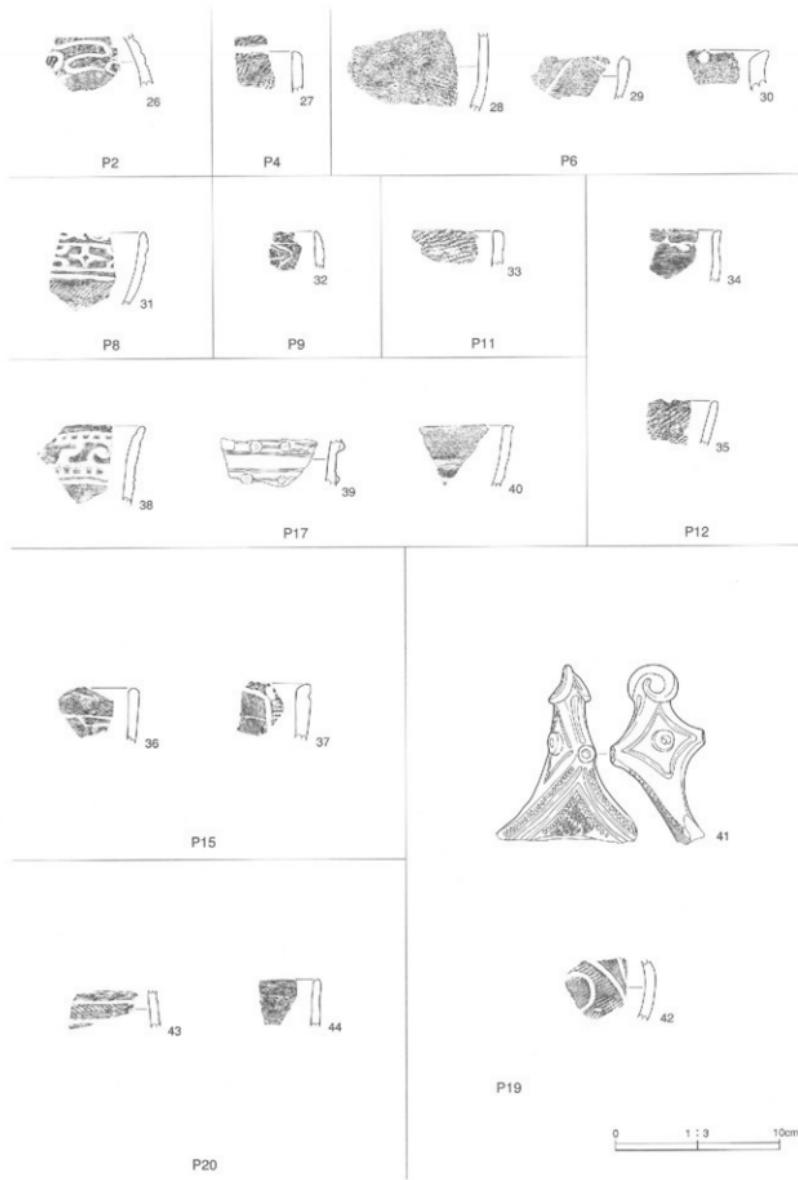
376 は側面が扁平で先端部が刃部のような形状をしており、磨製石斧に類似する。石質は奥羽山脈産の安山岩で使用された痕跡はない、非実用的な用途であったと考えられる。377 は奥羽山脈産ディサイトを使用しており、端部がやや反りあがった形状を呈している。両端部が欠損しているため詳細は不明であるが、独鉛石の一である可能性が考えられる。

#### (5) 動 物 遺 存 体 (写真図版 44)

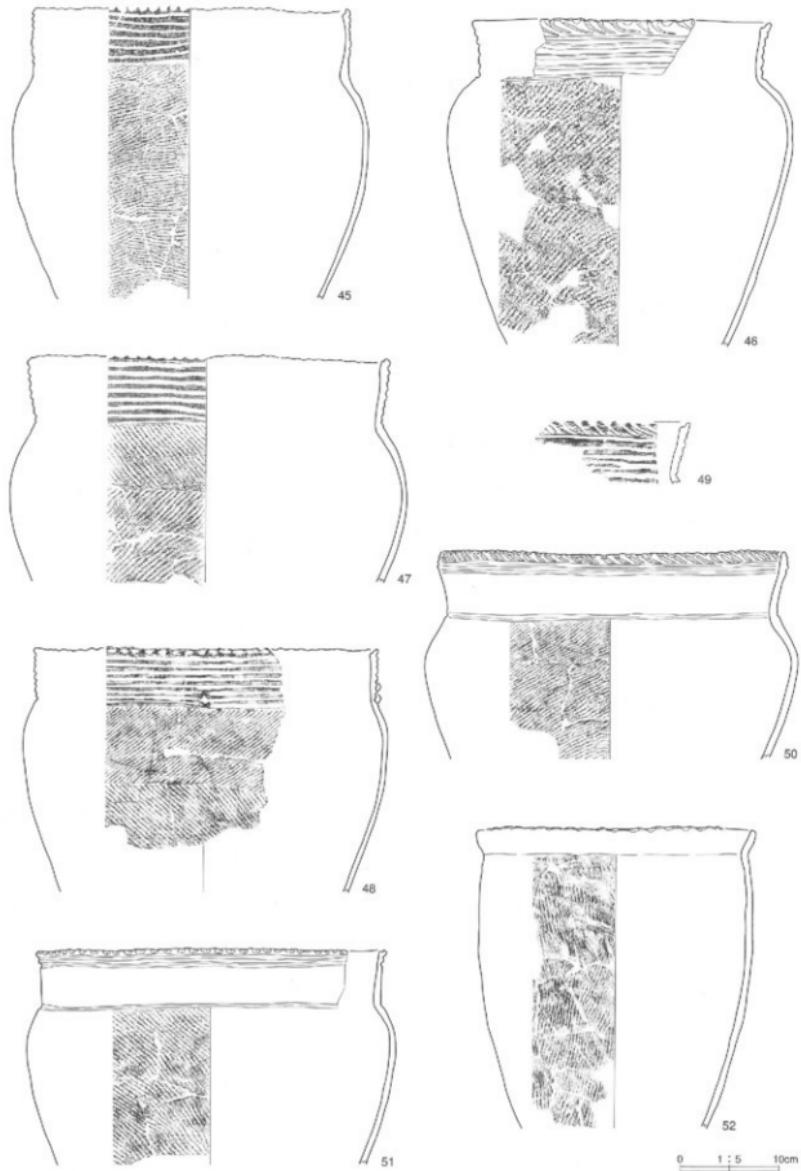
B 区の遺構内外から総重量 90.5 g の骨片が出土した。いずれも細片でこのうち 2 点を写真のみ掲載した。379 は鹿角、380 はイノシシの末節骨で他の不掲載のものについても大半が獸骨の四肢骨の破片である。



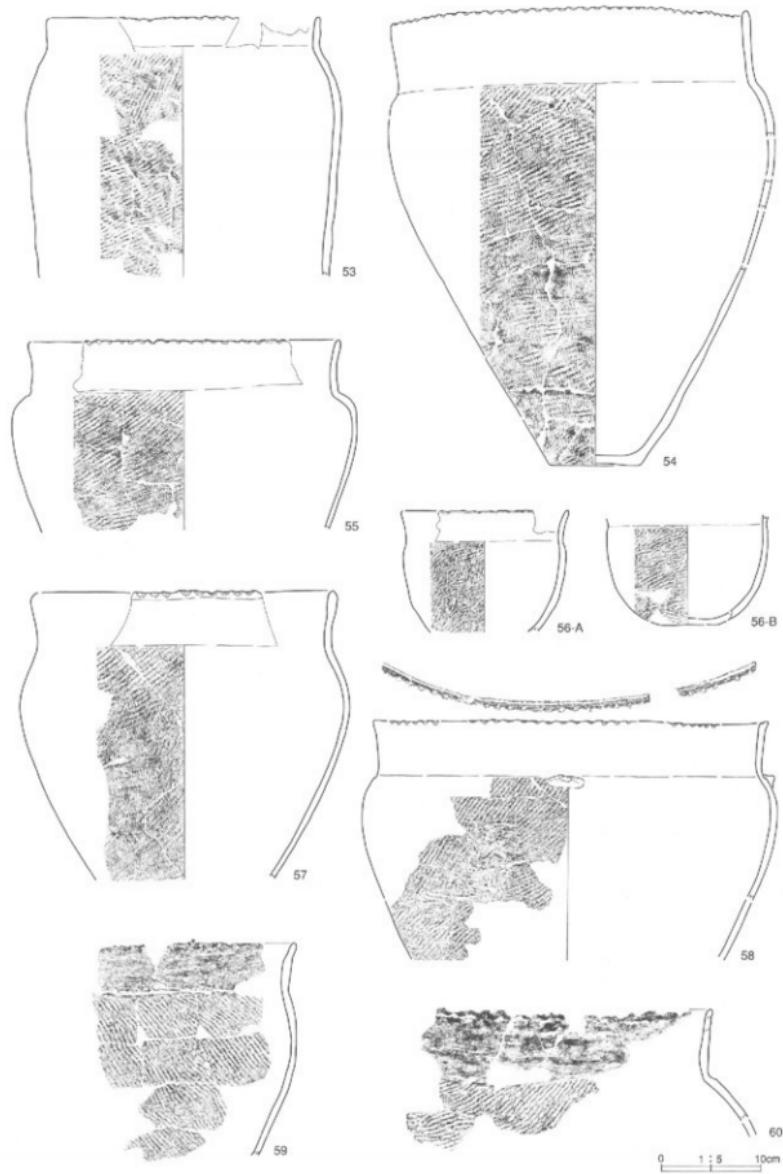
第18図 遺構内出土土器 (1) RD002~006、RH003・005・006・009・010



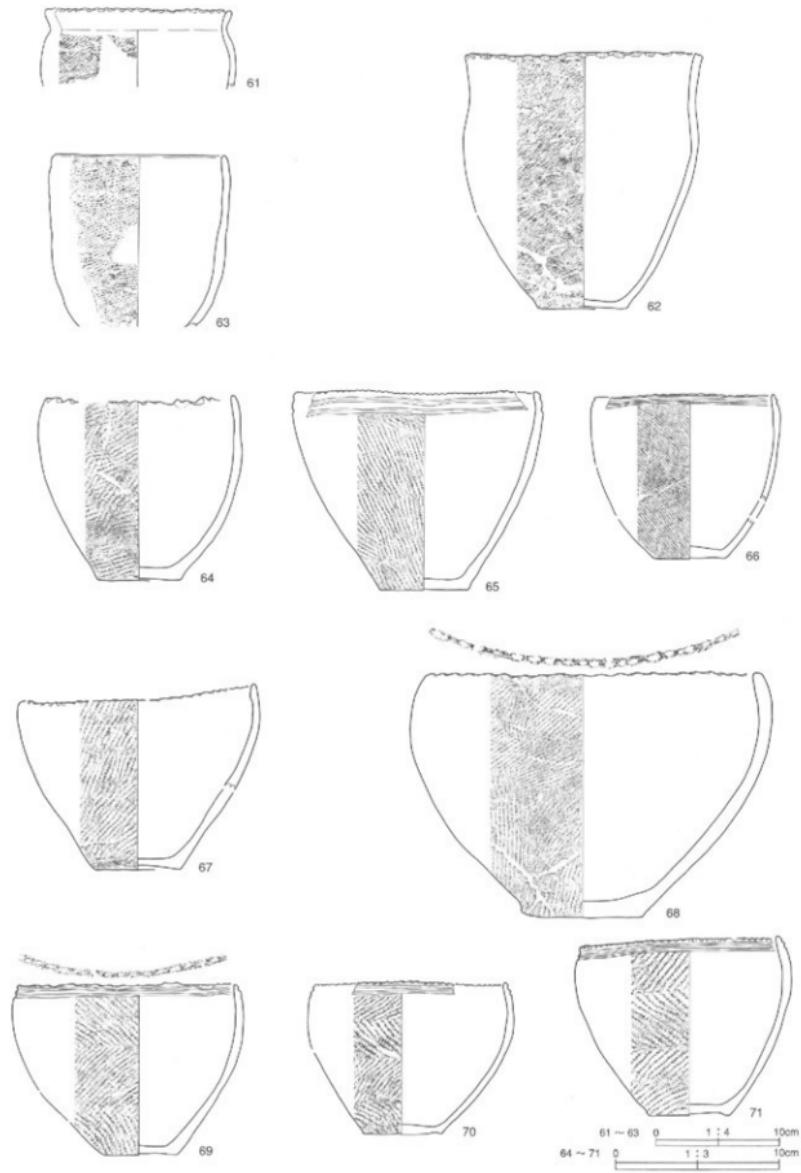
第19図 遺構内出土土器 (2) P2・4・6・8・9・11・12・15・17・19・20



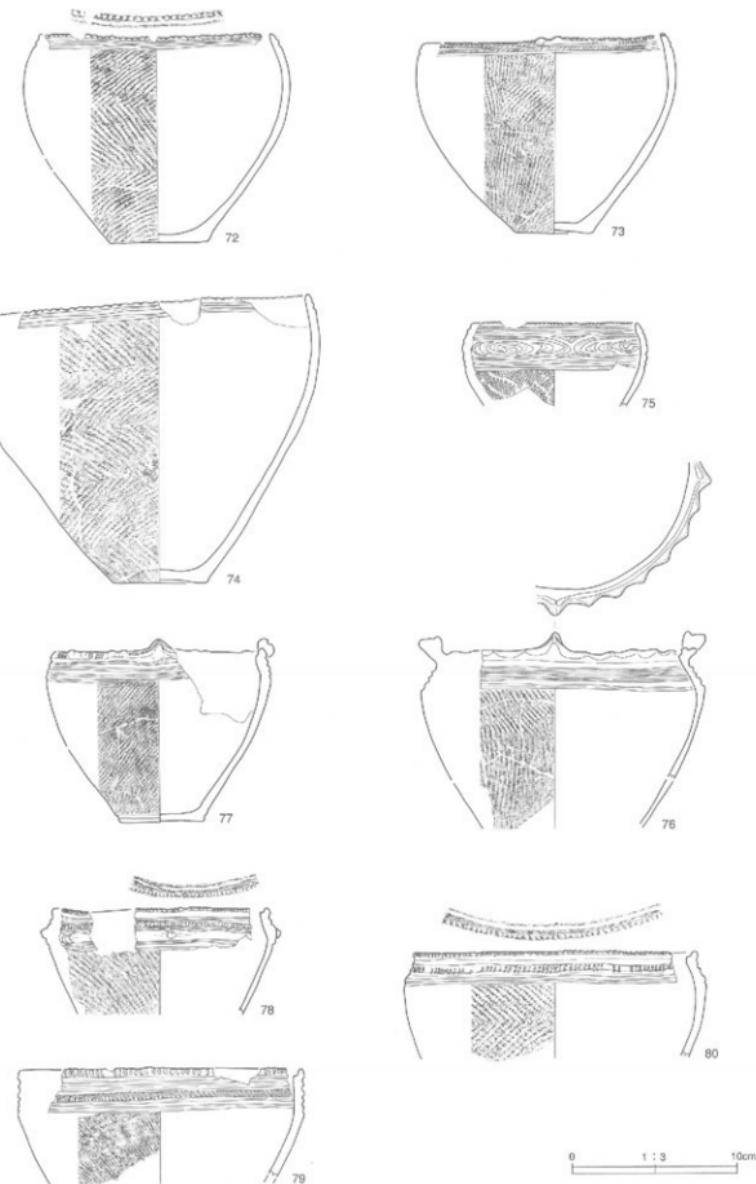
第20図 遺構内出土土器 (3) RP003



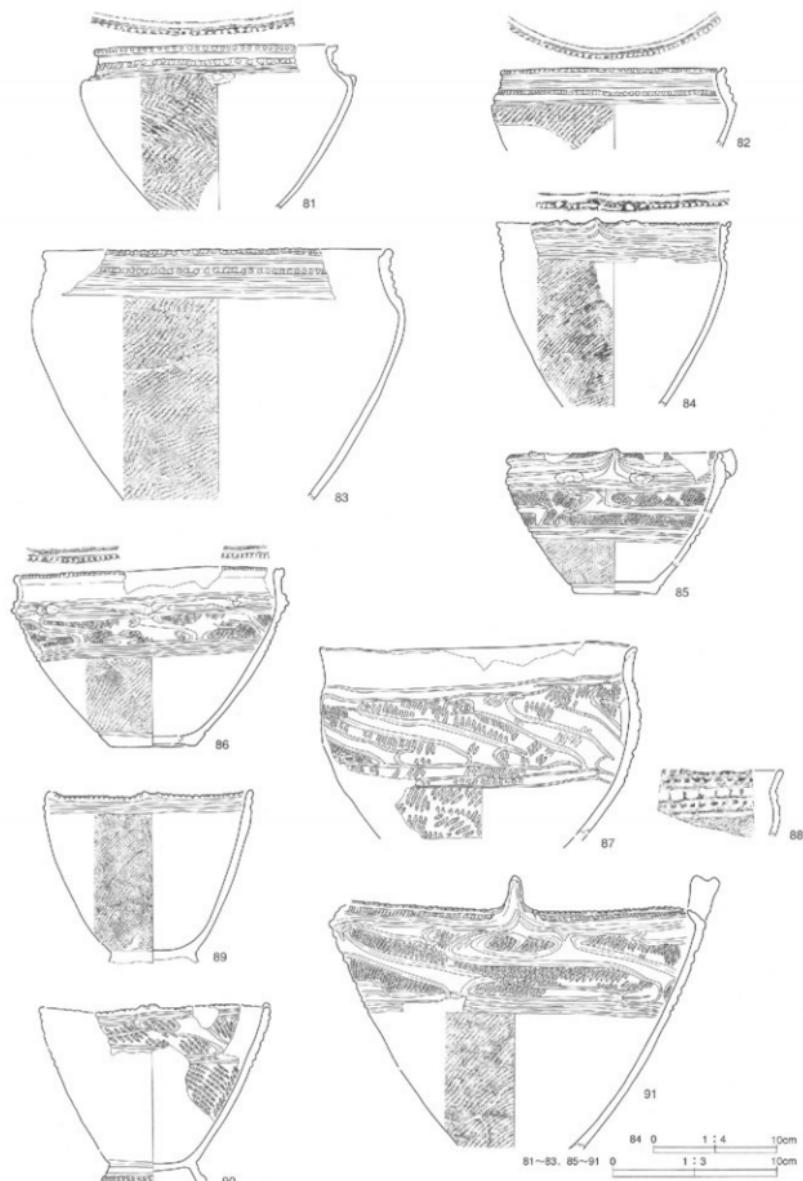
第21図 遺構内出土土器(4) RP001



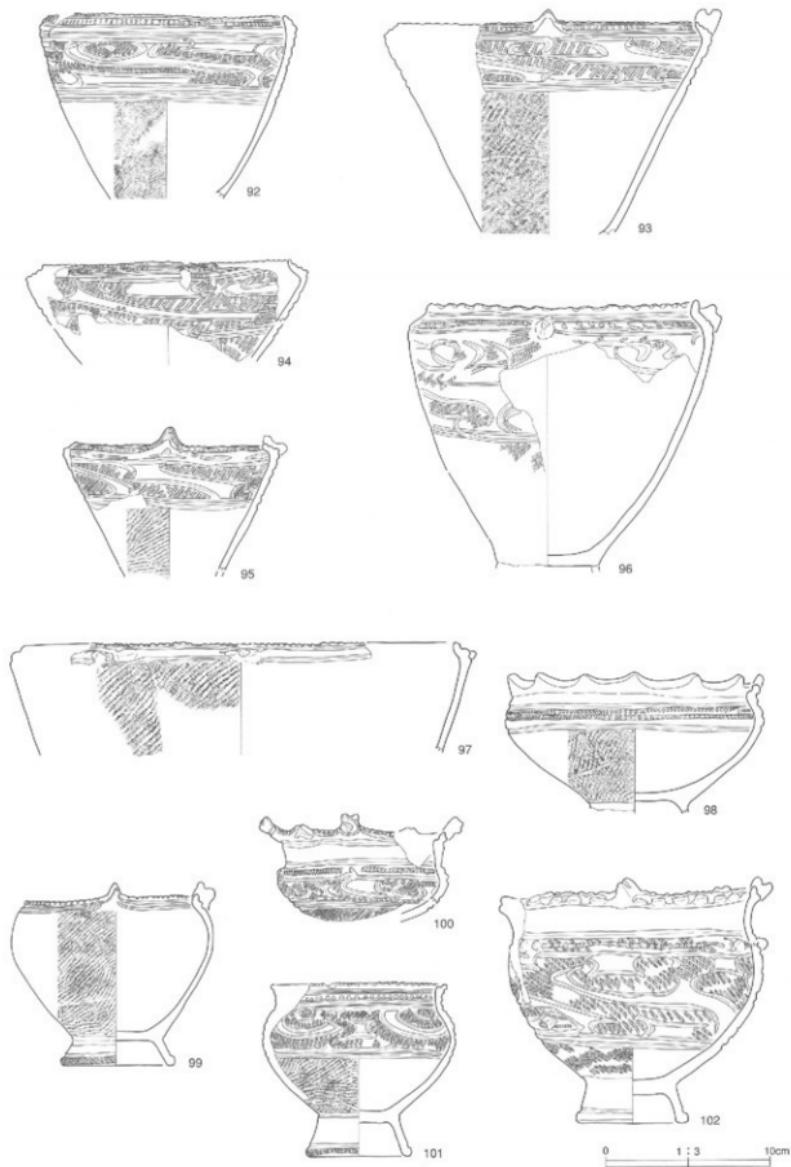
第22図 遺構内出土土器(5) RP001



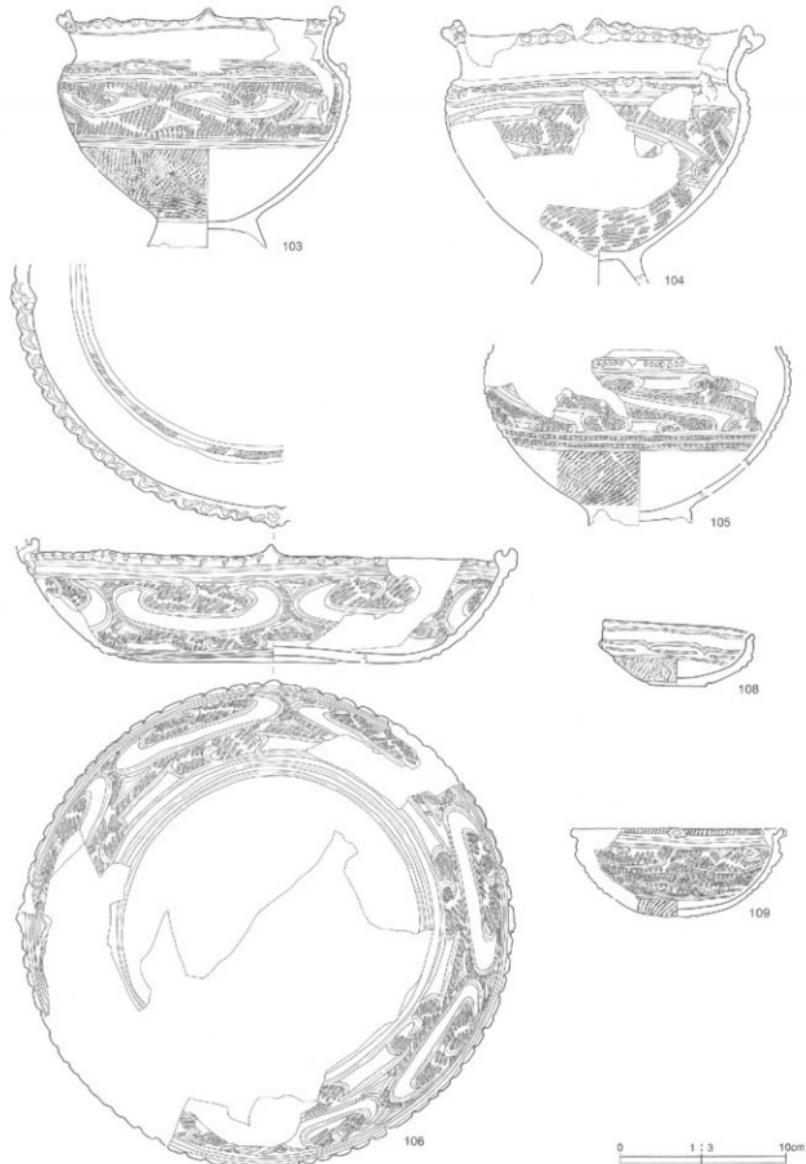
第23図 遺構内出土土器（6） RP001



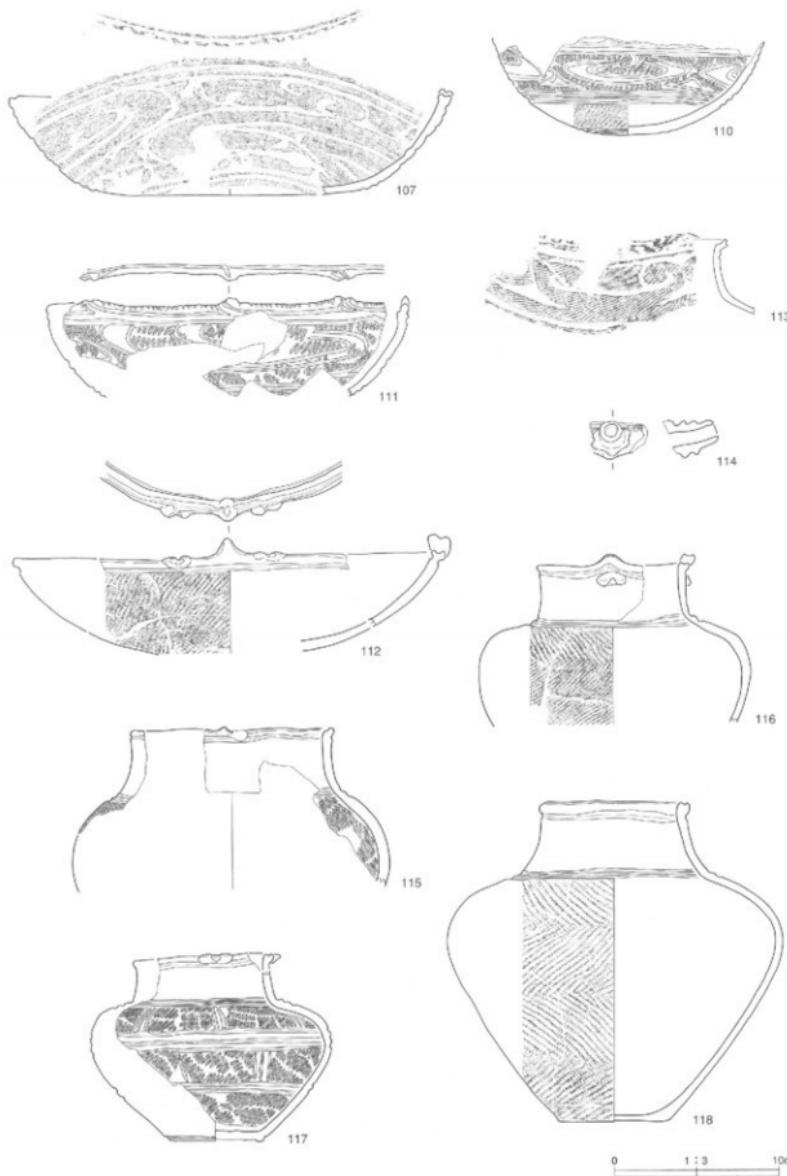
第24図 遺構内出土土器(7) RP001



第25図 遺構内出土土器（8）RP001



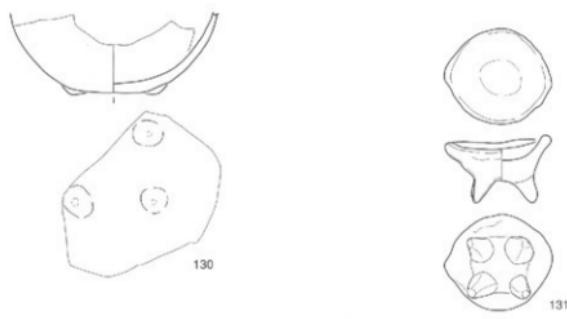
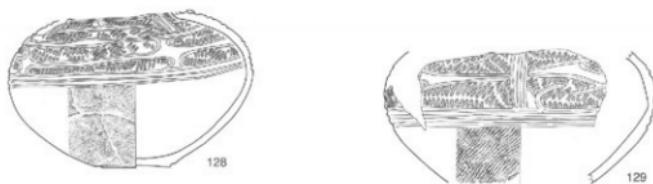
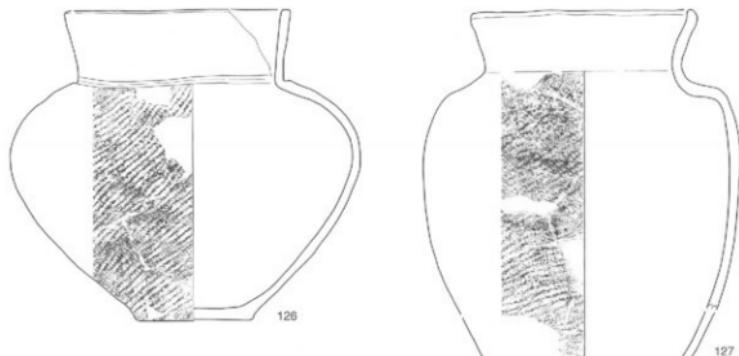
第26図 通構内出土土器（9） RP001



第27図 遺構内出土土器 (10) RP001

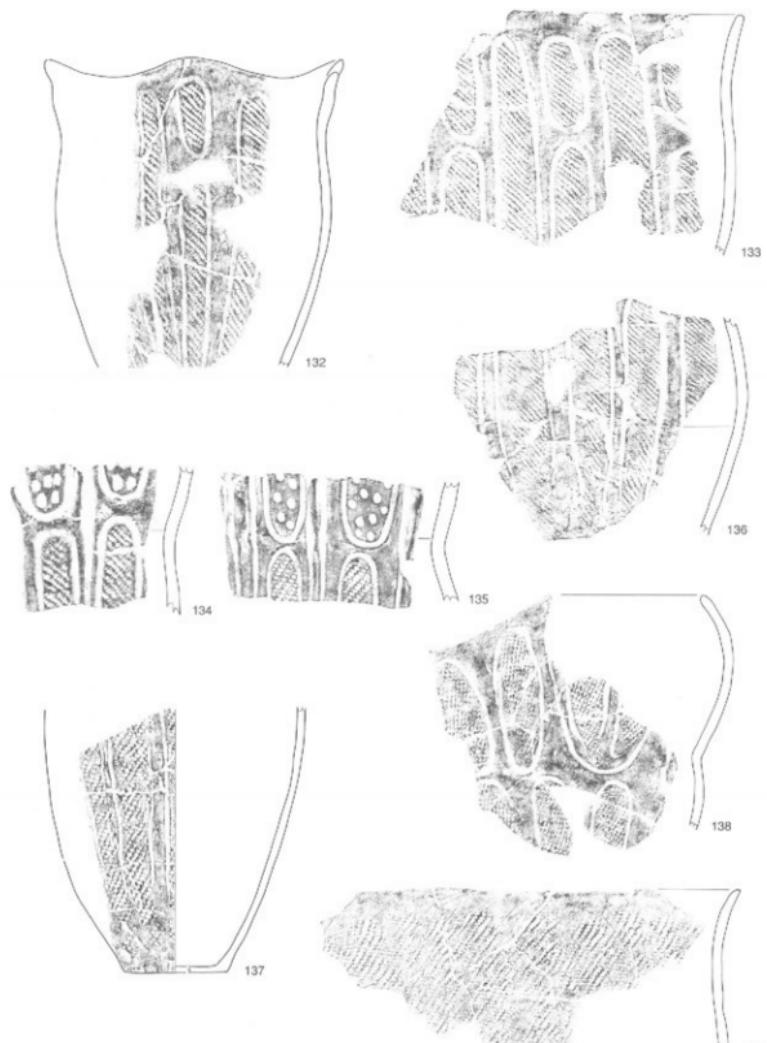


第28図 遺構内出土土器 (11) RP001



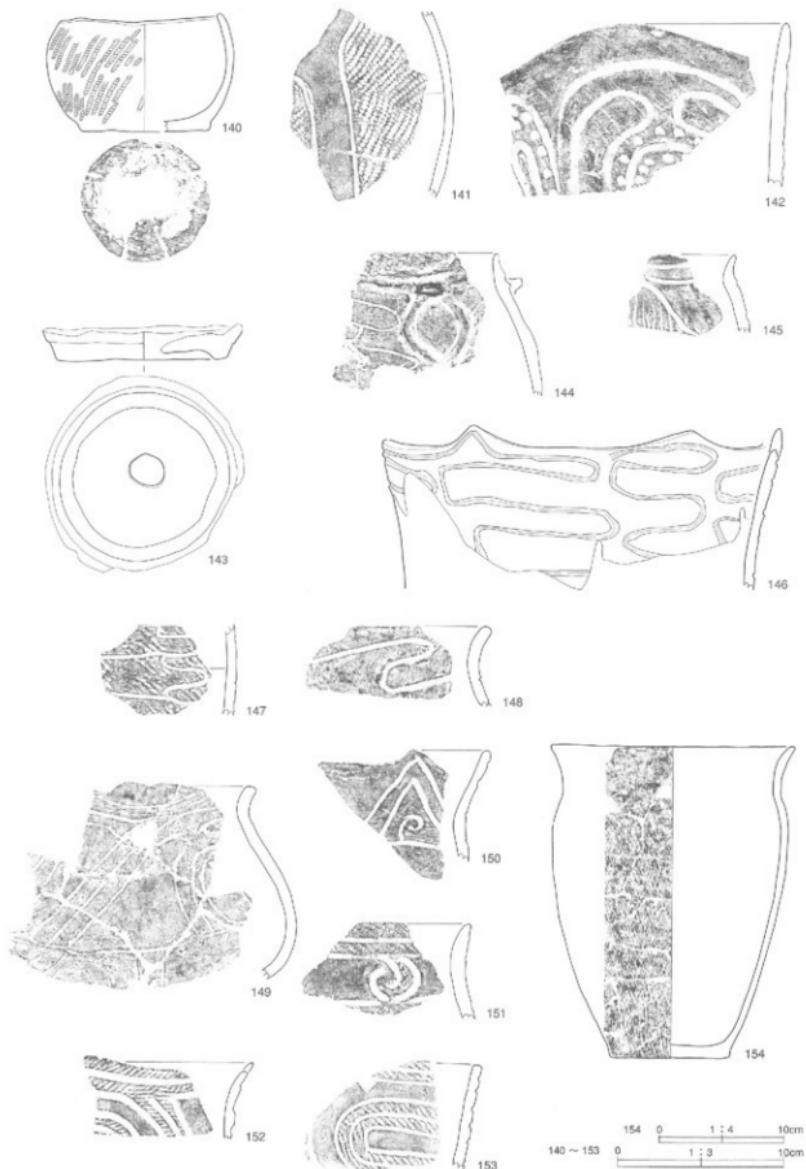
126 ~ 130 0 1 : 3 10cm  
131 0 1 : 2 10cm

第29図 遺構内出土土器 (12) RP001

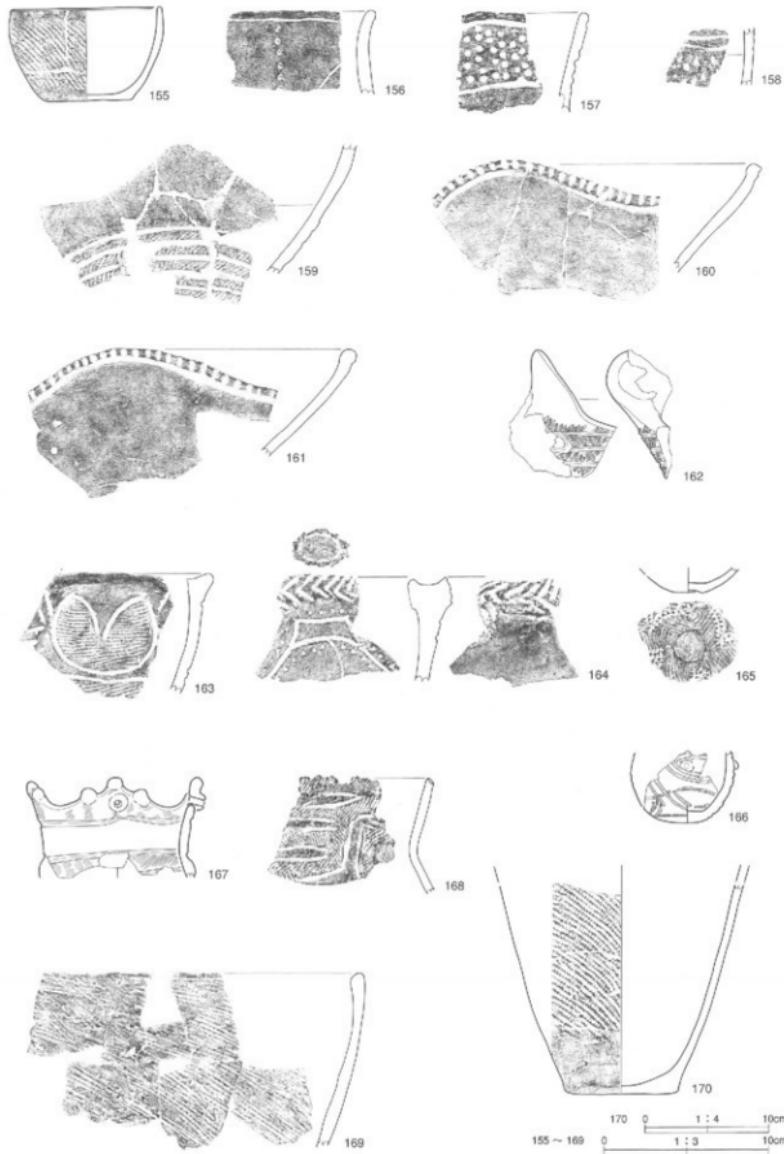


132・133・136～139 0 1:4 10cm  
134・135 0 1:9 10cm

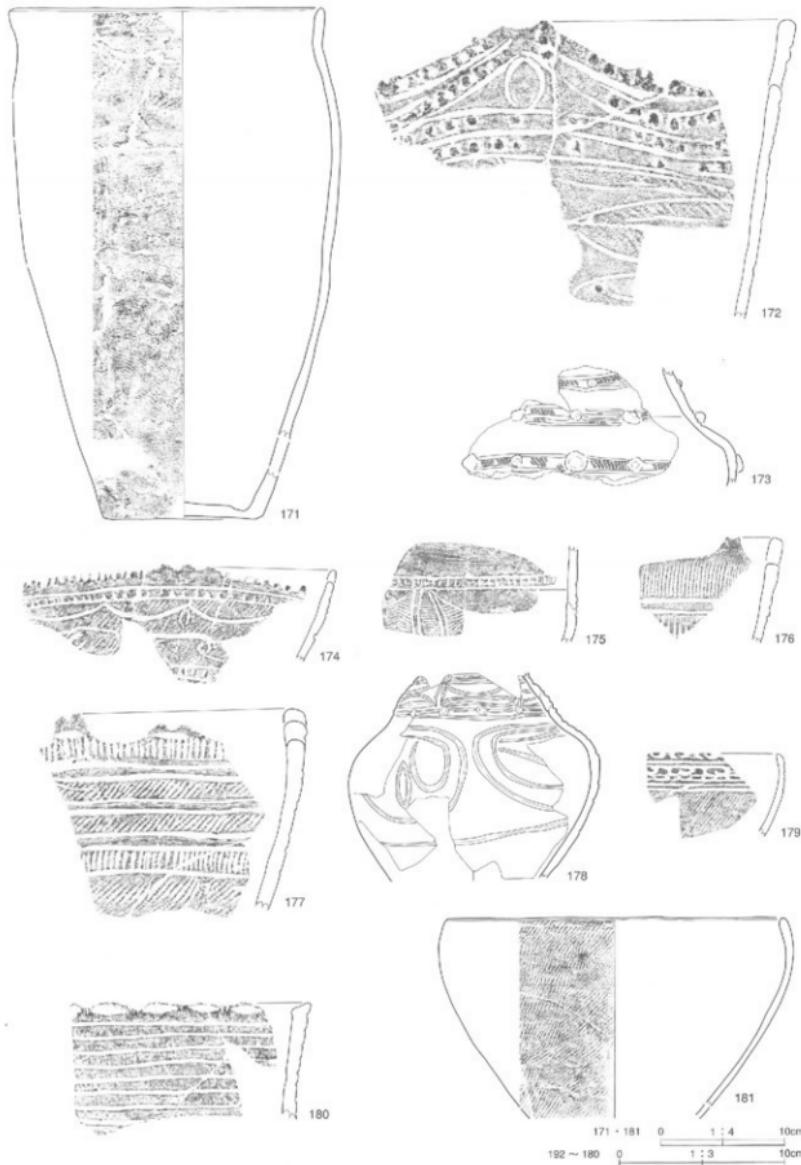
第30図 遺構外出土土器 (1)



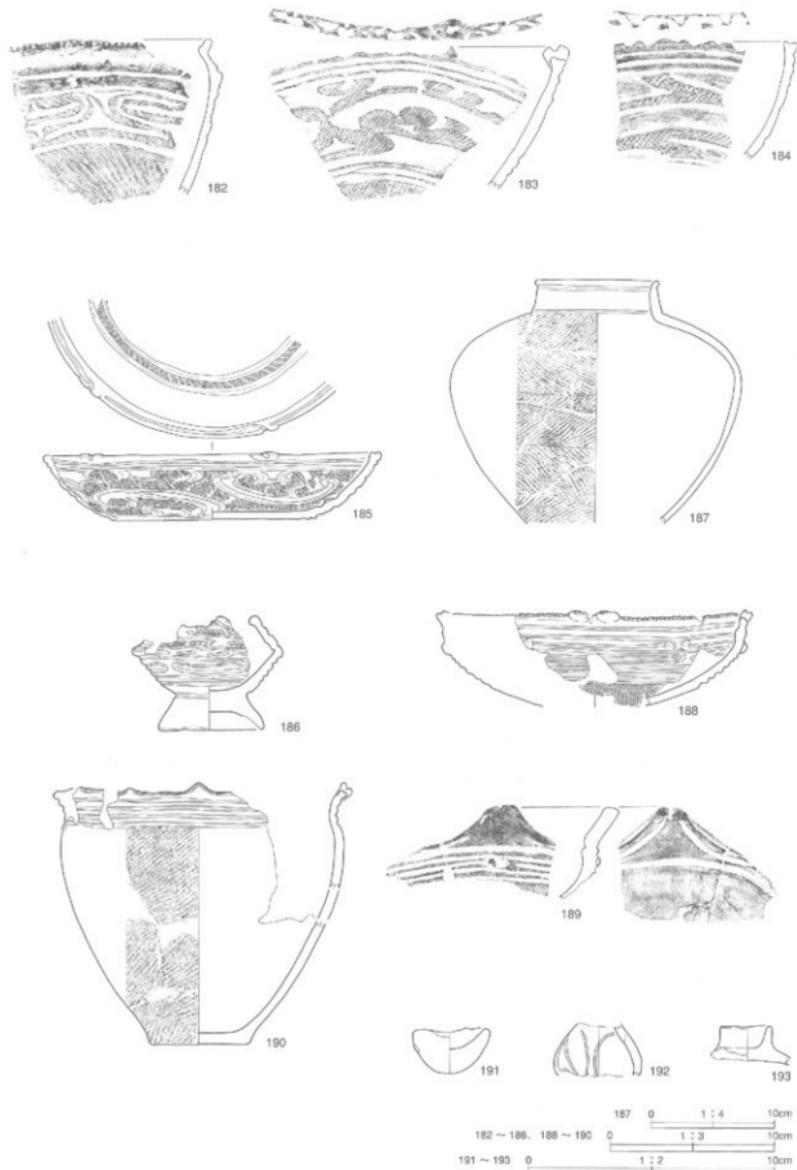
第31図 遺構外出土土器 (2)



第32図 遺構外出土土器 (3)



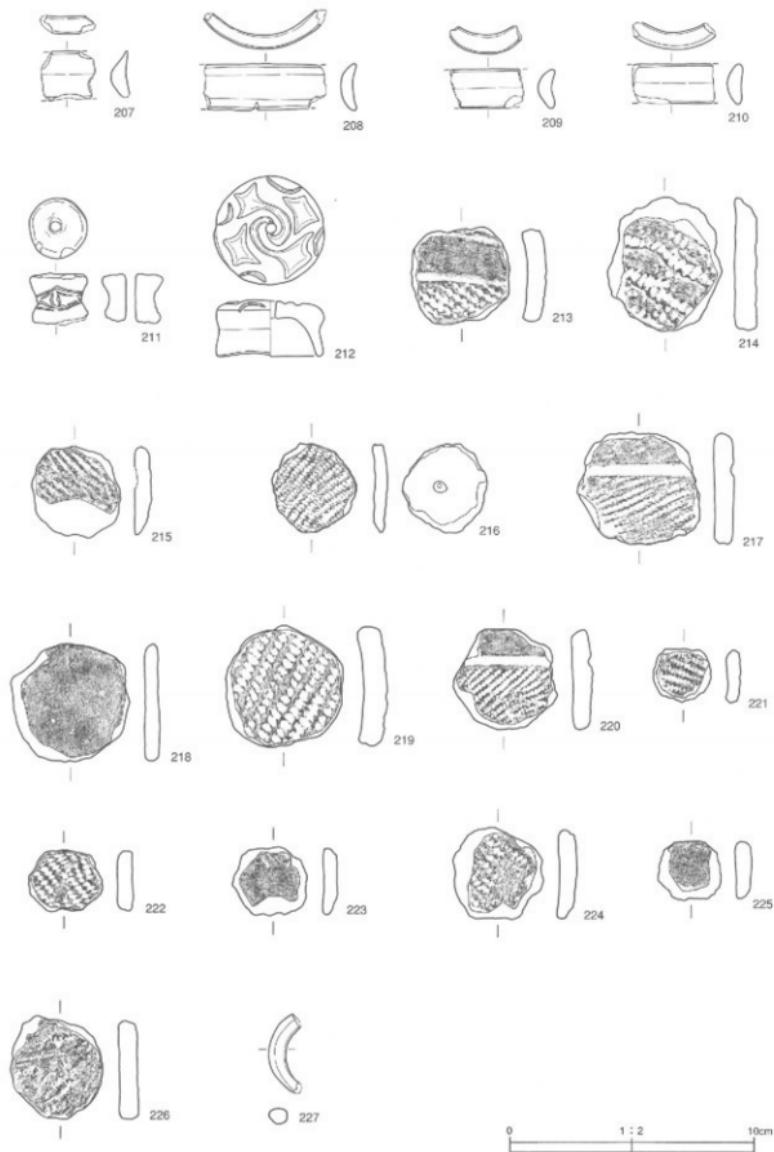
第33図 遺構外出土土器 (4)



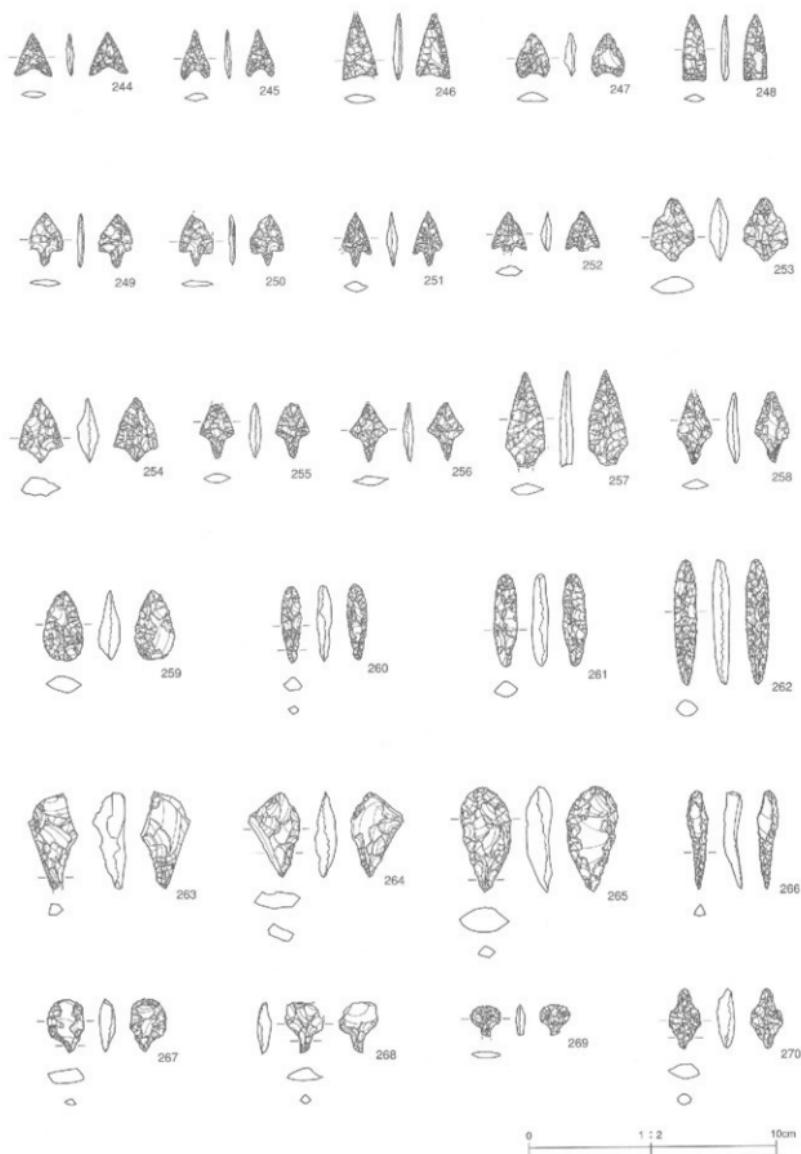
第34図 造構外出土土器 (5)



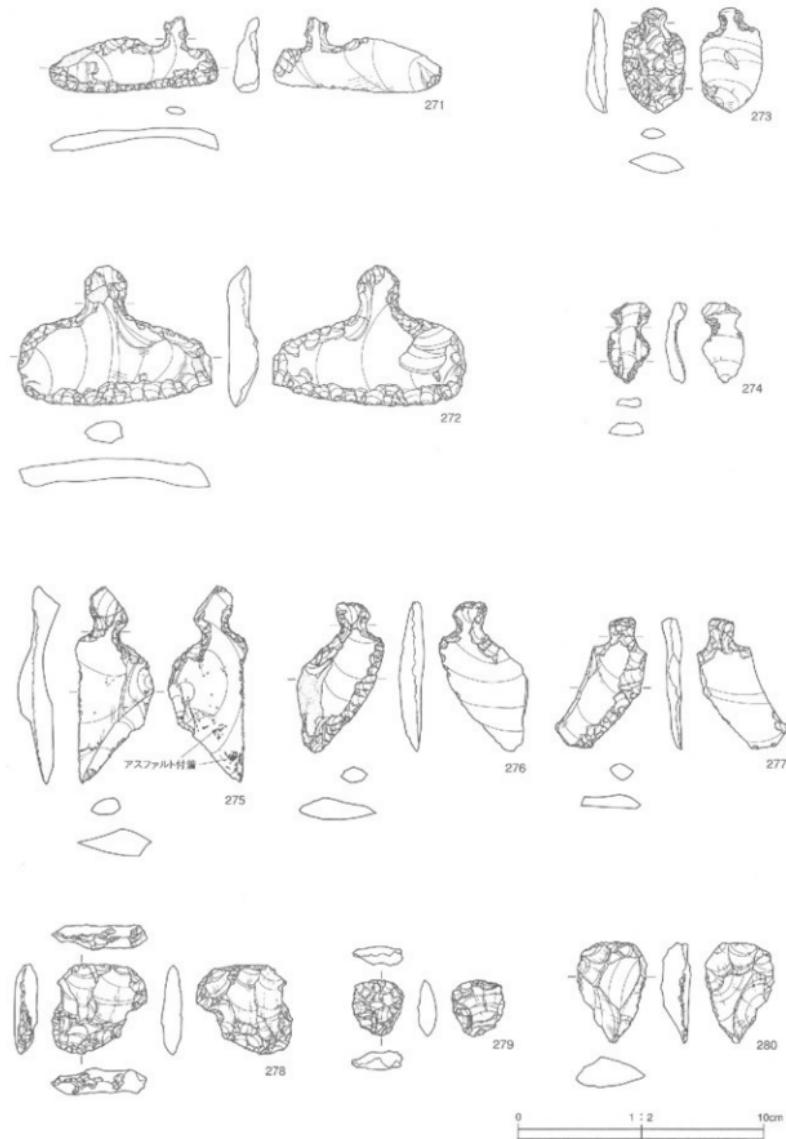
第35図 土製品(1)



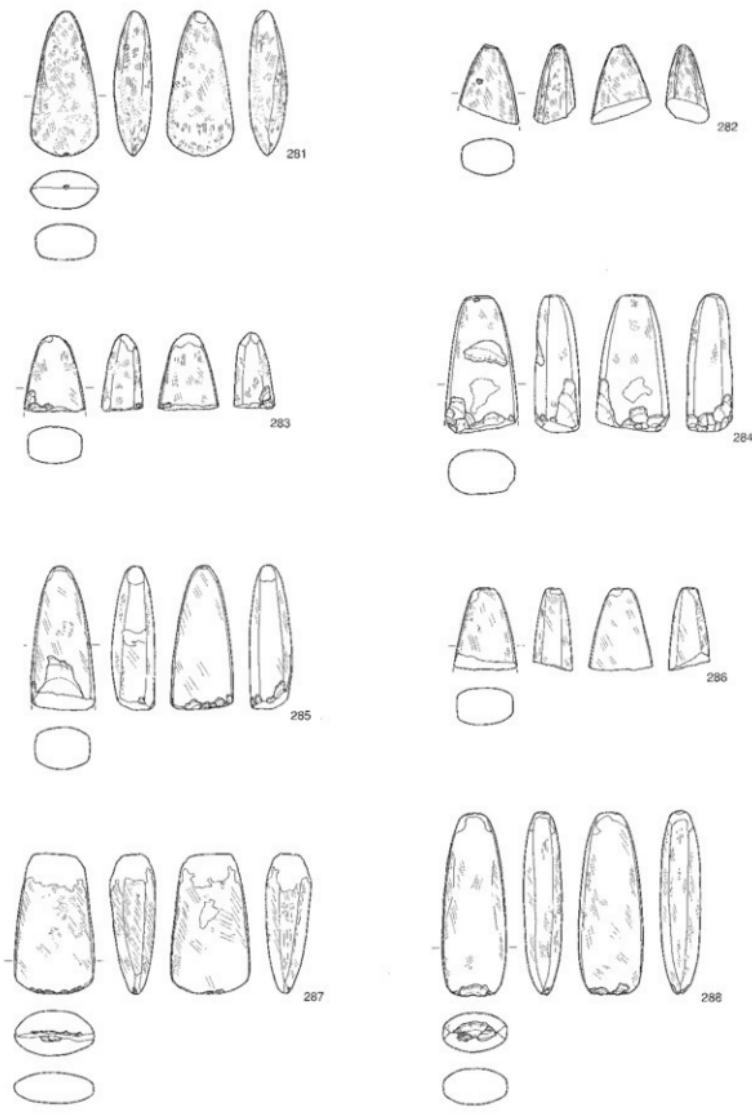
第36図 土製品(2)



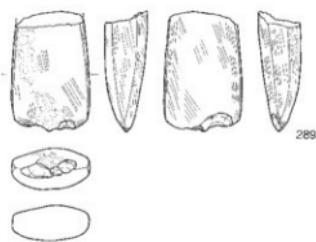
第37図 石器(1)



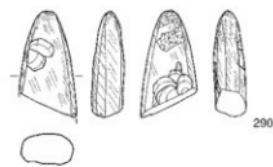
第38図 石器(2)



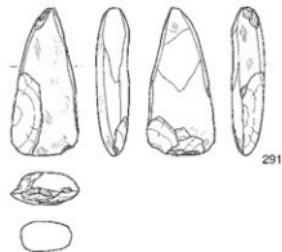
第39図 石器 (3)



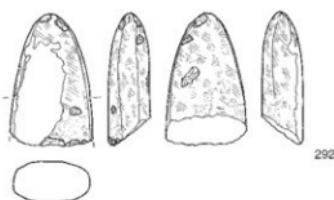
289



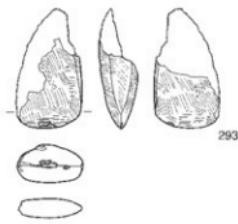
290



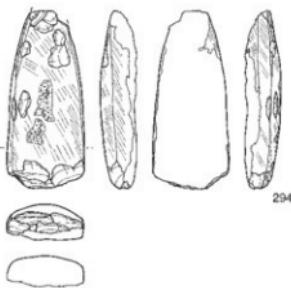
291



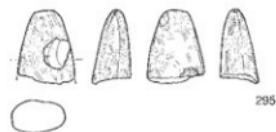
292



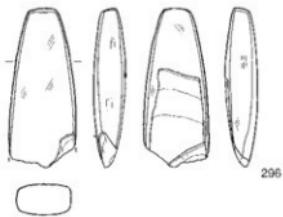
293



294



295



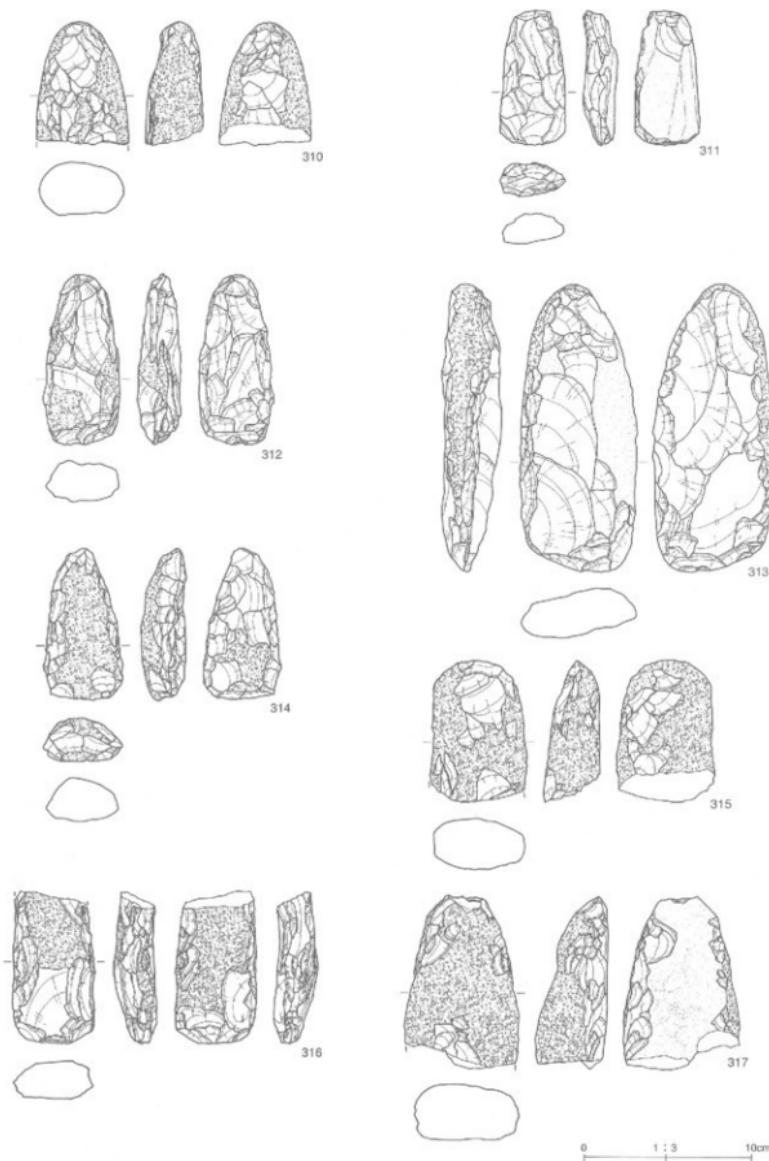
296

0 1 : 3 10cm

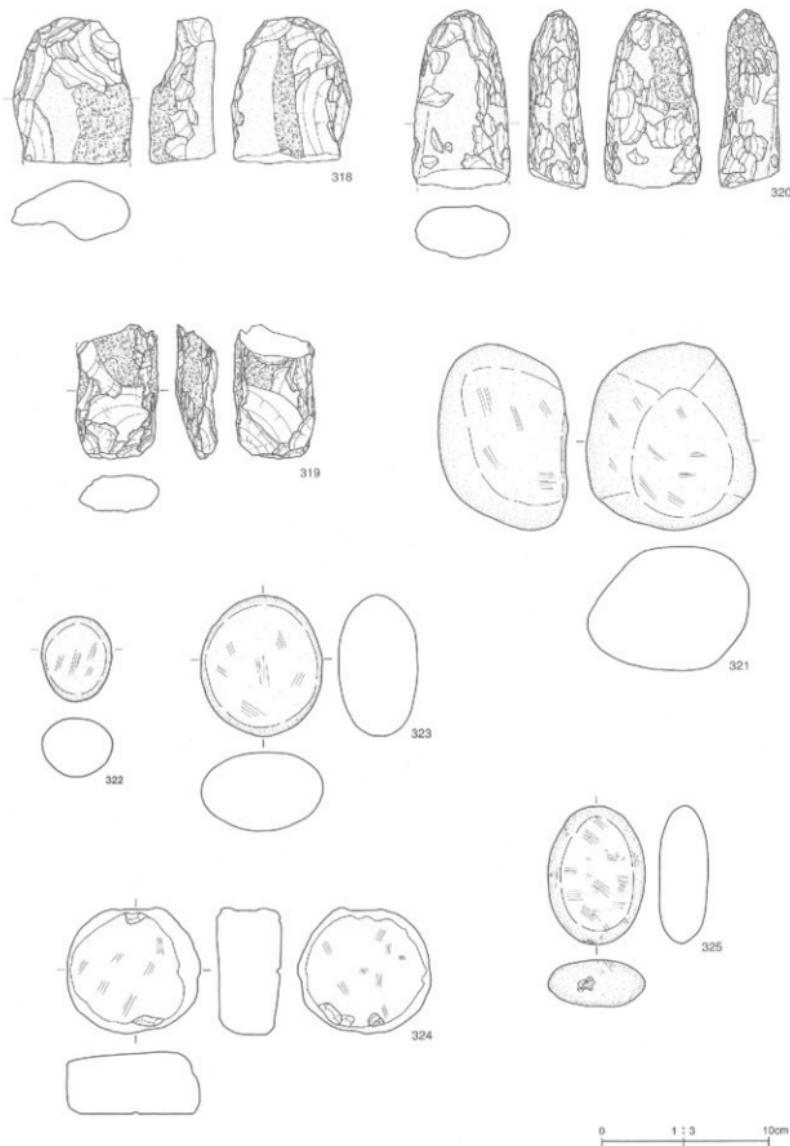
第40図 石器(4)



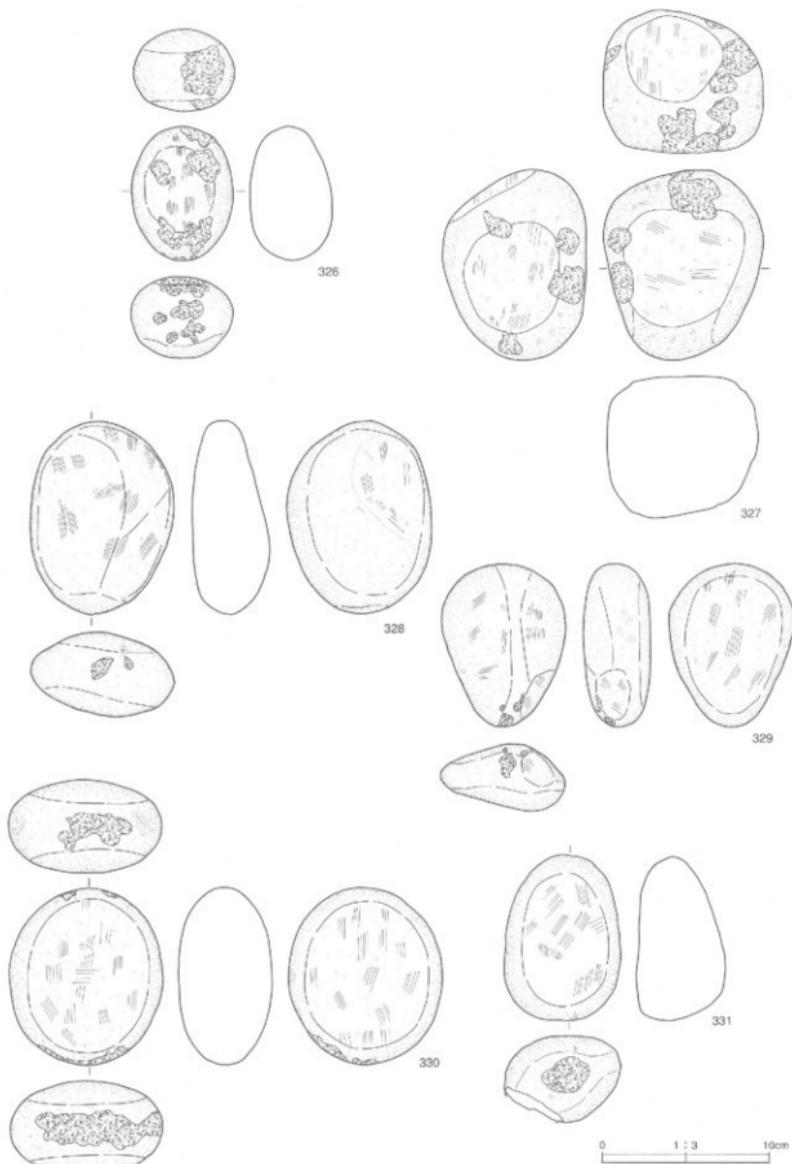
第41図 石器(5)



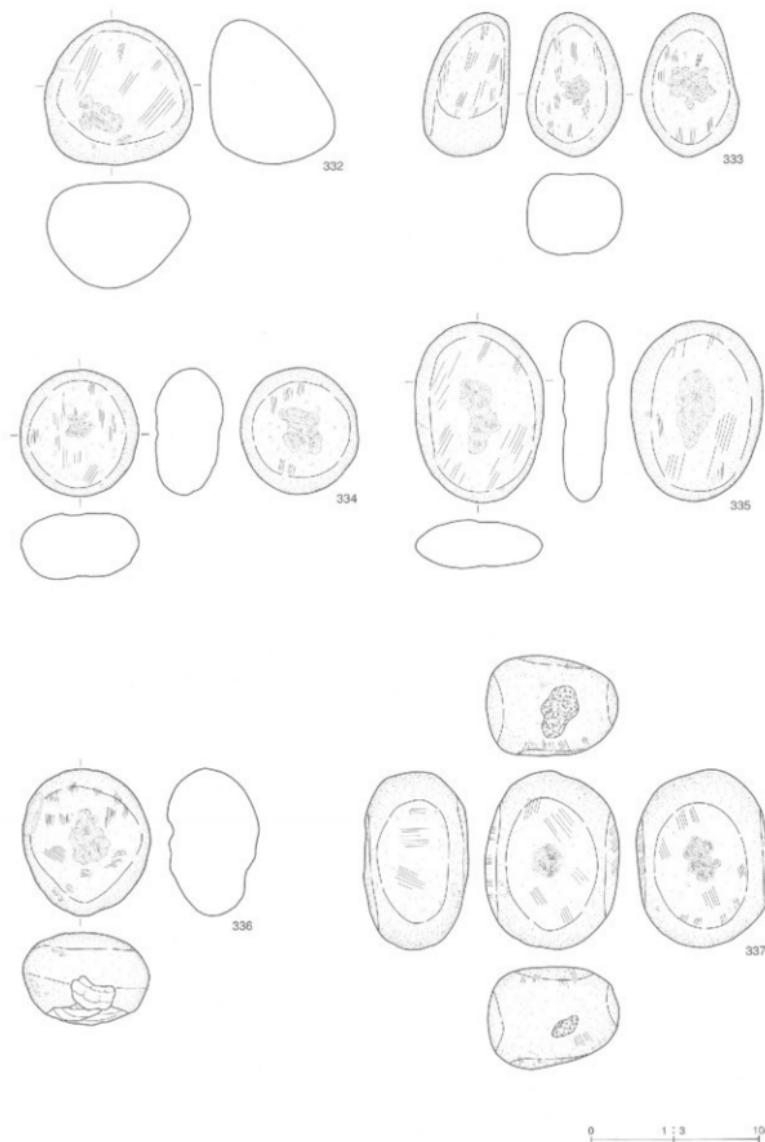
第42図 石器 (6)



第43図 石器 (7)



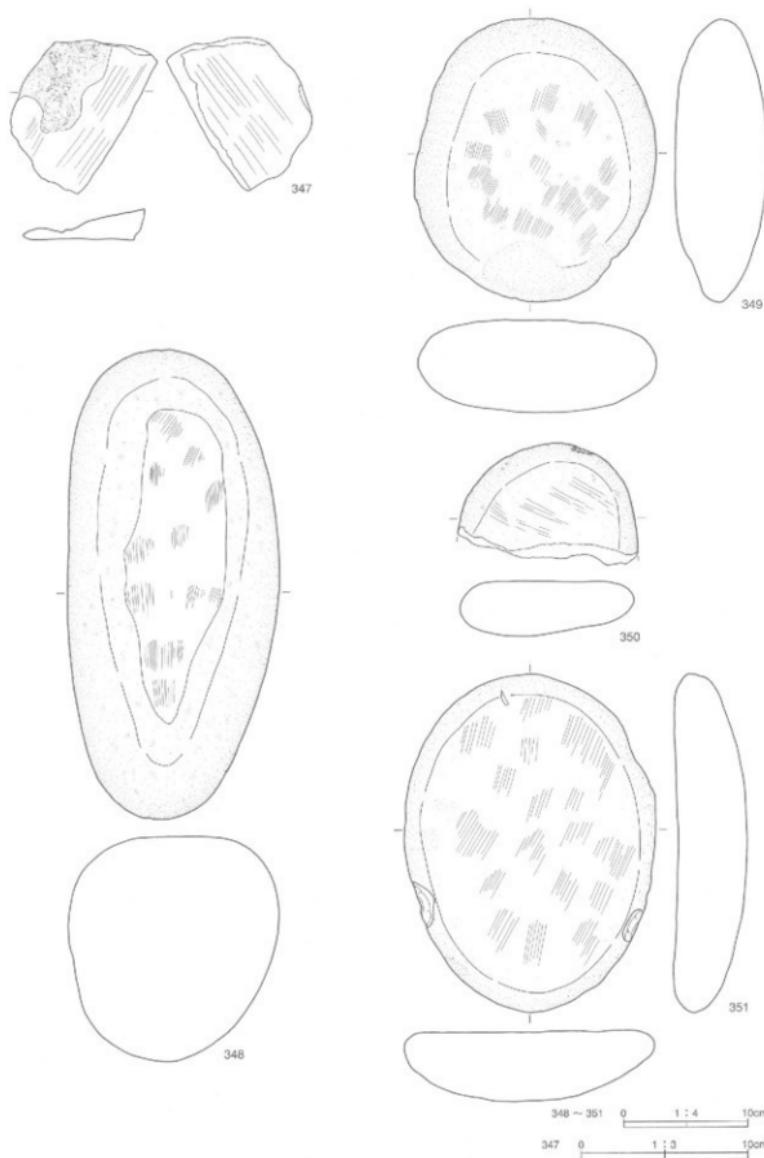
第44図 石器(8)



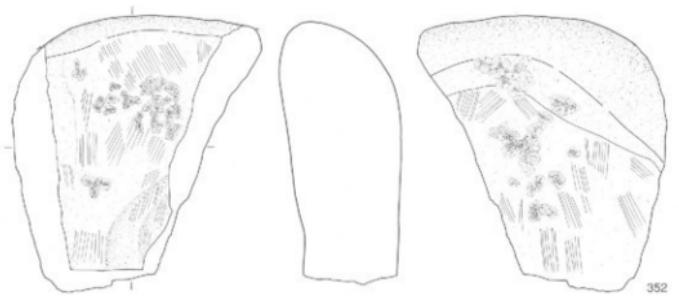
第45図 石器 (9)



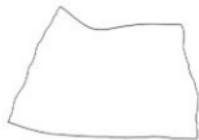
第46図 石器 (10)



第47図 石器 (11)



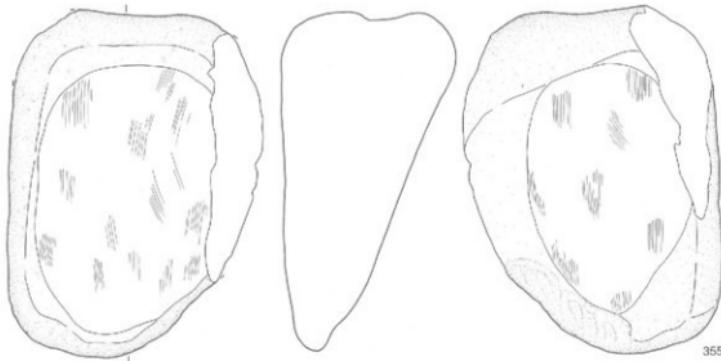
352



353



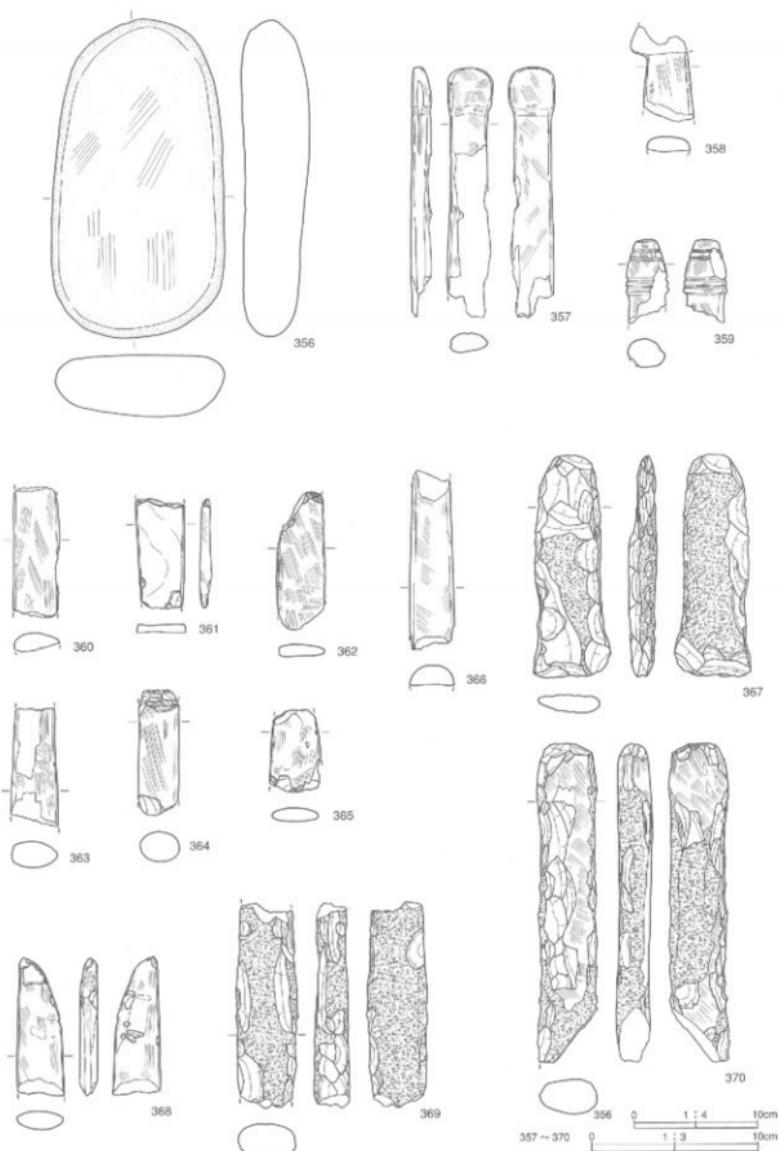
354



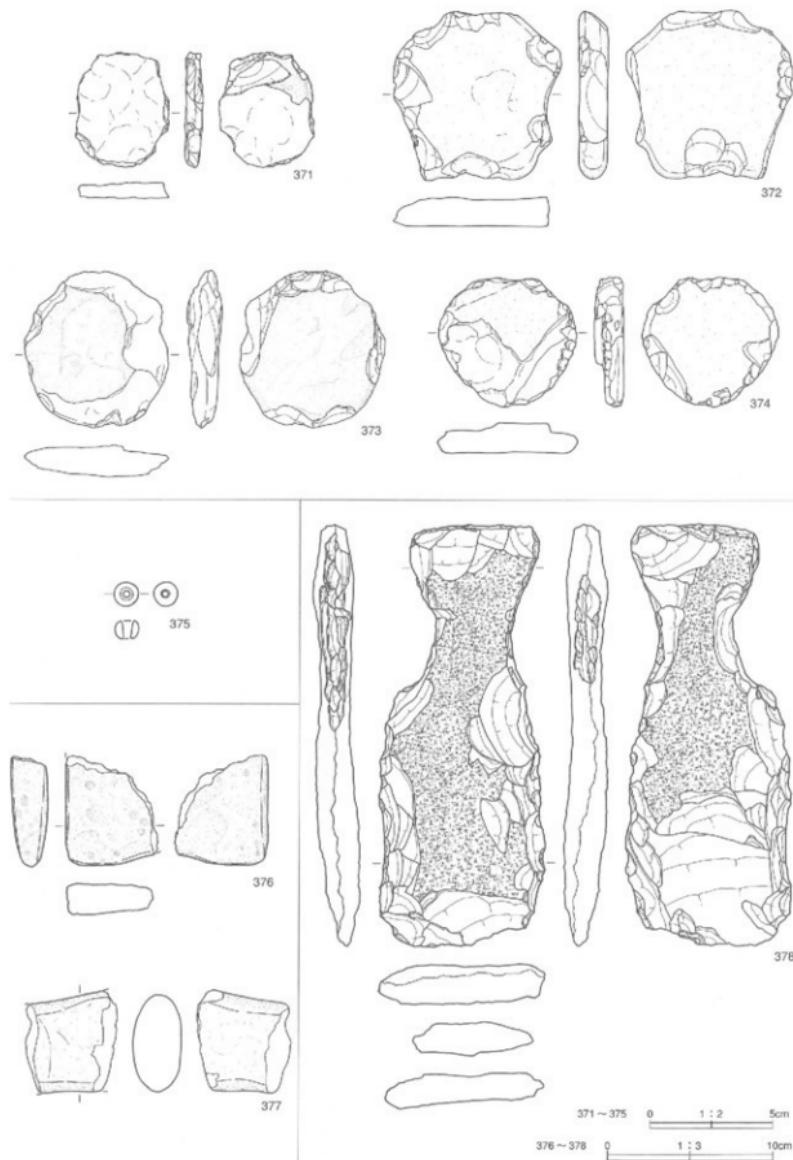
355

0 1 : 4 10cm

第48図 石器 (12)



第49図 石器(13)、石製品(1)



第50図 石器(14)、石製品(2)

第五表 土器觀察表(1)

No.	調査区	出土地点	層位	器種	外側(文様・施色・地文・原体など)		内面	分類	備考
					部位	口沿(cm)基底(cm)器高(cm)			
1	B区	R D002	埴土	深鉢	口縁部			II c	
2	B区	R D002	埴土	深鉢	口縫部			II c	
3	B区	R D002	埴土	深鉢	口縫部			II c	
4	B区	R D003	埴土	台形鉢?	口縫部			II c	
5	B区	R D003	埴土	堀?	口縫部			II c	
6	B区	R D003	埴土	深鉢	口縫部			II c	
7	B区	R D004	埴土	深鉢	口縫部			II c	
8	B区	R D004	埴土	深鉢	口縫部			II c	
9	B区	R D005	埴土	深鉢	口縫部			II c	
10	B区	R D005	埴土	深鉢	口縫部			II c	
11	B区	R D006	埴土	深鉢	口縫部			II c	
12	B区	R D006	埴土	深鉢	口縫部			II c	
13	B区	R D006	埴土	口十型	口縫部			II c	
14	B区	R D006	埴土	堀?	口縫部			II c	
15	B区	R D006	埴土	深鉢	口縫部			II c	
16	B区	R H003	土坑内	深鉢	口縫部			II c	
17	B区	R H003	土坑内	鉢	口縫部			II c	
18	B区	R H003	土坑内	盞?	口縫部			II c	
19	B区	R H005	土坑内	鉢	口縫部			II c	
20	B区	R H005	土坑内	深鉢	口縫部			II c	
21	B区	R H006	土坑内	深鉢	口縫部			II c	
22	B区	R H009	風呂附木製	深鉢	口縫部			II c	
23	B区	R H009	風呂附木製	深鉢	口縫部?			II c	
24	B区	R H010	土坑内	鉢	口縫部			II c	
25	B区	R H010	土坑内	鉢	口縫部			II c	
26	B区	P2	埴土	堀?	口縫部			II c	
27	B区	P4	埴土	深鉢	口縫部			II c	
28	B区	P6	埴土	深鉢	口縫部			II c	
29	B区	P6	埴土	鉢	口縫部			II c	
30	B区	P6	埴土	深鉢	口縫部			II c	
31	B区	P8	埴土	鉢?	口縫部			II c	
32	B区	P9	埴土	深鉢	口縫部			II c	
33	B区	P11	埴土	深鉢	口縫部			II c	
34	B区	P12	埴土	鉢	口縫部			II c	
35	B区	P12	埴土	深鉢	口縫部			II c	
36	B区	P15	埴土	鉢?	口縫部			II c	
37	B区	P15	埴土	鉢?	口縫部			II c	
38	B区	P17	埴土	鉢?	口縫部			II c	
39	B区	P17	埴土	盞?	口縫部			II c	

第5表 土器調査表(2)

NO	調査区	出土地點	場所	器種	部位	口径(cm)	底径(cm)	外観(文様・装飾・地文・原体など)	内面	外輪	参考	図版	写真
40	B区	P17	里1	鉢	口縁部	-	-	平縁口縁、浅鉢、R.L.鏡	ミガキ	II c	-	19	16
41	B区	P19	里1	深鉢	突起	-	-	浅縁口縁に沿つて施乳頭文、R.R.鏡	II b	-	-	19	16
42	B区	P19	里1	鉢	胸部	-	-	浅縁口縁、L.K	II c	-	-	19	16
43	B区	P20	埋土	鉢	口縁部	-	-	浅縁口縁、R.L.鏡	II	-	-	20	16
44	B区	P20	埋土	盞	口縁～脚部	(31.4)	-	平縁状口縁、口唇から縁に施乳頭(解)、R.R.	ナデ	III A 1	外面に焼付苔	20	17
45	A区	III B 7 q	II層	深鉢	口縁～脚部	(30.4)	-	小窓状口縁、縁部平行施乳頭、R.R.	ナデ	III B 1	-	20	17
46	A区	P・8 q	II層	深鉢	口縁～脚部	(33.0)	-	縁部平行施乳頭、R.R.	ナデ	III A 1	-	20	17
47	A区	III B 9 q	II層	深鉢	口縁～脚部	(33.0)	-	小窓状口縁、縁部平行施乳頭、R.R.	ナデ	III B 1	-	20	17
48	A区	III B 9 q	II層	深鉢	口縁～脚部	(31.8)	-	浅縁口縁、羽状縫文(R.R.+R.L.)	ナデ	III C	-	20	17
49	A区	III B 9 q	II層	深鉢	口縁部	-	-	口縁内面部から斜方向に施乳頭、口縫平行施乳文	ナデ	III C	-	20	17
50	A区	III B 9 q	II層	深鉢	口縁～脚部	34.5	-	口縁内面部から斜方向に施乳頭、口縫平行施乳文	ナデ	III C 2	-	20	18
51	A区	III B 9 q	II層	深鉢	口縁～脚部	(35.0)	-	口縁内面部から斜方向に施乳頭、R.R.	ナデ	III B 2	外面に焼付苔	20	18
52	A区	P・8 p	II～III層	深鉢	口縁～脚部	(28.0)	-	小窓状口縁、R.L.斜	ナデ	III C 3	-	20	18
53	A区	III B 8 p	II層	深鉢	口縁～脚部	(27.0)	-	小窓状口縁、R.L.	ナデ	III B 3	-	24	18
54	A区	P・8 p	II層	深鉢	口縁～底部	(36.0)	9.0	46.4 小窓状口縁、R.R.	ナデ	III A 3	外面に焼付苔	21	18
55	A区	III B 9 q	II層	深鉢	口縁～脚部	(31.2)	-	小窓状口縁、R.R.	ナデ	III C 3	-	21	19
56	A区	III B 9 q	II層	深鉢	口縁～底部	(16.8)	-	小窓状口縁、R.R.	ナデ	III C 3	-	21	19
57	A区	III B 10 q	II層	深鉢	口縁～脚部	(30.0)	-	小窓状口縁、R.R.	ナデ	III C 3	-	21	19
58	A区	III B 10 q	II層	深鉢	口縁～脚部	(40.0)	-	小窓状口縁、口縫底部施乳縫文、R.R.	ナデ	III C 3	-	21	19
59	A区	III B 10 q	II層	深鉢	口縁～脚部	(31.4)	-	小窓状口縁、R.R.	ナデ	III C 3	-	21	19
60	A区	III B 10 q	II層	深鉢	口縁～脚部	(33.0)	-	小窓状口縁、R.R.	ナデ	III C 3	外面に焼付苔	21	19
61	A区	III B 10 q	II層	深鉢	口縫部	(14.8)	-	小窓状口縁、R.R.	ナデ	III C 3	-	22	20
62	A区	III B 10 q	II層	深鉢	口縫部	(19.0)	7.0	21.0 小窓状口縁、R.R. 斜	ナデ	III C 4	-	22	20
63	A区	III B 9 q	II層	鉢	口縫～脚部	(6.7)	-	地文不明	ナデ	III A 4	-	22	20
64	A区	III B 9 q	II層	鉢	口縫～脚部	11.4	5.2	11.4 小窓状口縁、口縫底部小突起6箇、R.R.	ナデ	III A 1	-	22	20
65	A区	P・9 p	II層	鉢	口縫～底部	(14.5)	5.4	12.3 小窓状口縁、R.R.	ナデ	III A 2	-	22	20
66	A区	III B 10 q	II層	鉢	口縫～底部	10.8	4.4	10.1 小窓状口縁、R.R.	ナデ	III A 2	-	22	20
67	A区	III B 8 p	II層	鉢	口縫～底部	(14.0)	5.4	11.4 小窓状口縁、R.R.	ナデ	III B 1	-	22	20
68	A区	III B 8 p	II層	鉢	口縫～底部	20.2	7.4	15.0 小窓状口縁、R.R. 斜	ナデ	III B 1	-	22	20
69	A区	III B 8 o	II層	鉢	口縫～底部	13.2	4.5	10.6 汗腺文	ナデ	III B 2	-	22	20

第5表 土器觀察表 (3)

No	測量区	出土地點	層位	器種	部位	外觀(文様、形状、地文、原体など)	平面(m)正規(標準)		内面	分類	参考
							W	L			
70	A区	III B 9 p	II層	鉢	口縁~底部	(11.5) 4.8 9.4	小波状口縁、L型底	III B 2	22	21	四版、四孔
71	A区	III B 9 q	II層	鉢	口縁~底部	12.0 4.8 10.9	小波状口縁、L型底 内側に刻み、手捺部に2本の平行沈縦文、L型 底部に刻み、手捺部に2本の平行沈縦文、L型	ナデ	22	21	
72	A区	III B 9 q	II層	鉢	口縁~底部	14.0 6.0 12.7	小波状口縁、手捺部に2本の平行沈縦文、L型	ナデ	23	21	
73	A区	III B 9 p	II層	鉢	口縁~底部	(14.4) 4.6 12.2	小波状口縁、手捺部に2本の平行沈縦文、L型 内側に刻み、手捺部に1箇、L型底に2箇	ナデ	23	21	
74	A区	III B 10 q	II層	鉢	口縁~底部	20.0 5.8 17.7	小波状口縁、手捺部に2本の平行沈縦文、井網 状波状口縁、L型底	ナデ	23	21	
75	A区	III B 8 p	II層	鉢	口縁~底部	(9.9)	小波状口縁、L型底 内側に刻み、手捺部に2箇、口縫 部に4本の平行沈縦文、L型底部沈縦文、L型 底部、斜縫	ナデ	23	21	
76	A区	III B 7 p + s + p	II層	鉢	口縁~底部	(15.0)	小波状口縁、L型底 内側に刻み、手捺部に2箇、口縫 部に4本の平行沈縦文、L型底部沈縦文、L型 底部、斜縫	ナデ	23	21	
77	A区	III B 8 p	II層	鉢	口縁~底部	(12.5) 5.1 11.1	小波状口縁、L型底 内側に刻み、手捺部に2箇、口縫 部に4本の平行沈縦文、L型底部沈縦文、L型 底部、斜縫	ナデ	23	21	
78	A区	III B 8 p	II層	鉢	口縁~底部	(13.1)	小波状口縁、L型底 内側に刻み、手捺部に2箇、口縫 部に4本の平行沈縦文、L型底部沈縦文、L型 底部、斜縫	ナデ	23	21	
79	A区	III B 8 p	II層	鉢	口縁~底部	(17.0)	小波状口縁、L型底 内側に刻み、手捺部に2箇、口縫 部に4本の平行沈縦文、L型底部沈縦文、L型 底部、斜縫	ナデ	23	21	
80	A区	III B 9 p	II層	鉢	口縁~底部	(17.0)	小波状口縁、L型底 内側に刻み、手捺部に2箇、口縫 部に4本の平行沈縦文、L型底部沈縦文、L型 底部、斜縫	ナデ	23	21	
81	A区	III B 9 p	II層	鉢	口縁~底部	13.6	小波状口縁、L型底 内側に刻み、手捺部に2箇、口縫 部に4本の平行沈縦文、L型底部沈縦文、L型 底部、斜縫	ナデ	24	22	
82	A区	III B 9 p	II層	鉢	口縁~底部	13.6	小波状口縁、L型底 内側に刻み、手捺部に2箇、口縫 部に4本の平行沈縦文、L型底部沈縦文、L型 底部、斜縫	ナデ	24	22	
83	A区	III B 10 s	II層	鉢	口縁~底部	(20.8)	小波状口縁、L型底 内側に刻み、手捺部に2箇、口縫 部に4本の平行沈縦文、L型底部沈縦文、L型 底部、斜縫	ナデ	24	22	
84	A区	III B 9 q	II層	鉢	口縁~底部	(18.6)	小波状口縁、L型底 内側に刻み、手捺部に2箇、口縫 部に4本の平行沈縦文、L型底部沈縦文、L型 底部、斜縫	ナデ	24	22	
85	A区	III B 8 p	II層	鉢	口縁~底部	13.5 5.0 9.0	小波状口縁、L型底 内側に刻み、手捺部に2箇、口縫 部に4本の平行沈縦文、L型底 内側に刻み、手捺部に2箇、口縫 部に4本の平行沈縦文、L型底部沈縦文、L型 底部、斜縫	ナデ	24	22	
86	A区	III B 9 q	II層	鉢	口縁~底部	(16.2) 5.3 11.0	小波状口縁、L型底 内側に刻み、手捺部に2箇、口縫 部に4本の平行沈縦文、L型底部沈縦文、L型 底部、斜縫	ナデ	24	22	
87	A区	III B 9 q	II層	鉢	口縁~底部	19.0	小波状口縁、L型底 内側に刻み、手捺部に2箇、口縫 部に4本の平行沈縦文、L型底部沈縦文、L型 底部、斜縫	ナデ	24	22	
88	A区	III D 1	II層	鉢	口縁~底部	12.3	小波状口縁、L型底 内側に刻み、手捺部に2箇、口縫 部に4本の平行沈縦文、L型底部沈縦文、L型 底部、斜縫	ナデ	24	22	
89	A区	III B 8 p	II層	合併鉢	口縁~底部	14.0 6.5 11.1	小波状口縁、L型底 内側に刻み、手捺部に2箇、口縫 部に4本の平行沈縦文、L型底部沈縦文、L型 底部、斜縫	ナデ	24	23	
90	A区	III E 8 p	II層	合併鉢	口縁~底部	21.2	小波状口縁、L型底 内側に刻み、手捺部に2箇、口縫 部に4本の平行沈縦文、L型底部沈縦文、L型 底部、斜縫	ナデ	24	23	
91	A区	III B 8 p	II層	合併鉢	口縁~底部	21.2	小波状口縁、L型底 内側に刻み、手捺部に2箇、口縫 部に4本の平行沈縦文、L型底部沈縦文、L型 底部、斜縫	ナデ	24	23	

第5表 土器観察表(4)

No	調査区	出土地点	層位	器種	部位	口径(mm)	底径(mm)	高さ(mm)	外面(×2倍・拡大鏡・地文・鏡体反)	内面	分類	備考	陶器	写真
92	A区	III B 8 p	II層	台付鉢	口縁～脚部	14.0			小底伏口縁、脚部上半弦縫区間にによる磨削地文、口縫部底縫合部に弱い磨削地文、L.R		III B 2 b		25	23
93	A区	III B 9 p	II層	台付鉢	口縁～脚部	(18.0)			小底伏口縁、口縫部底縫合部に弱い磨削地文、口縫部底縫合部に弱い磨削地文、L.R		III B 2 b		25	23
94	A区	III B 9 p	II層	台付鉢	口縁～脚部	(14.3)			小底伏口縁、口縫部底縫合部に弱い磨削地文、L.R		III B 2 b		25	23
95	A区	III B 9 q	II層	台付鉢	口縁～脚部	11.5			小底伏口縁、口縫部底縫合部に弱い磨削地文、脚部上半弦縫区間にによる磨削地文、L.R		III B 2 b		25	23
96	A区	III B 7 p	II層	台付鉢	口縁～底部	16.0			小底伏口縁、口縫部底縫合部に弱い磨削地文、L.R		III C 2 b	内面に擦付着	25	23
97	A区	III B 8 p	II層	台付鉢	口縁～脚部				小底伏口縁、口縫部底縫合部に弱い磨削地文、L.R		III D 1 a		25	23
98	A区	III B 8 p	II層	台付鉢	口縁～台部	15.0			小底伏口縁、口縫部底縫合部に弱い磨削地文、L.R		III E 1 a		25	23
99	A区	III B 9 q	II層	台付鉢	口縁～台部	11.5	7.0	11.2	小底伏口縁、口縫部底縫合部に弱い磨削地文、L.R		III F 1 a		25	23
100	A区	III B 9 q	II層	台付鉢	口縁～脚部	11.5			小底伏口縁、口縫部底縫合部に弱い磨削地文、L.R		III G 3 b		25	23
101	A区	III B 10 q	II層	台付鉢	口縁～台部	10.6	6.4	10.6	小底伏口縁、口縫部底縫合部に弱い磨削地文、L.R		III G 2 b		25	24
102	A区	III B 9 q	II層	台付鉢	口縁～底部	16.5	6.8	14.9	口縫部底縫合部に弱い磨削地文、L.R		III H 4 b		25	24
103	A区	III B 9 q	II層	台付鉢	口縁～台部	17.3			口縫部底縫合部に弱い磨削地文、L.R		III H 3 b	内外面に擦付着	26	24
104	A区	III B 10 s	II層	台付鉢	口縁～底部	17.5			小底伏口縁、口縫部底縫合部に弱い磨削地文、L.R		III H 4 b	内面に擦付着	26	24
105	A区	III B 10 s	II層	台付鉢	口縁～底部				小底伏口縁、口縫部底縫合部に弱い磨削地文、L.R		III b		26	24
106	A区	III B 8 p	II層	浅鉢	口縁～底部	31.2	18.5	19.4	口縫部底縫合部に弱い磨削地文、L.R		III C c		26	24
107	A区	III B 9 p	II層	浅鉢	口縁～底部	(27.0)			口縫部底縫合部に弱い磨削地文、L.R		III C c		27	24
108	A区	III B 7 q	II層	浅鉢	口縁～底部	9.0	3.6	4.0	口縫部底縫合部に弱い磨削地文、L.R		III B b		26	24
109	A区	III B 8 q	II層	浅鉢	口縁～底部				口縫部底縫合部に弱い磨削地文、L.R		III A b		26	24
110	A区	III B 8 q	II層	浅鉢	口縁～底部	(21.6)			口縫部底縫合部に弱い磨削地文、L.R		III A b		27	25
111	A区	III B 8 q	II層	浅鉢	口縁部				口縫部底縫合部に弱い磨削地文、L.R		III		27	25

第5表 土器觀察表(5)

NO	調査区	出土地点	層位	器種	部位	口径(cm)底径(cm)器高(cm)	外面(文様・色彩・地文・原体など)	内面	分類	備考	図版	写真
112	A区	III B 9 p	II層	浅鉢	口縁～脚部	(26.0)	口唇部大突起・小突起、II層頂部に沈文、L.R	ナデ	III a		27	25
113	A区	III B 8 p	II層	注口鉢	口縁部		口唇部突起、II層頂部の沿岸溝文、R.L	ミガキ	III		27	25
114	A区	III B 8 q	II層	注口鉢	口縁部	(12.3)	口唇部突起、II層頂部に沈文、R.L	ナデ	III A 1 a		27	25
115	A区	III B 8 p	II層	卷	口縁～脚部	9.2	口唇部に突起、II層部下位に沈文、羽状縫	ナデ	III A 1 a		27	25
116	A区	III B 8 p	II層	卷	脚部		口唇部に突起、II層部に沈文、羽状縫	ナデ	III A 1 c		27	25
117	A区	III B 9 p	II層	鉢	口縁～底部	8.4 (5.6)	口唇部に突起、II層部上位に沈文、非粘土質	ナデ	III A 1 a		27	25
118	A区	III B 10 q	II層	壺	口縁～底部	9.1	II層部と口縁部、脚部間に沈文、II層部と口縁部に沈文、R.L	ナデ	III A 1 a		27	25
119	A区	III B 9 p	II層	壺	口縁～底部	9.5	II層部と口縁部、脚部間に沈文、羽状縫	ナデ	III A 1 a		28	25
120	A区	III B 10 q	II層	壺	口縁～脚部	(7.0)	II層部無文、R.L	ナデ	III A 2 a		28	25
121	A区	III B 8 p	II層	壺	口縁～脚部	(8.2)	II層部上位に突起と沈文、脚部上半沈文によ る瓦痕文、L.R	ナデ	III B 1 b		28	25
122	A区	III B 9 p	II層	壺	口縁～底部	7.4	II層部上位に突起と沈文、II層部・脚部間に II層部と口縁部、脚部間に沈文、R.L	ナデ	III B 1 a		28	26
123	A区	III B 9 p	II層	壺	口縁～脚部	(6.3)	II層部・脚部間に沈文、II層部上半沈文によ る瓦痕文、R.L	ナデ	III B 2 a		28	26
124	A区	III B 8 p	II層	壺	口縁～底部	10.0	II層部大突起・小突起、II層部上半沈文によ る瓦痕文、R.L	ミガキ	III C 1 b		28	26
125	A区	III B 9 p	II層	壺	口縁～底部	(9.2)	II層部と口縁部、脚部間に沈文、R.L	ナデ	III C 1 a		28	26
126	A区	III B 9 p	II層	壺	口縁～底部	5.0	II層部と脚部間に沈文、R.L	ナデ	III C 2 a		29	26
127	A区	III B 8 p	II層	壺	口縁～脚部	(13.6)	II層部と脚部間に沈文、R.L	ナデ	III C 2 a		29	27
128	A区	III B 8 p	II層	壺	脚部	7.0	II層部上半沈文による瓦痕文、R.L	ナデ	III b	赤色顔料付着	29	27
129	A区	III B 9 q	II層	壺	脚部	4.0	II層部上半沈文による瓦痕文、R.L	ナデ	III d	内外面に焼付着	29	27
130	A区	III B 7 q	II層	壺	底部		底部の台4半位					
131	A区	III B 7 p	II層	ミニチュア	口縁～脚部	4.4	2.3 2.8 台4所					
132	B区	VD 9 h	IV層	深鉢	口縁～脚部	(24.0)	浅状口縁、橢円状の沈文による滑滌文、 L.R	ナデ	I		30	28
133	B区	VD 10 b	IV層	深鉢	脚部		椭円状の沈文による滑滌文、L.R	ナデ	I		30	28
134	B区	VD 9 h	IV層	深鉢	脚部		椭円状の沈文、L.R	ナデ	I		30	28
135	B区	VD 10 i	IV層	深鉢	脚部		椭円状の沈文、R.L	ナデ	I		30	28
136	B区	VD 10 h	IV層	深鉢	脚部		II層部区画による滑滌文、R.L	ナデ	I		30	28
137	B区	VD 11 h	IV層	深鉢	脚部～底部	8.5	II層部区画による滑滌文、橢円状の区画、R.L	ナデ	I		30	28
138	B区	VD 12 j	IV層	深鉢	脚部		II層部区画による滑滌文、R.L	ナデ	I		30	28

第5表 土器觀察表(6)

No	關東区	出土地点	層位	器種	部位	口径(Dm)底径(Dm)高(Dm)	外側(文様・其飾・地文・原体など)		内側	分類	備考	圖版	写真
							R.L.裏	底部					
139	B区	VD12j	W層	深鉢	口縁～脚部	9.7	7.7	7.8	R.L.裏	ナデ	1	30	28
140	B区	VD10h	W層	鉢	口縁～底部	10.3	8.0	8.0	底部X、L.R	ナデ	1	31	28
141	A区	III B 8 o	W層	深鉢	脚部	10.3	8.0	8.0	底部口縁、底部X、L.R	ナデ	1	31	28
142	B区	VD10h	W層	深鉢	口縁部	10.3	8.0	8.0	底部口縁、底部丸あり	ナデ	1	31	28
143	B区	VD8 g	W層	深鉢	底部	10.3	8.0	8.0	底部丸あり	ナデ	1	31	28
144	A区	III B 10 s	H層	深鉢	底部	10.3	8.0	8.0	底部丸あり	ナデ	1	31	29
145	A区	W.B.6	1～H層	蓋	口縁部	10.3	8.0	8.0	底部丸あり	ナデ	1	31	29
146	B区	IVC19v	H層	深鉢	口縁部	(23.6)	18.0	18.0	底部丸あり	ナデ	1	31	29
147	B区	VD1 a	地面上	深鉢	口縁部	10.3	8.0	8.0	底部丸あり	ナデ	1	31	29
148	A区	III B 4 m	H層	深鉢	口縁部	10.3	8.0	8.0	底部丸あり	ナデ	1	31	29
149	B区	IVC18 s	H層	深鉢	蓋	10.3	8.0	8.0	底部丸あり	ナデ	1	31	29
150	B区	VD13 k	H層	深鉢	脚部	10.3	8.0	8.0	底部丸あり	ナデ	1	31	29
151	B区	VD10 j	H層	深鉢	鉢	10.3	8.0	8.0	底部丸あり	ナデ	1	31	29
152	B区	VD10 h	H層	深鉢	口縁部	10.3	8.0	8.0	底部丸あり	ナデ	1	31	29
153	A区	III B 8 p	1～H層	深鉢	口縁部	10.3	8.0	8.0	底部丸あり	ナデ	1	31	29
154	A区	III B 6 p	W層	深鉢	口縁～底部	19.8	9.5	25.5	網目状縦溝、底部木半痕	ナデ	1	31	29
155	B区	VD10 i	H層	深鉢	口縁部	(9.0)	5.3	5.7	底部丸あり	ナデ	1	31	29
156	B区	VD12 j	H層	深鉢	口縁部	10.3	8.0	8.0	底部丸あり	ナデ	1	31	29
157	B区	VD10 i	H層	深鉢	口縁部	10.3	8.0	8.0	底部丸あり	ナデ	1	31	29
158	B区	IVC16 r	H層	深鉢	口縁部	10.3	8.0	8.0	底部丸あり	ナデ	1	32	29
159	B区	VD10 h	H層	深鉢	口縁部	10.3	8.0	8.0	底部丸あり	ナデ	1	32	29
160	B区	VD11 j	H層	深鉢	口縁部	10.3	8.0	8.0	底部丸あり	ナデ	1	32	30
161	B区	VD10 h	H層	深鉢	口縁部	10.3	8.0	8.0	底部丸あり	ナデ	1	32	30
162	B区	IVC25 x	H層	深鉢	口縁部	10.3	8.0	8.0	底部丸あり	ナデ	1	32	30
163	B区	VD14 j	H層	深鉢	口縁部	10.3	8.0	8.0	底部丸あり	ナデ	1	32	30
164	B区	VD14 m	H層	深鉢	口縁部	10.3	8.0	8.0	底部丸あり	ナデ	1	32	30
165	B区	IVC23 x	H層	深鉢	底部?	2	2.0	2.0	底部丸あり	ナデ	1	32	30
166	B区	IVC25 w	H層	深鉢	底部?	2	2.0	2.0	底部丸あり	ナデ	1	32	30
167	B区	IVC23 x	H層	深鉢	底部?	(10.2)	8.0	8.0	底部丸あり	ナデ	1	32	30
168	B区	IVC25 w	H層	深鉢	口縁部	10.3	8.0	8.0	底部丸あり	ナデ	1	32	30
169	B区	VD9 g	H～III層	深鉢	口縁～脚部	9.0	7.0	7.0	底部丸あり	ナデ	1	32	30
170	A区	III B 9 p	W層	深鉢	脚部?	25.6	12.8	41.6	底部木半痕	ナデ	1	32	30
171	A区	BD7 p	W層	深鉢	底部?	25.6	12.8	41.6	底部木半痕	ナデ	1	33	30
172	B区	VD9 g	H層	深鉢	底部?	25.6	12.8	41.6	底部木半痕	ナデ	1	33	31
173	B区	IVC25 y	H層	深鉢	口上器部～脚部	25.6	12.8	41.6	底部木半痕	ナデ	1	33	31
174	B区	IVC23 w	H層	鉢	口縁部	25.6	12.8	41.6	底部木半痕	ナデ	1	33	31

第5表 土器監観表(7)

NO.	調査区	出土地点	層位	器種	部位	口径(cm) 壁厚(cm) 壁高(cm)	外面(文様・具飾・他文・原体など)	内面		分類	備考
								H.c?	H.c?		
175	B区	V D1 a	Ⅲ層	深鉢	口縁～脚部	—	波瀾文 L.R. 連続目文	—	—	—	33 31
176	B区	V D20 v	Ⅲ層	深鉢	口縁部	—	口縁直部に突出部目文、口縁直部に突起、L.R.	—	—	—	33 31
177	B区	IV C24 s	Ⅰ～Ⅲ層	深鉢	口縫部	—	口縁文、貼飾	—	—	—	33 31
178	B区	IV C24 y	Ⅲ層	深鉢	口縫部	—	波瀬文、文様帶 1.R.	—	—	—	33 31
179	B区	V D2 b	Ⅲ層	鉢	口縫部	—	小波状口縁、波瀬文間に文様帶 1.R.	—	—	—	33 31
180	B区	IV C21 u	Ⅲ層	深鉢	口縫部	—	小波状口縁、平行化粧文	—	—	—	33 31
181	C区	IV C18 k	Ⅲ層	深鉢	口縫～脚部	—	波瀬文、L.R.	—	—	—	33 31
182	C区	IV C19 k	Ⅲ層	手付鉢	口縫～脚部	—	波瀬文、L.R.	—	—	—	34 32
183	B区	IV C23 w	Ⅲ層	浅鉢	口縫部	—	口縫突起 1個、丸原間で半浮脱的2迄内腹文、ミガキ	—	—	—	34 32
184	B区	IV C24 y	Ⅲ層	浅鉢	口縫～脚部	—	波瀬区側の治削痕、L.R.	—	—	—	34 32
185	B区	IV C23 w	Ⅲ層	浅鉢	口縫～脚部	(10.0)	12.5 5.1 1.0	—	ミガキ	—	34 32
186	B区	IV C17 r	Ⅲ層	各鉢	脚部～台形	(6.0)	16.1 6.0 1.0	端ふくつき帯、波文	—	—	34 32
187	B区	IV C24 y	Ⅲ層	盃	口縫～脚部	(9.6)	16.1 6.0 1.0	口縁波文、平行化粧文、波文	(L.R. R.L.)	ナデ	34 32
188	B区	V D5 e	Ⅲ層	浅鉢	口縫～底部	(17.7)	6.0 16.1 1.0	口縫突起、平行化粧文	L.R.	—	34 32
189	B区	IV C17 s	Ⅲ層	浅鉢	口縫～脚部	(9.2)	—	口縫突起、波文	口唇部周囲 H. R.L.	—	34 32
190	B区	IV C18 j	Ⅲ層	鉢	ミニチュア	—	山形波點、外内面化粧文、口唇部波文	—	—	—	34 32
191	B区	IV C21 u	Ⅲ層	深鉢	ミニチュア	3.1	—	—	—	—	34 32
192	B区	IV C23 w	Ⅲ層	深鉢	ミニチュア	—	波紋文	—	—	—	34 32
193	B区	IV C18 s	Ⅲ層	鉢	ミニチュア	—	—	—	—	—	34 32

表( )は推定値。

第6表 土器品觀察表(1)  
土鍋

NO.	調査区	出土地点	層位	部位	長さ(cm)	幅(cm)	腹さ(cm)	底盤(cm)	文様	つくり	内期	備考
195	B区	V D11	Ⅲ層下	制作・陶輪・脚部	8.5	8.2	2.2	10.1	中実	無文	後期	輪郭に貫通孔2箇所
196	B区	V D5 d	Ⅲ層	脚部上半	(4.8)	4.8	2.0	37.6	中実	腹版に隆起	後期	—
197	A区	VD 9 p	II層	脚部	(6.6)	3.9	0.7	50.1	中実	中実	後期	—
198	B区	VD 11 i	Ⅲ層上	脚部	(2.1)	2.6	0.8	4.3	中実	中実	後期	—
199	B区	VD 7 f	Ⅲ層	脚部(左?)	2.6	1.2	0.6	3.2	中天	—	後期	—
200	B区	VD 11 i	Ⅲ層	脚部	0.7	0.6	1.0	1.0	—	—	後期	—
201	B区	IV C23 w	Ⅲ層	右輪	—	—	—	—	—	—	後期	—
202	A区	III B10 r	底土	脚部(左?)	(4.3)	2.8	(2.0)	26.3	中実	波文	後期	—
203	B区	VD 1 b	Ⅲ層上	右輪	(3.8)	2.5	2.0	16.4	中空	中実	後期	波006輪辺
204	B区	IV C24 y	Ⅲ層	脚部	2.9	2.7	0.6	4.6	27.7	中空	波006輪辺	—
205	B区	IV C16 r	Ⅲ層	脚部(左?)	(2.3)	4.0	1.5	12.0	中空	中空	後期	—
206	B区	IV C23 w	Ⅲ層	右輪	4.0	3.3	—	—	—	—	後期	—

## 動物形土製品

NO.	調査区	出土地点	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	底盤(cm)	文様	内期	備考
193	B区	IV C21 v	Ⅲ層	5.9	3.9	3.4	36.2	後期～後期中期	イノシシ、土鶴の一部か、命2周側は残存部。
									35 33

第6表 土製品相索表 (2)  
耳飾り

No.	調査区	出土地点	部位	種類	径 (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	時期	備考	分類	図版	写図
207	B区	IV.C23w	Ⅲ層	滑車形	2.0	0.6	3.0				I b	36	34
208	B区	IV.C24y	Ⅲ層	滑車形	1.9	0.5	7.0				I b	36	34
209	B区	IV.C24y	Ⅲ層	滑車形	1.6	0.6	3.6				I b	36	34
210	B区	VD2 a	Ⅲ層上	滑車形	3.4	1.6	5.1				I b	36	34
211	B区	VC25y	複屈	耳飾型	2.5	2.4	2.0	11.9	晚期初期	玉丸き三叉文	II	36	34
212	B区	IV.C23w	Ⅲ層	滑車形	4.5	2.3	32.5		晚期初期～前期	三叉文	I a	36	34

## 円盤状土製品

No.	調査区	出土地点	部位	形狀	縦径 (cm)	横径 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	文様	時期	備考	図版	写図
213	B区	R.F.003	飛鳥内	口唇部	3.7	3.9	0.8	16.6	沈線文、R.L.R	中期後半	外縁打欠	36	34
214	A区	III.B.8 o	Ⅲ層	胸部	5.5	4.7	0.9	28.9	L.R		外縁打欠	36	34
215	A区	III.B.9 q	Ⅲ層上	胸部	3.6	3.6	0.6	9.3	R.L		外縁打欠	36	34
216	A区	III.B.9 q	Ⅲ層	胸部	3.6	3.4	0.5	7.5	R.L		外縁打欠	36	34
217	B区	IV.C.15 c	Ⅲ層	口縫部	4.5	5.0	0.8	22.7	沈線文、L.R		外縁打欠	36	34
218	B区	IV.C.19 i	Ⅲ層	直筋	4.8	4.7	0.6	16.1			外縁打欠	36	34
219	B区	IV.C25y	Ⅲ層	胸部	4.9	4.7	0.9	28.3	L.R		外縁打欠	36	34
220	B区	VD1 a	Ⅲ層	口縫部	4.1	4.1	0.8	15.4	沈線文、L.R		外縁打欠	36	34
221	B区	VD1 a	Ⅲ層	胸部	2.2	2.4	0.5	3.0	R.L		外縁打欠	36	34
222	B区	VD1 a	Ⅲ層	胸部	2.4	3.0	0.6	5.4	L.R		外縁打欠	36	34
223	B区	VD7 f	Ⅲ層	胸部	2.7	3.0	0.5	6.0			外縁打欠、底部	36	34
224	B区	VD7 f	Ⅲ層	胸部	3.6	3.6	0.7	12.2	L.R		外縁打欠	36	34
225	B区	VD10 j	Ⅲ層	口縫部	2.3	2.6	0.6	4.9			外縁打欠、底部	36	34
226	B区	VD12 j	Ⅲ層	底部	4.0	3.7	0.7	14.2			外縁打欠、底部	36	34

## 不明土製品

No.	調査区	出土地点	部位	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	時期	備考	図版	写図
227	B区	VB10 h	II層	0.7	2.0	2.0				36	34

## 粘土塊

No.	調査区	出土地点	部位	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	写図				
228	B区	RD004	埴土	3.02	2.12	1.67	6.6	34				
229	B区	RD005	埴土	3.86	3.02	1.86	13.0	34				
230	B区	RD006	埴土	1.52	1.64	1.20	1.9	34				
231	B区	VC18 i	Ⅲ層	1.54	1.68	1.11	2.0	34				
232	B区	VC19 v	Ⅲ層	1.50	1.85	1.35	2.7	34				
233	B区	VC20 u	Ⅲ層	1.70	1.41	0.97	1.5	34				
234	B区	VC20 v	Ⅲ層	2.49	2.54	1.48	4.5	34				
235	B区	VC23 w	Ⅲ層	3.04	2.23	1.73	10.6	34				
236	B区	IV.C.23w	Ⅲ層					2.27	2.09	1.42	3.6	34
237	B区	IV.C.24y	Ⅲ層					2.95	3.48	1.36	7.7	34
238	B区	IV.C.25y	Ⅲ層					3.22	2.74	1.47	9.4	34
239	B区	IV.C.25y	Ⅲ層					2.39	2.13	1.30	5.2	34
240	B区	VD9 h	Ⅲ層					1.97	1.41	1.10	1.6	34
241	B区	VD9 h	Ⅲ層					3.85	3.81	3.19	15.8	34
242	B区	VD10 k	Ⅲ層					2.03	1.67	1.23	2.7	34
243	B区	VD10 j	Ⅲ層					1.67	1.31	8.67	1.5	34

## 粘土塊

No.	調査区	出土地点	部位	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	写図
244	B区	VD10 k	Ⅲ層					

第7表 石器調査表 (1)

No.	調査区	出土地点	層位	器種	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	石質	参考	図版	写真
244	B区	P11	層1:	石撲	1.87	1.51	0.26	0.4	めのう	新生代第三紀 北上山地所産 鮫革	37	35
245	B区	V.D1.b	I層	石撲	2.54	1.63	0.81	0.4	黒曜石	新生代第三紀 北上山地所産 鮫革	37	35
246	B区	V.D14n	II層	石撲	2.76	1.39	0.45	1.0	頁岩	新生代第三紀 新生代第三紀	37	35
247	A区	V.D16m	III層	石撲	1.81	1.35	0.50	0.8	頁岩	新生代第三紀 新生代第三紀	37	35
248	A区	III B 7.g	II層	石撲	2.74	0.96	0.32	0.8	めのう	新生代第三紀 新生代第三紀	37	35
249	A区	III B 9.P	II層	石撲	2.17	1.35	0.29	0.6	頁岩	新生代第三紀 新生代第三紀	37	35
250	B区	V.D11.i	IV層	石撲	(2.08)	1.34	0.26	0.5	頁岩	新生代第三紀 新生代第三紀	37	35
251	B区	V.D12.j	II層	石撲	2.29	(1.18)	0.45	0.5	黒曜石	新生代第三紀 新生代第三紀	37	35
252	B区	V.D12.j	II層	石撲	1.57	1.38	0.42	0.6	めのう	新生代第三紀 新生代第三紀	37	35
253	B区	IV.C25.y	III層	石撲	2.57	1.76	0.69	2.5	社質頁岩	新生代第三紀 新生代第三紀	37	35
254	B区	V.D10.s	II層	石撲	2.61	1.77	0.88	2.4	頁岩	新生代第三紀 新生代第三紀	37	35
255	A区	III B 8.P	挖掘	石撲	(2.21)	1.35	0.46	1.0	めのう	新生代第三紀 新生代第三紀	37	35
256	B区	IV.C17.s	III層	石撲	2.35	1.55	0.49	0.8	頁岩	新生代第三紀 新生代第三紀	37	35
257	C区	IV.C18.j	II層	石撲	3.89	1.67	0.55	2.7	頁岩	新生代第三紀 新生代第三紀	37	35
258	C区	IV.C20.i	II層	石撲	(2.86)	1.36	0.48	1.2	頁岩	新生代第三紀 新生代第三紀	37	35
259	A区	III B 9.P	挖掘	石撲	2.84	1.61	0.85	3.0	社質頁岩	新生代第三紀 新生代第三紀	37	35
260	B区	IV.C21.u	III層	石撲	3.08	0.81	0.61	1.2	社質頁岩	新生代第三紀 新生代第三紀	37	35
261	B区	V.D10.h	IV層	石撲	3.74	0.92	0.72	2.4	頁岩	新生代第三紀 新生代第三紀	37	35
262	B区	V.D10.i	II～III層	石撲	5.11	0.93	0.71	3.1	頁岩	新生代第三紀 新生代第三紀	37	35
263	B区	III B 8.P	挖掘	石撲	(3.91)	2.11	1.25	7.4	頁岩	新生代第三紀 新生代第三紀	37	35
264	A区	III B 9.P	II層	石撲	4.30	2.02	0.75	3.8	頁岩	新生代第三紀 新生代第三紀	37	35
265	B区	IV.C23.w	III層	石撲	4.02	0.86	1.04	9.2	頁岩	新生代第三紀 新生代第三紀	37	35
266	B区	IV.C7.f	II～III層	石撲	4.02	1.53	0.65	2.1	社質頁岩	新生代第三紀 新生代第三紀	37	35
267	B区	V.D2.a	II層	石撲	(2.17)	1.57	0.56	1.3	頁岩	新生代第三紀 新生代第三紀	37	35
268	A区	III B 8.Q	挖掘	石撲	3.06	1.31	0.31	0.4	黒曜石	新生代第三紀 新生代第三紀	37	35
269	B区	V.D12.i	II層	石撲	(1.23)	1.39	0.31	0.4	黒曜石	新生代第三紀 新生代第三紀	37	35
270	D区	IV.C25.y	II層	石撲	2.42	1.25	0.67	1.6	めのう	新生代第三紀 新生代第三紀	37	35
271	B区	III B 4.m	II層	石撲	3.12	0.81	1.03	12.8	頁岩	新生代第三紀 新生代第三紀	38	36
272	A区	III B 8.P	壤土	石撲	5.75	7.84	1.30	42.3	頁岩	新生代第三紀 新生代第三紀	38	36
273	B区	IV.C23.w	III層	石撲	4.28	2.54	0.85	8.2	頁岩	新生代第三紀 新生代第三紀	38	36
275	B区	IV.C23.x	III層	石撲	8.06	3.18	1.31	18.6	頁岩	新生代第三紀 新生代第三紀	38	36
274	B区	IV.C24.x	II～III層	石撲	3.28	1.73	0.89	3.2	頁岩	新生代第三紀 新生代第三紀	38	36
276	C区	IV.C16.g	II層	石撲	6.16	3.57	1.00	15.8	頁岩	新生代第三紀 新生代第三紀	38	36
277	B区	IV.C23.w	III層	石撲	5.37	3.69	0.83	8.4	頁岩	新生代第三紀 新生代第三紀	38	36
278	A区	III B 6.P	壤土下	兩極石器	3.69	3.85	0.96	14.0	頁岩	新生代第三紀 新生代第三紀	38	36
279	B区	V.D11.i	土壤下	兩極石器 刮削器	2.30	2.10	0.79	3.7	頁岩	新生代第三紀 新生代第三紀	38	36
280	A区	III B 6.Q	土壤下	兩極石器	(4.16)	2.81	1.24	12.3	頁岩	新生代第三紀 新生代第三紀	38	36
281	B区	III B 8.P	II層	兩極石器	8.88	4.03	2.32	123.4	頁岩	新生代第三紀 新生代第三紀	39	36
282	A区	III B 9.P	II層	兩極石器	(1.88)	(3.62)	(2.51)	44.6	褐色閃綠岩	新生代口世紀 新生代口世紀	39	36

第7表 石器調査表(2)

No.	調査区	出土地点	層位	岩種	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	石質	産地	参考	備考	出版	著者
283	B区	WC11w	Ⅲ層	熔製石斧	4.70	(3.50)	(2.50)	63.5	細粒閃长岩	上山地	刃部欠損		39	36
284	B区	WC21w	Ⅲ層	熔製石斧	8.45	(4.41)	(2.75)	161.4	細粒閃长岩	上山地	刃部欠損		39	36
285	B区	WC22w	Ⅲ層	熔製石斧	8.67	(3.77)	(2.63)	135.4	細粒閃长岩	上山地	刃部欠損		39	36
286	B区	WC21x	Ⅲ層	熔製石斧	3.84	(2.37)	2.71	188.4	蛇紋岩	北上山地	刃部欠損		39	36
287	B区	IVC	今里	熔製石斧	8.59	4.7	2.71	168.4	細粒閃长岩	北上山地	刃部欠損		39	36
288	B区	V D10.1	IV層	磨製石斧	11.26	3.92	2.36	138.0	蛇紋岩	北上山地	刃部欠損		39	36
289	B区	BK.9 P	II層	磨製石斧	7.41	4.75	2.53	138.0	蛇紋岩	北上山地	刃部欠損		40	37
290	A区	III B10.9	II層	磨製石斧	6.63	3.42	1.99	61.5	蛇紋岩	北上山地	刃部欠損		40	37
291	A区	AK. III B10.5	土壤	磨製石斧	9.09	4.15	1.99	102.7	蛇紋岩	北上山地	刃部欠損		40	37
292	A区	AK. III B10.5	土壤	磨製石斧	8.13	4.39	2.58	146.7	蛇紋岩	北上山地	刃部欠損		40	37
293	B区	IV C16.8	Ⅲ層	磨製石斧	(7.31)	(3.98)	(2.31)	70.6	滑石	北上山地	基部欠損		40	37
294	B区	IV C19.5	Ⅲ層下	磨製石斧	10.93	4.63	2.18	155.2	細粒閃長岩	北上山地	基部欠損		40	37
295	B区	IV C23.8	Ⅲ層	磨製石斧	(4.54)	(3.33)	(2.30)	46.8	蛇紋岩	北上山地	刃部欠損		40	37
296	B区	IV C21.5	Ⅲ層	磨製石斧	9.09	4.40	2.54	147.9	蛇紋岩	北上山地	刃部欠損		40	37
297	B区	IV C25.5	Ⅲ層	磨製石斧	(9.76)	(4.00)	1.98	122.0	カルファスルス岩	北上山地	刃部欠損		40	37
298	A区	AK. III B9. P	I層	磨製石斧	11.25	5.75	2.94	271.0	蛇紋岩	古生代	刃部欠損		41	37
299	B区	IV C25.w	Ⅲ層	磨製石斧	(8.91)	5.38	2.14	170.5	蛇紋岩	古生代	刃部欠損		41	37
300	B区	IV C23.x	カタラン	磨製石斧	10.42	4.89	2.19	146.0	蛇紋岩	古生代	刃部欠損		41	37
301	A区	III B8.9	桑 L	磨製石斧	2.80	1.61	0.58	4.8	滑石	古生代	刃部欠損		41	37
302	A区	III B9. P	H層	磨製石斧	2.95	1.56	0.62	4.8	滑石	古生代	刃部欠損		41	37
303	B区	IV C17.4	カタラン	磨製石斧	(4.10)	2.53	1.04	16.5	滑石	古生代	刃部欠損		41	37
305	B区	IV C22.8	田村	磨製石斧	(4.82)	(3.03)	0.71	11.5	滑石	古生代	刃部欠損		41	37
306	B区	IV C24.8	田村	磨製石斧	(4.97)	1.67	0.59	8.5	滑石	古生代	刃部欠損		41	37
307	B区	V D10.5	II層	磨製石斧	8.19	2.80	1.05	34.8	滑石	古生代	刃部欠損		41	37
308	A区	III B9. P	II層	磨製石斧	7.52	5.60	2.50	156.0	蛇紋岩	古生代	刃部欠損		41	37
309	A区	AK. IV C15.1	II層	磨製石斧	(8.63)	(4.21)	2.12	106.8	蛇紋岩	古生代	刃部欠損		41	38
310	B区	IV C16.9	II層	磨製石斧	(7.58)	(5.52)	(3.46)	186.8	石英斜岩	古生代	刃部欠損		42	38
311	B区	IV C17.8	II層	磨製石斧	8.31	3.99	2.07	80.2	蛇紋岩	古生代	刃部欠損		42	38
312	B区	IV C18.5	II層	磨製石斧	10.44	4.58	2.67	174.4	蛇紋岩	古生代	刃部欠損		42	38
313	B区	IV C18.5	II層	磨製石斧	17.68	7.18	3.61	585.3	蛇紋岩	古~中生代	刃部欠損		42	38
314	B区	IV C18.1	II層	熔鉄石斧	9.34	4.80	2.77	143.0	石英斑岩	古~中生代	刃部欠損		42	38
315	B区	IV C21.0	Ⅲ層	熔鉄石斧	8.71	5.89	3.47	252.5	蛇紋岩	古生代	刃部欠損		42	38
316	B区	IV C21.0	Ⅲ層	熔鉄石斧	(9.33)	9.27	2.64	188.3	蛇紋岩	古生代	刃部欠損		42	38
317	B区	IV C22.0	Ⅲ層	熔鉄石斧	10.66	6.90	4.39	427.4	蛇紋岩	古生代	刃部欠損		42	38
318	B区	IV C23.0	Ⅲ層	熔鉄石斧	(9.03)	7.23	4.91	282.2	白英斑岩	古~中生代	刃部欠損		43	38
319	B区	IV C23.0	Ⅲ層	熔鉄石斧	(8.26)	4.36	2.62	140.4	蛇紋岩	古生代	刃部欠損		43	38
320	B区	IV C23.8	カタラン	黑石斧	(10.97)	(5.89)	3.61	404.7	蛇紋岩	古生代	刃部欠損		43	38
321	A区	AK. III B8.0	Ⅲ層	黑石斧	11.54	10.26	7.76	1186.9	細粒閃長岩	中生代白堊紀	刃部欠損		43	39

第7表 石器類鑑定表(3)

No.	測量区	出土地点	層位	器種	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	石器	重量(g)	产地	備考	回数	写真
322	B区	III B 8 w	1層下	磨石盤	8.64	7.38	4.82	繩粒内縫岩	106.9	中生代白堊紀	北上山地	43	38
323	B区	IV C 22 w	Ⅲ層	磨石盤	8.64	7.36	4.82	繩粒内縫岩	211.3	新生代白堊紀	北上山地	43	39
324	A区	III B 9 p	Ⅲ層	磨石盤	7.76	7.96	4.66	安山岩	446.4	新生代白堊紀～第四紀	奥羽山脈	43	39
325	B区	R H005	海面	磨石盤	8.44	5.88	2.94	砂岩	41.1	中生代白堊紀	北上山地	43	39
326	A区	III B 10 q	II 層	磨石盤	8.29	6.15	4.91	紺粒内縫岩	356.2	新代第三紀～第四紀	奥羽山脈	44	39
327	B区	IV C 18 s	Ⅲ層	磨石盤	11.61	9.67	8.55	安山岩	140.3	新生代新第三紀～第四紀	奥羽山脈	44	39
328	B区	IV C 19 t	Ⅲ層	磨石盤	11.85	8.66	4.67	繩粒内縫岩	681.9	中生代白堊紀	北上山地	44	41
329	B区	IV C 23 w	Ⅲ層	磨石盤	9.96	7.54	4.03	412.3	繩粒内縫岩	中生代白堊紀	北上山地	44	39
330	B区	V D 8 g	海面	磨石盤	10.86	9.29	5.69	紺粒内縫岩	826.5	中生代白堊紀	北上山地	44	40
331	B区	IV C 23 x	Ⅲ層	磨石盤	10.16	7.12	5.34	525.4	中生代第三紀～第四紀	北上山地	44	40	
332	B区	IV C 20 y	II 層	磨石盤	8.91	8.92	7.53	安山岩	598.3	新生代白堊紀	北上山地	45	40
333	B区	V D 7 a	II 層	磨石盤	8.83	5.82	4.87	404.2	安山岩	新生代第三紀～第四紀	奥羽山脈	45	40
334	B区	V D 5 d	II ~ III層	磨石盤	7.78	7.57	4.08	311.7	繩粒花崗岩	中生代白堊紀	北上山地	45	40
335	B区	V D 9 h	海面	磨石盤	11.72	7.80	4.22	繩粒花崗岩	656.2	中生代白堊紀	北上山地	45	40
336	B区	R H005	海面	磨石盤	9.01	7.63	5.34	496.0	繩粒花崗岩	中生代白堊紀	北上山地	45	41
337	B区	IV C 17 s	Ⅲ層	磨石盤	10.98	8.16	4.26	834.7	安山岩	新生代第三紀～第四紀	奥羽山脈	45	40
338	B区	IV D 25 a	II 層	磨石盤	14.71	8.13	4.16	691.6	繩粒内縫岩	新生代白堊紀	北上山地	46	41
339	B区	IV C 23 x	Ⅲ層	磨石盤	7.21	6.60	2.21	137.1	繩粒内縫岩	中生代白堊紀	北上山地	46	41
340	B区	IV C 17 s	II 層	磨石盤	7.22	6.33	3.47	65.8	紺粒内縫岩	中生代白堊紀	北上山地	46	41
341	A区	III B 8 P	II 層	石皿	5.70	5.1	3.95	106.8	ディサイレット	新生代第三紀～第四紀	奥羽山脈	46	41
342	B区	IV C 25 y	Ⅲ層	石皿	12.6	(14.1)	4.0	776.0	ディサイレット	新生代第三紀～第四紀	奥羽山脈	46	41
343	B区	IV C 23 w	Ⅲ層	石皿	7.53	(8.8)	3.9	263.3	繩粒内縫岩	中生代白堊紀	北上山地	46	41
344	B区	IV C 18 s	Ⅲ層	石皿	9.58	10.60	5.76	652.5	安山岩	新生代第三紀～第四紀	奥羽山脈	46	41
345	B区	V D 9 g	IV 層	石皿	10.4	7.47	4.57	168.3	繩粒内縫岩	新生代第三紀～第四紀	奥羽山脈	46	41
346	A区	A.K.	土	石皿	7.27	(4.0)	3.82	137.7	繩粒内縫岩	中生代白堊紀	北上山地	47	41
347	C区	W C 17 j	II 層	石皿	(9.4)	(8.9)	1.84	90.5	繩粒内縫岩	中生代白堊紀	北上山地	47	42
348	B区	R H009	構成堆	石皿	38.6	17.4	18.4	*19.4	540.0	繩粒内縫岩	北上山地	47	42
349	B区	IV C 26	石皿	石皿	32.3	19.4	7.6	54.0	繩粒内縫岩	中生代白堊紀	奥羽山脈	47	42
350	B区	R H010	構成堆	白玉	(10.0)	(14.7)	4.50	926.7	安山岩	新生代第三紀～第四紀	奥羽山脈	47	42
351	A区	III B 8 P	瓦	石皿	27.8	20.4	5.6	46.5	繩粒内縫岩	中生代第三紀～第四紀	奥羽山脈	47	42
362	B区	R H008	構成堆	1台石	22.8	30.2	9.9	46.0	安山岩	新生代第三紀～第四紀	奥羽山脈	48	42
363	C区	IV C 20 i	1層	石皿	(16.0)	(13.6)	5.6	161.6	繩粒内縫岩	中生代白堊紀	北上山地	48	42
364	C区	IV C 19 k	1層	石皿	(12.0)	(10.0)	7.6	900.4	繩粒内縫岩	新生代第三紀～第四紀	奥羽山脈	48	42
365	D区	IV C 18 s	S 3	石皿	28.5	21.0	14.4	*11.0	安山岩	新生代第三紀～第四紀	北上山地	49	43
366	A区	II B 9 P	II 層上倉	石皿	26.2	14.1	4.9	3280	繩粒内縫岩	中生代白堊紀	北上山地	49	43
378	B区	R H003	構成堆	石織	25.71	10.07	2.68	748.5	蛇紋岩	古生代	北上山地	50	44

注( )は残存部、\*の場合は

## 第8表 石器品観察表

NO	調査区	出土地点	層位	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	石質	備考
367	B区	II 1.9 P	II 地下10cm	石斧頭	(15.23)	2.7	7.5	灰岩質灰岩	古~中生代
368	B区	V D 4 c	II 層	石斧頭	(6.89)	(3.42)	0.94	22.1	中生代砂岩
369	B区	V D 5 e	II 層	石斧頭	(6.03)	(2.81)	1.18	41.4	新成岩
370	A区	III 8 p	II 層	石斧頭	(6.77)	2.97	0.78	41.1	灰岩質灰岩
361	A区	III B 8 p	カタマーン	石斧頭	(8.49)	2.91	0.77	27.7	古~中生代
362	B区	III B 8 q	II 地下10cm	石斧頭	(7.29)	2.88	1.64	50.4	粘板岩
363	B区	IV C 17 s	II 地下	石斧頭	(7.68)	2.60	1.88	45.6	粘板岩
364	B区	V D 1 a	II 地下	石斧頭	(6.46)	2.97	0.85	21.3	粘板岩
365	B区	IV C 18 s	II 地下10cm	石斧頭	(10.99)	(2.73)	(1.24)	55.6	粘板岩
366	B区	IV C 22 w	II 地下	石斧頭	(13.69)	4.57	1.74	61.4	粘板岩
367	A区	III B 7 p	壁上	石斧頭	(8.47)	2.88	1.19	41.3	蛇紋岩
368	A区	IV C 18 i	II 地下	石斧頭	(12.57)	(3.75)	(2.14)	154.4	石英岩
369	B区	IV C 24 x	II ~ IV	石斧頭	(19.42)	5.31	2.96	239.9	蛇紋岩
370	B区	R D 002	壁上	円錐状石頭	4.74	3.81	0.76	19.0	粘板岩
372	A区	III B 8 p	壁上	円錐状石頭	6.95	6.71	1.19	94.8	粘板岩
373	A区	III B 10 g	II 地下	円錐状石頭	6.46	5.30	1.40	63.1	粘板岩
371	B区	IV C 23 w	II 地下	円錐状石頭	5.31	5.32	1.22	50.1	細粒閃長岩

## 玉類

NO	調査区	出土地点	層位	直径(cm)	外径(cm)	高さ(cm)	断面形状	重量(g)	石質	備考
376	A区	III 1.9 p	II k	5.57	6.72	2.82	58.4	穿孔	穿孔	古~中生代
377	B区	IV C 15 q	II 地下	5.57	6.72	2.82	58.4	穿孔	穿孔	古~中生代
				146.7	146.7	146.7	穿孔			

## 出土土器重量一覧表

遺構内	調査区	出土地点	層位	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	備考
				376	小玉	0.95	0.69	0.50
				377	玉	0.95	0.69	0.32

## 不透明石製品

NO	調査区	出土地点	層位	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	石質	備考
376	A区	III 1.9 p	II k	5.57	6.72	2.82	58.4	穿孔	穿孔
377	B区	IV C 15 q	II 地下	5.57	6.72	2.82	58.4	穿孔	穿孔

## 出土土器重量一覧表

遺構内	調査区	出土地点	層位	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	備考
				376	小玉	0.95	0.69	0.32
				377	玉	0.95	0.69	0.41

## B区遺構外

遺構名	重量	層位	重量	層位	重量	層位	重量	層位	重量
R D 002	10.0	P 3	83.4	P 3	159.7	V C 15 q	136.7	V C 20 u	303.4
R D 003	167.1	P 3	107.6	B II S	57.8	V C 15 q	136.7	V C 21 ii	304.4
R D 004	159.6	P 3	164.7	I II B	10.8	V C 15 q	268.2	V C 21 v	332.0
R D 005	228.7	P 8	60.9	I II A	3.9	V C 15 q	142.0	V D 6 e	123.4
R H 006	17.2	P 9	-12.2	I II B	9	V C 15 q	12.7	V D 6 e	123.4
R F 002	52.3	P 11	270.8	H II A	9	V C 16 r	100.2	V D 6 e	123.4
R F 003	278.6	P 12	129.0	H II A	9	V C 16 r	957.0	V D 6 e	123.4
R H 005	430.6	P 15	33.1	H II A	9	V C 16 s	307.3	V D 6 e	123.4
R H 006	631.6	P 17	166.0	H II A	9	V C 16 s	162.9	V D 6 e	123.4
R H 006	616.4	P 19	172.1	H II A	9	V C 17 s	401.8	V D 6 e	123.4
R H 009	514.3	P 20	18.7	H II A	9	V C 17 t	61.2	V D 6 e	123.4
R H 010	697.5	P 23	37.9	H II A	9	V C 18 r	41.7	V D 6 e	123.4
P 2	140.5	R P 001	137.150.8	H II A	9	V C 18 s	29.9	V D 6 e	123.4
	合計	19855.7	9						

## C区遺構外

遺構名	重量	層位	重量	層位	重量	層位	重量	層位	重量
N C 11 c	199.2	W C 15 b	607.2	W C 18 k	182.1				
W C 15 i	38.1	W C 19 k	208.1						
W C 15 g	385.4	W C 16 i	28.8	W C 19 k	147.4				
W C 14 g	164.7	W C 17 i	481.9	W C 20 j	331.8				
W C 14 h	30.2	W C 17 j	388.7	W C 20 l	136.1				
W C 15 g	6.7	W C 18 j	293.9	W C 20 r	244.6				
	合計								
									6120.0

## D区遺構外

遺構名	重量	層位	重量	層位	重量	層位	重量	層位	重量
R D 002	17.2	P 3	83.4	P 3	159.7	V C 15 q	136.7	V D 5 d	437.1
R D 003	167.1	P 3	107.6	B II S	57.8	V C 15 q	136.7	V D 5 d	437.1
R D 004	159.6	P 3	164.7	I II B	10.8	V C 15 q	268.2	V D 7 f	159.5
R D 005	228.7	P 8	60.9	I II A	3.9	V C 15 q	142.0	V D 7 f	159.5
R H 006	17.2	P 9	-12.2	I II B	9	V C 16 r	100.2	V D 7 f	159.5
R F 002	52.3	P 11	270.8	H II A	9	V C 16 r	957.0	V D 7 f	159.5
R F 003	278.6	P 12	129.0	H II A	9	V C 16 s	307.3	V D 7 f	159.5
R H 005	430.6	P 15	33.1	H II A	9	V C 17 r	273.1	V D 7 f	159.5
R H 006	631.6	P 17	166.0	H II A	9	V C 17 s	496.6	V D 7 f	159.5
R H 006	616.4	P 19	172.1	H II A	9	V C 17 t	41.7	V D 7 f	159.5
R H 009	514.3	P 20	18.7	H II A	9	V C 18 r	29.9	V D 7 f	159.5
R H 010	697.5	P 23	37.9	H II A	9	V C 18 s	242.5	V D 7 f	159.5
P 2	140.5	R P 001	137.150.8	H II A	9	V C 19 s	243.6	V D 7 f	159.5
	合計	19855.7	9						

## E区遺構外

遺構名	重量	層位	重量	層位	重量	層位	重量	層位	重量
N C 19 w	199.2	W C 15 b	607.2	W C 18 k	182.1				
W C 15 i	38.1	W C 19 k	208.1						
W C 15 g	385.4	W C 16 i	28.8	W C 19 k	147.4				
W C 14 g	164.7	W C 17 i	481.9	W C 20 j	331.8				
W C 14 h	30.2	W C 17 j	388.7	W C 20 l	136.1				
W C 15 g	6.7	W C 18 j	293.9	W C 20 r	244.6				
	合計								

## F区遺構外

遺構名	重量	層位	重量	層位	重量	層位	重量	層位	重量
N C 19 w	199.2	W C 15 b	607.2	W C 18 k	182.1				
W C 15 i	38.1	W C 19 k	208.1						
W C 15 g	385.4	W C 16 i	28.8	W C 19 k	147.4				
W C 14 g	164.7	W C 17 i	481.9	W C 20 j	331.8				
W C 14 h	30.2	W C 17 j	388.7	W C 20 l	136.1				
W C 15 g	6.7	W C 18 j	293.9	W C 20 r	244.6				
	合計								

## G区遺構外

遺構名	重量	層位	重量	層位	重量	層位	重量	層位	重量
N C 19 w	199.2	W C 15 b	607.2	W C 18 k	182.1				
W C 15 i	38.1	W C 19 k	208.1						
W C 15 g	385.4	W C 16 i	28.8	W C 19 k	147.4				
W C 14 g	164.7	W C 17 i	481.9	W C 20 j	331.8				
W C 14 h	30.2	W C 17 j	388.7	W C 20 l	136.1				
W C 15 g	6.7	W C 18 j	293.9	W C 20 r	244.6				
	合計								

## H区遺構外

遺構名	重量	層位	重量	層位	重量	層位	重量	層位	重量
N C 19 w	199.2	W C 15 b	607.2	W C 18 k	182.1				
W C 15 i	38.1	W C 19 k	208.1						
W C 15 g	385.4	W C 16 i	28.8	W C 19 k	147.4				
W C 14 g	164.7	W C 17 i	481.9	W C 20 j	331.8				
W C 14 h	30.2	W C 17 j	388.7	W C 20 l	136.1				
W C 15 g	6.7	W C 18 j	293.9	W C 20 r	244.6				
	合計								

## I区遺構外

</

## 5 ま と め

### (1) 遺 構

今回の調査で検出された遺構は土坑・焼土遺構・配石遺構・柱穴状土坑でいずれも縄文時代に属するものである。いずれも比較検討できるほどの遺構数ではなく、最も多く検出された配石遺構についても調査区が狭隘であったため不明な点が多いが、各遺構ごとに本文中の記述の補足も含めて検討したい。

#### a 土坑

検出された遺構数は6基でA区からは1基(RD001)で他の5基(RD002～RD006)はB区から検出された。形状は円形・楕円形・不整な円形基調の形状などで特徴的なものではない。B区の5基についてはいずれも、配石遺構と近い場所からの検出であり、墓壙の可能性も考えられる。時期は検出面や出土遺物の特徴から縄文時代後期中葉～後期末葉に属すると考えられる。

#### b 焼土遺構

検出された遺構数は6基でA区からは1基で他の5基はB区から検出された。A区の焼土遺構については周辺から遺構・遺物が見つかっていないことから詳細は不明であるが、検出された面から縄文時代に属すると考えられる。B区から検出された5基のうちRF002～RF005については同じ検出面からの出土で周辺から出土した遺物から縄文時代中期後葉に属すると考えられる。中期後葉の遺物はB区第IV層から出土し、焼土遺構周辺からまとまって出土しているが、これより西側に焼上は認められず、同時期の遺物もはほとんど出土していない。また焼土遺構の特徴としては焼土層は薄く、焼土以外のシルトなどが多く混合している。また遺構内とその周辺からは炭化物粒や骨片が出土するが、いずれも細かく、径は5～10mmほどである。これらのことから、焼上遺構は縄文中期後葉に属し、当時の生活区域の縁辺部において短期間使用されたものか、あるいは廃棄されたものと考えられる。

#### c 配石遺構

B区西側において10基検出された。配石を構成している礫は北上山地産の貞岩を中心とした河原石で、これに石器として使用された奥羽山脈産の安山岩などが付加的に利用されている。また、本文中にも記載してあるとおり、B区中央～南東側の礫層上においても配石のようなまとまりが確認できる(第10図)が、そのほとんどが礫層・礫層から浮き上がり混入した自然礫である。礫層より上位の層には遺物が多く含まれたため、礫層との境まで遺物の取り上げを行ったが、この際に移動可能な礫・石器でない礫を廃棄しながら行い、立った状態や斜位に傾いた状態の礫の塊を配石の可能性があるとして残したものの、後の結果で風倒木痕に入り込んだ際にこのような状態になったものと確認できしたことから配石遺構ではないと判断した。ただし、調査を行った範囲が狭く、一部については見解が譲りである可能性もある。また、配石遺構の周囲には柱穴状土坑もあり、柱穴からは柱を支えるために使用された礫が出土しているものもあり、これらが混在するものもあると思われる。

配石遺構としたのは礫層より西側の10基で、このうち、RH001・RH002・RH004・RH006は遺構の一部が調査区外に延びるため、詳細は不明である。また、これ以外のもので配石の下に掘り込み状の穴が確認できたのはRH003・RH005・RH008～RH010で、このうちRH009下の掘り込みは調査の

結果、風倒木痕で他は土坑と判明した。各遺構下の土坑内からは土器片などが出土しているが、遺構の周辺からは微細な焼獸骨や炭化物が多く出土する。本遺跡から検出された焼土遺構は配石遺構とは異なる地点で検出されている。

また、北上市稻瀬の樺山遺跡にあるような柱状の立石や盛岡市繫の蔭内遺跡にみられる立石のために掘られた小穴などは確認されておらず、明確に祭祀に関わる遺構であると断定することはできない。

#### d 遺物集中区

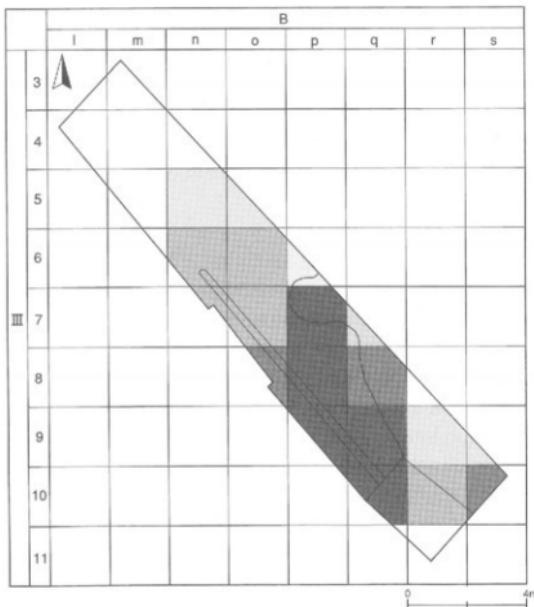
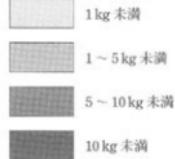
＜遺物の分布＞ A区東端に位置する。出土した遺物は縄文時代晩期中葉のもので、約  $15 \times 4$  m の範囲で大コンテナ 12 箱分、重量約 137.15 kg 分が出土した。遺跡から出土した土器の総重量に占める割合は 39.9% で、このうち 88 点を掲載した。遺物の出土分布状況は第 51 図のとおりで、このうち最も多く遺物が出土したのは III B 9 q グリッドで約 31.17 kg で全体の 22.7% を占める。また、他に 10 kg 以上の出土量があるのは III B 9 p とこれに隣接する III B 8 p・III B 10 q グリッドで、これらの 4 グリッドで約 93.49 kg で 68.1%、約 7 割弱を占める。また、北東側の旧貯水池のあった擾乱部分の土中からも遺物は多くしていることから、遺物の分布する範囲は現在も沢が流れている南東側に集中することが判る。

遺物を包含する層の厚さは約 20 cm で上～中位で多く出土する。また、下層の第 IV 層からは後期前葉の遺物が少量出土している。取り上げた遺物の破片は大きいものが多く、接合するものも頗著であることから、廃棄されたものと考えられる。時期は縄文晩期中葉のものである。

第10表 RP001  
グリッド別重量一覧表

グリッド	重量
III B 5 n	626.5
III B 5 o	836.9
III B 6 n	1497.3
III B 6 o	1611.3
III B 6 p	639.6
III B 7 n	4282.5
III B 7 o	
III B 7 p	10244.7
III B 7 q	2904.7
III B 8 o	5156.6
III B 8 p	26011.0
III B 8 q	6176.2
III B 9 p	19187.5
III B 9 q	31177.2
III B 9 r	909.1
III B 9 s	904.1
III B 10 q	18134.0
III B 10 r	2350.6
III B 10 s	5648.4

(重量の単位は g)



第51図 RP001 出土土器分布図

## (2) 遺物

## a 繩文土器

縄文時代中期後葉～晩期中葉のものが出土しているが、調査区・調査地点による出土傾向の相違が顕著である。A区は本文中に記したように段丘縁部に位置するため縄文時代晩期中葉の遺物棄て場になっていたため、それ以外の時代の遺物はほとんど出土していない。

## b 上製品

土偶、耳飾り、円盤状土製品、粘土塊などが出土した。他に動物形土製品が1点出土しているが、上器の一部である可能性が高い。

## 土偶

11点出土した。いずれも遺構外からの出土でA区1点、B区10点で、時期は後期8点、晩期3点である。部位は胸部3点、腕部4点、脚部3点で頭部のない完形品のものが1点である。

## 上製耳飾り

6点出土した。形状は滑車形が4点、耳栓形が1点、蓋形の形状を呈する滑車形が1点である。蓋形の形状を呈するタイプは輕米町長倉I遺跡・大日向II遺跡などで出土しており、時期は晩期初頭に属する。いずれも遺構外からの出土である。

## 円盤状土製品

円形を基調とした形状に加工されたもので、18点出土し、13点掲載した。形状を整えるために周囲を打ち欠いたり、擦るなどの調整を施した痕跡がみられる。使用された土器の部位は体部8点、口縁部4点、底部2点である。220・225は口縁部を利用しているが、口唇部は未調整でそれ以外のところを加工して成形している。

## 動物形土製品

1点出土した。本文中では土製品として扱ったが、盛岡市蔵内遺跡での類似品出土例から、土器の一部で橋状部等にあたる可能性が高い。

右図は蔵内遺跡出土のイノシシ形獸面とされた遺物である。耳と眼部後方は欠損しているものの、全体の形状から鼻・口・眼部上下の縁に刻みを施しているところまで、非常に類似している。蔵内遺跡は本遺跡と同じ北上川水系の河岸段丘に立地する遺跡で、戸仲遺跡との関連を強くうかがわせるものである。



第52図 蔵内遺跡出土のイノシシ形獸面

## c 石器

出土した石器は石鎚、石錐、石匙などの剥片石器と磨製石斧、磨石類、石皿類の砾石器で磨製石斧と磨石類が顕著である。磨製石斧は調整削離や敲打の痕跡が研磨されていないものや一部のみ研磨されているものがある。磨石類には磨石+敲打、磨石+凹石、磨石+敲打+凹石など多岐の併用がみられ、使用石材の割合は細粒閃緑岩74%、砂岩22%、砂岩4%と細粒閃緑岩が顕著である。

掲載した石器類の出土傾向をみると、A区39点(25.8%)、B区105点(69.5%)、C区・その他調査区不明7点(4.7%)でB区からの出土率が約7割を占めている。また遺構内から出土したものはP11から出土した石鎚1点とRD002から出土した円盤状石製品1点の計2点で、全体での出土率では1%と極端に少ないので特徴である。また、配石遺構の構成礫として使用されたものは磨石類2点、石皿3点、台石1点、不明石製品1点で石皿は出土数の18.7%と高い使用率である。また、磨製石斧・石棒類については加工痕（再加工を含む）を残すものがあり、遺跡内の製作が確認された。

## d 石製品

石棒類が14点出土している。石材はいずれも北上山地産のものを使用している。いずれも欠損品で製作段階で破損したと考えられるものを4点含む。他には円盤状石製品4点が出土している。

## (3) 総 括

今回の調査で戸仲遺跡が縄文時代中期後葉～晩期中葉にかけての集落跡の一部であることが確認された。竪穴住居跡は見つかっていないが、河岸段丘の低位面という立地条件から掘立柱による建物跡が存在した可能性が考えられる。また、配石遺構の存在や生活に使われた上器・石器などを廃棄した跡が見つかっており、居住地に隣接する場所と推測される。今回調査を行ったのは戸仲遺跡の一部であるため、集落構成の詳細は不明であるが、山間部を流れる河川によって形成された段丘という地形上、小規模で限られた空間を居住等に利用したものと考えられる。また、遺跡から出土した石器の石材には秋田県男鹿市の金ヶ崎群産や青森県深浦市の木造出来島群産の黒曜石が利用されており、日本海側ルートからの物流の搬入が確認された。他にも使用された石材には奥羽山脈産のものが多く、北上川水系にある蔥内遺跡のものと類似した動物形土製品（土器の一部か？）が出土するなど、遺跡から西方の北上川流域（以西）との積極的な交流を推測させる。一方で他の地域、とりわけ海産資源の搬入が考えられる太平洋側との関係は今回の調査からは窺い知ることができず、今後の課題といえる。

また、今回の調査では縄文時代前期の遺物は見つかっていないため、簡易的な分析を依頼するにとどめたが、A区の段丘低位面の第V層に混入していた黄褐色の砂状の粒子が、十和田中擴テフラの可能性が高いという分析結果を得ている。今後、縄文前期の遺構・遺物が見つかれば指標となり、また当時の遺跡周辺の地形等を考えるうえで役に立つものと思われる。

最後に、今回調査を行なった戸仲遺跡を含む篠川流域には、多くの縄文時代の遺跡が確認されている。本遺跡の下流に位置する川日A遺跡では4回にわたって調査が行われており、次年度以降も引き続き本格的な調査が行われることから、今後、篠川流域の縄文時代の様子がさらに明らかになるものと思われる。なお、今回の中断したC区の調査については次年度（平成19年度）の調査が予定されており、さらなる成果が期待される。

## 引用・参考文献

- (財) 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 1982 『蔵内遺跡発掘調査報告書』 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書 第32集
- (財) 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 1986 『大日向Ⅱ遺跡発掘調査報告書』 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書 第100集
- (財) 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 1993 『新山権現社遺跡発掘調査報告書』 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書 第188集
- (財) 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 1994 『大日向Ⅱ遺跡発掘調査報告書 第2次～第5次調査』 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書 第225集
- (財) 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 1997 『上鷹牛遺跡発掘調査報告書』 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書 第253集
- (財) 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 1998 『大日向Ⅱ遺跡発掘調査報告書 第6次～第8次調査』 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書 第273集
- (財) 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 2000 『長倉Ⅰ遺跡発掘調査報告書』 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書 第336集
- (財) 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 2006 『河崎の横濱定地発掘調査報告書』 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書 第474集
- (財) 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 2006 『大橋遺跡発掘調査報告書』 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書 第481集
- 宮城県教育委員会 1986 『田柄貝塚I 造構・土器編』 宮城県文化財調査報告書 第111集
- 鈴木克彦 2001 『北日本の縄文後期土器編年研究』 雄山閣出版
- 小林圭一 2001 『東北南半の宿付土器成立期の様相』 『後期後半の再検討』 第14回縄文セミナー資料集 縄文セミナーの会
- 亀ヶ岡文化研究センター 2006 『亀ヶ岡文化遺物実測図集(2)』 弘前大学人文学部日本考古学研究室研究報告4
- 塙原正典 1987 『配石造構』 「考古学ライブラリー 49」 ニューサイエンス社

## 付編 自然科学分析

株式会社古環境研究所

### I 戸仲遺跡の火山灰同定

#### 1 はじめに

東北地方北部に位置する岩手県盛岡市域とその周辺には、岩手、秋田駒ヶ岳、十和田など東北地方の火山のほか、始良、阿蘇、洞爺など遠方の火山に由来するテフラ（火山碎屑物、いわゆる火山灰）が数多く認められる。テフラの中には、噴出年代が明らかにされている指標テフラがあり、これらとの層位関係を遺跡で求めることで、遺構の構築年代や遺物包含層の堆積年代を知ることができるようになっている。

そこで、テフラ層の可能性のある土層が認められた盛岡市戸仲遺跡においても、発掘調査担当者により採取された試料を対象に、テフラ検出分析を行って、指標テフラに同定される可能性について調べることになった。分析の対象となった試料は、Ⅲ B8q の V 層である。

#### 2 テフラ検出分析

##### (1) 分析試料と分析方法

洪積植物とも考えられているⅢ B8q の V 層から採取された試料は、粒径が比較的揃っているものの、円礫などの礫は含まれておらず、黄灰色砂質細粒火山灰層のように見える。この試料についてテフラ検出分析を行って、テフラ層の可能性について検討を行った。テフラ検出分析の手順は次の通りである。

- 1) 試料 9g を秤量。
- 2) 超音波洗浄により泥分を除去。
- 3) 80°C で恒温乾燥。
- 4) 実体顕微鏡下および偏光顕微鏡下でテフラ粒子の量や色調を観察。

##### (2) 分析結果

テフラ検出分析の結果を表 1 に示す。試料には、比較的粗粒の軽石やスコリアは認められない。その一方で、細粒の火山ガラスが多く含まれている。火山ガラスの多くは、纖維束状やスポンジ状に発泡した軽石型で、色調は無色透明や白色である。また、無色透明のバブル型ガラスも少量含まれている。

#### 3 考察—まとめにかえて

分析者が現地で土層を観察していないために詳細については不明な点が多いものの、試料の岩相や火山ガラスが多い点を考慮すると、分析対象となったⅢ B8q の V 層については、テフラ層の可能性が高い。火山ガラスの形態や色調からは、915 年に十和田火山から噴出したと推定されている十和田 a

火山灰 (To-a, 大池, 1972, 町田ほか, 1981, 町田・新井, 1992) の可能性も否定できないが、上位に繩文時代の包含層があることや十層の色調、さらに黒色土中に層位があることなどから、約5,500年前<sup>\*1</sup>に十和田火山から噴出した十和田中撰テフラ (To-Cu, 大池ほか, 1966, 早川, 1983, 福田, 1986, 町田・新井, 1992) の可能性が十分に考えられる。To-Cuは東北地方南部でも発見されているように(早田ほか, 1988)、比較的広域に分布する指標テフラである。

なお、今回行ったテフラ検出分析はあくまでも便宜的な方法であり、これによる同定精度は高いとは言えない。火山灰編年学において基準とされている日本列島のテフラカタログ (町田・新井, 1992, 2003) は、層相や岩相、含まれる火山ガラスの形態や色調、鉱物の組成などのほか、高精度での火山ガラスや鉱物の屈折率測定の結果などをもとに作成されている。さらには最近では、東北地方に分布する繩文時代以降のテフラについても、信頼度の高いEPMA (エレクトロンプローブX線マイクロアナライザー) による火山ガラスの主成分化学組成を合わせて実施することにより、より信頼度の高いテフラ同定が行われるようになっている。

このような状況を考慮すると、戸仲遺跡の試料についても、今後これらの分析を合わせて行って指標テフラとの同定精度を向上させる必要がある。

\*1：放射性炭素（<sup>14</sup>C）年代、暦年較正年代は、約6,000年前 (町田・新井, 2003)。

## 文 献

- 福岡友之 1986 考古学からみた「中撰蛭石」の降下年代、弘前大学考古学研究, 3, p.4-15.  
 早川由紀夫 1983 十和田火山中撰テフラ層の分布、粒度組成、年代、火山、第2集, 28, p.263-273.  
 町田 洋・新井房夫 1992 火山灰アトラス、東京人学出版会, 276p.  
 町田 洋・新井房夫 2003 新編火山灰アトラス、東京大学出版会, 336p.  
 町田 洋・新井房夫・森脇 広 1981 日本海を渡ってきたテフラ、科学, 51, p.562-569.  
 大池昭二 1972 十和田火山東麓における完新世テフラの纏年、第四紀研究, 11, p.232-233.  
 大池昭二・中川久夫・七崎 修・松山 力・米倉伸之 1966 馬淵川中・下流沿岸の段丘と火山灰、第四紀 研究, 5, p.29-35.  
 早田 勲・八木治司・西城 潔・新井房夫・高田利志 1988 繩文時代の示標テフラー呑婆火山灰 (演旨)

表1 テフラ検出分析結果

地点	試料	軽石・スコリア			火山ガラス		
		量	色調	最大径	量	形態	色調
III B8q	V層	-	-	-	+++	pm>bw	透明, 白

++++ : とくに多い, +++ : 多い, ++ : 中程度, + : 少ない, - : 認められない。最大径の単位は, mm.

bw : バブル型, pm : 軽石型。

## II 戸仲遺跡出土黒曜石の産地同定

### はじめに

戸仲遺跡で出土した黒曜石製石器について、エネルギー分散型蛍光X線分析装置による元素分析を行い、原産地を推定した。

### 1 試料と方法

対象試料は、戸仲遺跡より出土した黒曜石の剥片9点である（表1）。

分析装置は、（株）セイコーインスツルメンツ社製のエネルギー分散型蛍光X線分析計 SEA-2110Lを使用した。装置の仕様は、X線管はロジウムRhターゲット、X線検出器はSi(Li)半導体検出器である。測定条件は、測定時間240sec、照射径10mm、電流自動設定(1-63μA、デッドタイムが20%未満になるよう自動的に設定)、電圧50kV、試料室内雰囲気真空に設定した。産地推定には、蛍光X線分析によるX線強度を用いた判別図法（望月2004）を用いた。本方法は、まず各試料を蛍光X線分析装置で測定し、その測定結果のうち、カリウム(K)、マンガン(Mn)、鉄(Fe)とルビジウム(Rb)、ストロンチウム(Sr)、イットリウム(Y)、ジルコニウム(Zr)の合計7元素のX線強度(cps; count per second)について、以下に示す指標値を計算する。

- 1) Rb分率 = Rb強度 × 100 / (Rb強度 + Sr強度 + Y強度 + Zr強度)
- 2) Sr分率 = Sr強度 × 100 / (Rb強度 + Sr強度 + Y強度 + Zr強度)
- 3) Zr分率 = Zr強度 × 100 / (Rb強度 + Sr強度 + Y強度 + Zr強度)
- 4) Mn強度 × 100/Fe強度
- 5) log (Fe強度 / K強度)

これらの指標値を用いた2つの判別図（横軸Rb分率-縦軸Mn強度×100/Fe強度の判別図と横軸Sr分率-縦軸log(Fe強度/K強度)の判別図）を作成し、各地の原石データと遺跡出土遺物のデータを照合して、原産地を推定する。別表と別図に産地原石判別群と産地位置を示した。

### 2 分析結果

表1に産地推定結果を示す。図1および図2に黒曜石原石の判別図と戸仲2遺跡出土試料をプロットした図を示す。なお、両図は視覚的にわかりやすくするため、各判別群を楕円で取り囲んである。分析の結果、試料1、4、5の3点が北上川折居1群、試料6が北上川折居2群、試料3が木造出来島群、試料2、7～9の4点が男鹿金ヶ崎群の範囲に収まった。

### 3 まとめ

戸仲遺跡より出土した黒曜石について蛍光X線分析による産地推定を行った結果、4点が男鹿金ヶ崎群、3点が北上川折居1群、ほかに北上川折居2群が1点と木造出来島群が1点と推定され、いずれも東北地方北部産の可能性が高いと判断された。

## 引用文献・参考文献

望月明彦 2004 用田大河内遺跡出土黒曜石の産地推定、かながわ考古学財団調査報告 167 用田大河内遺跡、511-517。  
財団法人 かながわ考古学財団

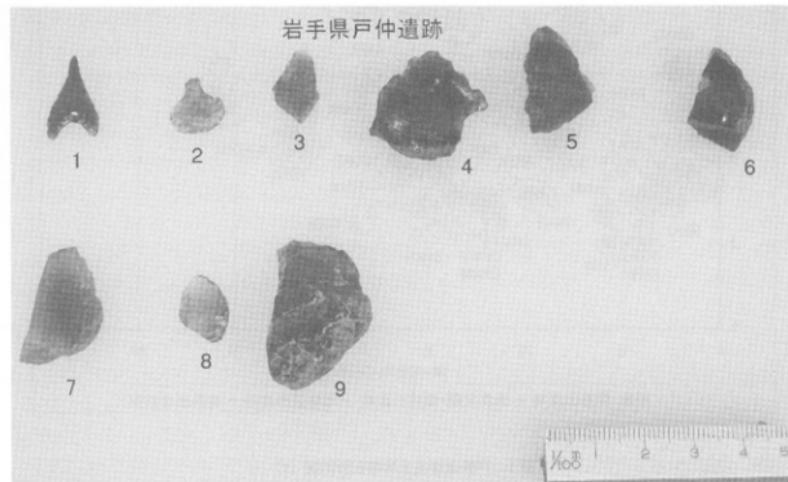
表1 戸仲遺跡出土黒曜石製石器産地推定結果

## 1. 判別回法・判別分析からの最終推定結果

試料番号	遺物番号	推定産地
1	YTT-06-01 VD1b	I層 北上川折居1群
2	YTT-06-01 VD12i	II層 男鹿金ヶ崎群
3	YTT-06-01 III89p	II層 木造出来島群
4	YTT-06-01 III89r	II層 北上川折居1群
5	YTT-06-01 IVc25y	III層 北上川折居1群
6	YTT-06-01 VD10h	IV層 北上川折居2群
7	YTT-06-01 VD11j	IV層 男鹿金ヶ崎群
8	YTT-06-01 VD11j	IV層 男鹿金ヶ崎群
9	YTT-06-01 VD12k	IV層 男鹿金ヶ崎群

## 2. 判別回法による推定結果と判別分析による推定結果

判別回 判別群	判別分析					
	第1候補産地			第2候補産地		
	判別群	距離	確率	判別群	距離	確率
KKO1	KKO1	5.04	0.983	KKO2	11.01	0
OGKS	OGKS	3.84	1	OGWM	178.16	0
KDDK	KDDK	1.45	1	HGGS	38.09	0
KKO1	KKO1	3.96	0.9378	KKO2	7.24	0
KKO1	KKO1	3.25	0.97	KKO2	8.04	0
KKO2	KKO2	4.36	0.926	KKO1	8.11	0
OGKS	OGKS	6.04	1	OGWM	238.9	0
OGKS	OGKS	4.9	1	OGWM	219.12	0
OGKS	OGKS	2.29	1	OGWM	206.83	0



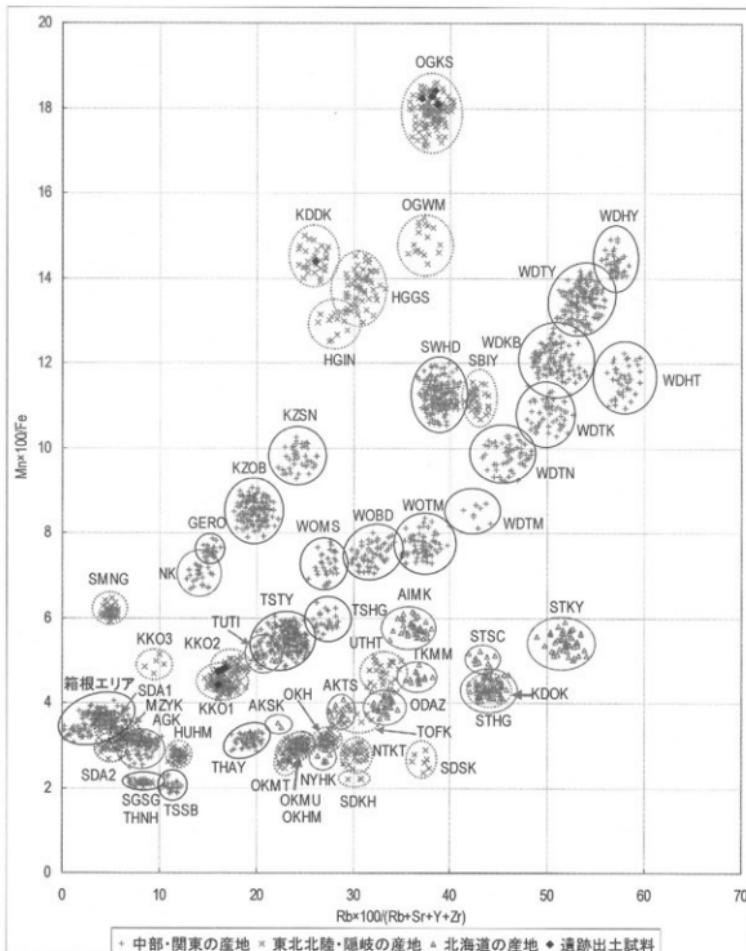


図1 戸佐遺跡出土黒曜石判別図（1）

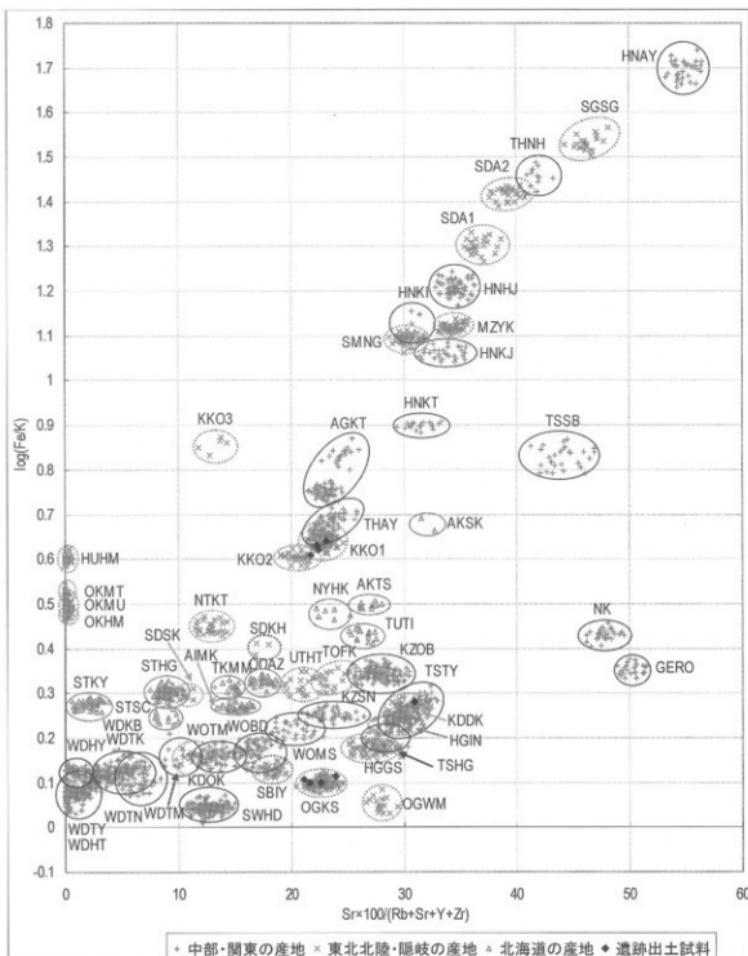


図2 戸仲遺跡出土黒曜石判別図（2）

表2 戸仲遺跡出土黒曜石産地組成

エリア	判別群	記号	試料数	%
和田(WO)	ブドウ沢	WOB0	0	0
	牧ヶ沢	WOMS	0	0
	高松沢	WOTM	0	0
和田(WD)	美草ライト	WDHY	0	0
	鷹山	WDTY	0	0
	小深沢	WDKB	0	0
	土屋橋北	WDTK	0	0
	土屋橋西	WDTN	0	0
	土屋橋南	WDTM	0	0
	古峰	WDHT	0	0
諫訪	星ヶ台	SWHD	0	0
蓼科	冷山	TSTY	0	0
	双子山	TSHG	0	0
天城	擂鉢山	TSSB	0	0
	柏崎1	AGKT	0	0
箱根	烟宿	HNHJ	0	0
	鍛冶屋	HNKJ	0	0
	黒岩橋	HNKI	0	0
	上多賀	HNKT	0	0
	芦ノ湯	HNAY	0	0
神津島	恩馳島	KZOB	0	0
	砂撒崎	KZSN	0	0
高原山	甘湯沢	THAY	0	0
	七尋沢	THNH	0	0
新津	金津	NTKT	0	0
	新発田	SB1Y	0	0
深浦	八森山	HUHM	0	0
木造	出来島	KDK	1	11.11
男鹿	金ヶ崎	OGKS	4	44.44
脇	脇本	OGWM	0	0
	月山	HGGS	0	0
羽黒	今野川	HGIN	0	0
	折居1群	KK01	3	33.33
	折居2群	KK02	1	11.11
北上川	折居3群	KK03	0	0
	湯ノ倉	MZYK	0	0
	秋保1群	SDA1	0	0
仙台	秋保2群	SDA2	0	0
	根岸	SMNG	0	0
色麻	塩竈港群	SGSG	0	0
	小泊	折腰内	KDK	0
魚津	草月上野	UTHT	0	0
	二上山	TOFK	0	0
高岡	真光寺	SDSK	0	0
	金井二ッ坂	SDKH	0	0
佐渡	久見	OKHM	0	0
	岬地区	OKMT	0	0
隠岐	箕浦	OKMU	0	0
	8号沢	STHG	0	0
白滝	黒曜の沢	STKY	0	0
	赤石山頂	STSC	0	0
赤井川	曲川	AIMK	0	0
	豊溝	TUTI	0	0
瀬戸	安住	ODAZ	0	0
	十勝	TKMM	0	0
名寄	三股	NYHA	0	0
	布川	AKTS	0	0
旭川	高砂台	AKSK	0	0
	春光台			
不明產地1	NK	NK	0	0
下呂石	GERO	GERO	0	0
	合計		9	99.99
	不可など		0	
	総計		9	

別表 売地原石判別群 (SEIKO SEA-2110L 蛍光X線分析装置による)

都道府県	地図No.	エリア	新判別群	旧判別群	新記号	旧記号	原石採取地(分析数)
北海道	1	白滝	八号沢群		STHG		赤石山山頂(19)、八号沢露頭(31)、八号沢(79)
	2	上士幌	黒曜の沢群		STKY		黒曜の沢(6)、幌加林道(4)
	3	(置)	三股群		KSMM		十三ノ沢(16)
	4	旭川	安住群		ODAZ		安住(25)、清水ノ沢(9)
	5	名寄	高砂台群		AKTS		高砂台(6)、雨紺台(5)、春光台(5)
	6	新十津川	春光台群		AKSK		布川(10)
	7	赤井川	須田群		SYHK		須田(6)
	8	豐浦	曲川群		STSD		曲川(25)、土木川(15)
青森	9	木造	豊泉群		AIMK		豊泉(16)
	10	深浦	出来島群		TUTI		出来島海岸(34)
秋田	11	男鹿	八森山群		KDDK		八森山公園(8)、六角沢(8)、岡崎浜(40)
	12	羽黑	金ヶ崎群		HUHM		金ヶ崎温泉(37)、臨本海岸(98)
山形	13	新津	鷲巣群		OGKS		鷲巣海岸(16)
	14	新発田	板山群		OGWM		月山莊前(30)、朝日町田代沢(18)、柳引町中沢(18)
福島	15	高原山	甘湯沢群	高原山1群	THAY	TKH1	月山莊前(30)、朝日町田代沢(18)、柳引町中沢(18)
			七尋沢群	高原山2群	THNH	TKH2	甘湯沢(50)、桜沢(20)
長野	和田(WD)	鷲巣群	和田1群	WDTY	WDT1		七尋沢(9)、自然の家(9)
		小深沢群	和田2群	WDKB	WDT2		
		土屋橋北群	和田岬3群	WDTK	WDT3	鷲巣(53)、小深沢(54)、東鮮屋(36)、芙蓉ライ(87)、	
		土屋橋西群	和田岬4群	WDTN	WDT4	古峰(50)、土屋橋北(83)、土屋橋西(29)、土屋橋南(68)、T字御嶽(18)	
		土屋橋南群	和田岬5群	WDTM	WDT5		
		芙蓉ライ群		WDHY			
		古峰群		WDHT			
		ブトウ沢群	男女倉1群	WOBD	OMG1	ブトウ沢(36)、ブトウ沢右岸(18)、牧ヶ沢上(33)、	
静岡	和田(WO)	牧ヶ沢群	男女倉2群	WOMS	OMG2	牧ヶ沢下(36)、高松沢(40)	
		高松沢群	男女倉3群	WOTM	OMG3		
神奈川	17	鎌倉	星ヶ台群	霧ヶ峰系	SWHD	KRM	星ヶ塔第1鉱区(36)、星ヶ塔第2鉱区(36)、星ヶ台A(36)、星ヶ台B(11)、水月園(36)、水月公園(13)、星ヶ塔のりこし(36)
	藤科	冷山群	藤科系	TSTY	TTS		
東京		双子山群		TSHG		冷山(33)、麦草峠(36)、麦草峠東(33)、渋ノ瀬(29)、	
		擂鉢山群		TSSB		美し森(4)、ハケ岳(717)、ハケ岳(18)、双子池(34)	
島根	19	芦ノ瀬群	芦ノ瀬	HNAY	ASY	双子池(26)	
	20	烟宿群	烟宿	HNHJ	HTJ	擂鉢山(31)、龟甲池(8)	
宮城	21	黒岩堆群	黒岩堆系A群	HINKI	HKNA	芦ノ瀬(34)	
	22	天城	鍛冶屋	HNKJ	KJY	烟宿(71)	
岩手	23	恩賜島群	上多賀群	HNKT	KMT	黒岩堆(9)	
	24	神津島	恩賜島1群	KZOB	KOZI	鍛冶屋(30)	
岩手		神津島2群	神津島2群	KZSN	KOZ2	上多賀(18)	
		久見群		OKIM	AGKT	柏崎(80)	
宮城		箕浦群		OKMU	KSW	柏崎(40)、長浜(43)、沢尻湾(8)	
		岬群		OKMT		砂堀崎(40)、長浜(5)	
その他		NK群		NK		久見バーライト(30)、久見採掘現場(18)	
						箕浦海岸(30)、加茂(19)、岸浜(35)	
青森						岬地区(16)	
						中ノ原IG、5G(遺跡試料)、原石産地は未発見	

佐々木繁喜氏提供試料(まだ地図には入れていない)

青森	小泊	折腰内群	KDKO	小泊市折腰内(8)
岩手	北上川	北上折居1群	KKO1	水沢市折居(36)、花巻日形田ノ沢(36)、零石小赤沢(22)
		北上折居2群	KKO2	水沢市折居(23)、花巻日形田ノ沢(8)、零石小赤沢(2)
		北上折居3群	KKO3	水沢市折居(5)
宮城	宮崎	湯ノ食群	MZYK	宮崎湯ノ食(54)
	色麻	銀岸群	SMNG	色麻町銀岸(48)
	仙台	秋保1群	SDA1	仙台市秋保土藏(17)
		秋保2群	SDA2	仙台市秋保土藏(35)
	塩竈	塩竈群	SGSG	塩竈市塩竈漁港(22)



別図 黒曜石原産地位置図

## V 宇曾沢遺跡第2次調査

### 1 遺跡の立地

宇曾沢遺跡はJR東北本線盛岡駅から南東に約11.7kmの盛岡市川日第2地割20番地11ほかに位置し、築川によって形成された河岸段丘右岸に立地する。調査前の遺跡の現況は畠および民家進入路で、標高は約210～211mを測る。

### 2 基本土層

本調査区は東西に細長いものであるが、層序の堆積に違いが見られないため、土坑や焼土遺構が検出されたB区のIA8oグリッド南壁を基本層序とした。遺物は第II層・第III層から出土している。各層の詳細は以下のとおりである。

第I層 表土層である。層厚は70～85cm。3(a～c)層に細分される。

a層 2.5Y6/8明黄褐色シルト層 盛土層。下位には礫層が10cm厚で一様に見られる。

b層 10YR3/2黒褐色シルト層 旧表土層。明黄褐色シルト(盛土)粒5～7%、炭化物粒1～2%含む。

c層 10YR3/2黒褐色シルト層 耕作土層。径2～10cmの礫1%含む。

第II層 繩文時代の遺物を包含する層で、2(a・b)層に細分される。遺物量は少ないが、繩文時代前期以降の堆積層と考えられる。層厚40～45cm。

a層 10YR1.7/1黒色シルト層 黏性は無く、しまりやや無い。

b層 10YR2/1～2/2黒色～黒褐色シルト層 黏性無く、しまりややあり。焼土粒1%未満、地山粒1～2%、径1～2cmの小礫1%未満含む。

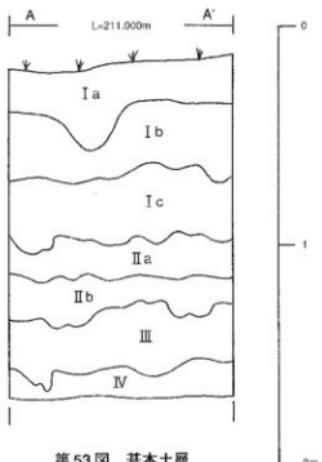
本層の上面でRD001、RF001、RF002が検出された。9～11・18の繩文土器が出土している。

第III層 黒褐色～暗褐色シルト層。粘性はややあり、しまり中。褐色シルトが甌の子状に見られる。

繩文時代早期中葉の遺物を包含する層である。

本層の上面でRD002が検出された。層厚10～35cm。

第IV層 暗褐色シルト層。いわゆる「地山」と呼ばれる層で、しまっている。部分的に黒褐色土ブロックの混入が見られる。本層より下位からは遺構・遺物とともに検出されていない。層厚15～20cm。



第53図 基本土層

### 3 検出遺構

今回の調査で検出した遺構は土坑類3基、焼土遺構2基で、このうち土坑類は形状や規模等から貯蔵穴・陥し穴状遺構・柱穴痕とそれぞれ考えられる。

#### RD001 土坑（第54図、写真図版46）

＜位置・重複関係＞ B区中央、IA7pグリッドに位置する。北側は調査区外に広がっている。重複関係にある遺構はない。

＜検出面＞ 検出はⅢ層上面で行い、半円状の黒褐色の広がりとして確認した。しかし、北側の堆積土を観察すると、本來は第Ⅱb層上面から掘り込まれていることが判明した。

＜規模・平面形＞ 南半分の検出であるため、全体の形状は不明である。確認された開口部の規模は長辺84cmであるが、實際には120cm前後あったものと思われる。検出面からの深さは108cmであるが、北壁を観察すると130cm以上である。

＜埋土＞ 黒色～黒褐色シルトを主体とし、地山の混入具合や土質によって11層に分層した。底面付近や壁面際には第IV層や第V層に起因する堆積土が見られ、壁面上部の崩落土と判断した。堆積土は地山の流入が見られるものの、レンズ状・三角形状の堆積状況を呈しており、自然堆積と考えられる。

＜壁面・底面＞ 底面は概ね平坦である。壁面は第IV層と第V層の境界のやや下でオーバーハングしており、上部は漏斗状に開いている。

＜遺構の性格＞ 遺構の形状から貯蔵穴と思われる。

遺物 なし。

時期 詳細な時期は不明であるが、縄文時代前期以降であろう。

#### RD002 陥し穴状遺構（第54図、写真図版46）

＜位置・重複関係＞ A区中央、IA8hグリッドに位置する。北側は調査区外に広がっている。重複関係にある遺構はない。

＜検出面＞ 検出は第Ⅲ層上面で行い、溝状の黒褐色の広がりとして確認した。

＜規模・平面形＞ 溝状の陥し穴状遺構である。確認された開口部の規模は173×50cm、検出面からの深さは最大95cm、主軸方向はN-50°-Wである。

＜埋土＞ 黒褐色シルトを主体とし、7層に分層した。堆積土の上部では地山の流入が見られるものの、レンズ状・三角形状の堆積状況を呈しており、自然堆積と考えられる。

＜壁面・底面＞ 底面は概ね平坦で、壁面は底面からほぼ垂直に立ち上がり、上部でやや外傾気味に立ち上がっている。

遺物 検出面で磨石が1点出土している。

時期 時期を特定できる遺物が出土していないため断定はできないが、検出面から判断すると、縄文時代早期以降と考えられる。

#### RF001 焼土遺構（第54図、写真図版46）

＜位置・重複関係＞ B区中央、IA8pグリッド付近に位置する。重複関係にある遺構はない。

<検出面> 重機で表土を除去していたところ、第II b層中で焼土層の広がりを確認した。

<規模・平面形> よそ 55 × 40 cm の範囲に焼土層が不整形に広がっている。

<埋土・焼土> 掘り込みは認められない。焼土層の厚さは最大で 7 cm である。

遺物 なし。

時期 検出面から、縄文時代前期以降と考えられる。

#### RF002 焼土遺構（第 54 図、写真図版 46）

<位置・重複関係> B 区南西の I A8n グリッド付近に位置する。南側は調査区外に広がっている。重複関係にある遺構はない。

<検出面> I A8n グリッド周辺の南壁を観察中に第II b層中で焼土層が形成されていることを確認した。そのため、平面的な検出は行えなかった。

<規模・平面形> 不明である。

<埋土・焼土> 掘り込みは認められない。焼土層の厚さは最大 8 cm である。

遺物 なし。

時期 検出面から、縄文時代前期以降と考えられる。

#### P1 柱穴状土坑（第 54 図、写真図版 46）

<位置・重複関係> A 区中央、I A8g グリッドに位置する。重複関係にある遺構はない。

<検出面> 検出は第III層上面で行い、円形の黒褐色の広がりとして確認した。

<規模・平面形> 平面形は円形で、開口部の規模は直径 20 cm で、検出面からの深さは 24 cm である。

<理土> 第IV層の粒を 1 ~ 2 % 含む黒褐色シルトの単層である。

<壁面・底面> 底面は概ね平坦で、壁面は底面から外傾気味に立ち上がる。

遺物 なし。

時期 検出面から、縄文時代早期以降と考えられる。

## 4 出 土 遺 物

出土した遺物は縄文土器・石器で各小コンテナ 1 箱分である。

### (1) 土 器（第 56 図、写真図版 47・48）

土器は大半が深鉢の破片で、他にミニチュア土器の破片が 1 点出土している。時期は早期・前期・晩期で早期は第III層、前期以降の遺物は第II層から出土した。このうち文様に特徴のあるものを中心に 19 点掲載し、12 点図化した。1 ~ 10 は深鉢の口縁部・胴部破片で貝殻腹縁圧痕文・沈線文が施される早期中葉の物見台式に属するものである。11・12・14 は深鉢破片で 11 は胴部下～底部破片で地文に LR 縄文が施され、12・14 は胴部破片で 12 には非結束羽状縄文、14 には結束羽状縄文が施される。いずれも時期は不明である。13 は前期末葉の深鉢の口縁部に 2 本一对の山形平行文を頸部に巡らし、胴部には継方向に單軸絡条体が施されている。15 は後期の壺形土器の胴部破片と考えられ、器面は無文でミガキが施されている。16 ~ 18 は深鉢の口縁部破片で、沈線文が施されている。晩期に属すると考えられる。19 はミニチュア土器の破片で無文である。

## (2) 石 器 (第57図、写真図版48)

石器は出土量が僅かで、遺構内からの出土はない。20は第Ⅱa層より出土した無茎の石鏸で石材には奥羽山脈産の凝灰岩を使用している。21は石鏸の未製品で、第Ⅲ層から出土した。石材には奥羽山脈産の頁岩が使用されている。22はRD002検出面より出土した磨石で一部破損している。石材には奥羽山脈産の安山岩が使用されている。23は石皿で自然縁の一部外縁を成形した痕跡が認められる。石材には北上山地産の細粒閃綠岩が使用されている。

## 5 ま と め

今回の調査で宇曾沢遺跡が繩文時代早期の遺物散布地、また早期以降には狩猟場や生活の場として利用されていたことが確認された。調査した箇所がごく一部であるため、遺跡の全容を知るすべはないが、今回の調査区が篠川に向かって傾斜して下がる地形上にあることから、現在畠地として利用されている北側の段丘高位面に遺跡の主体部が存在する可能性が考えられる。

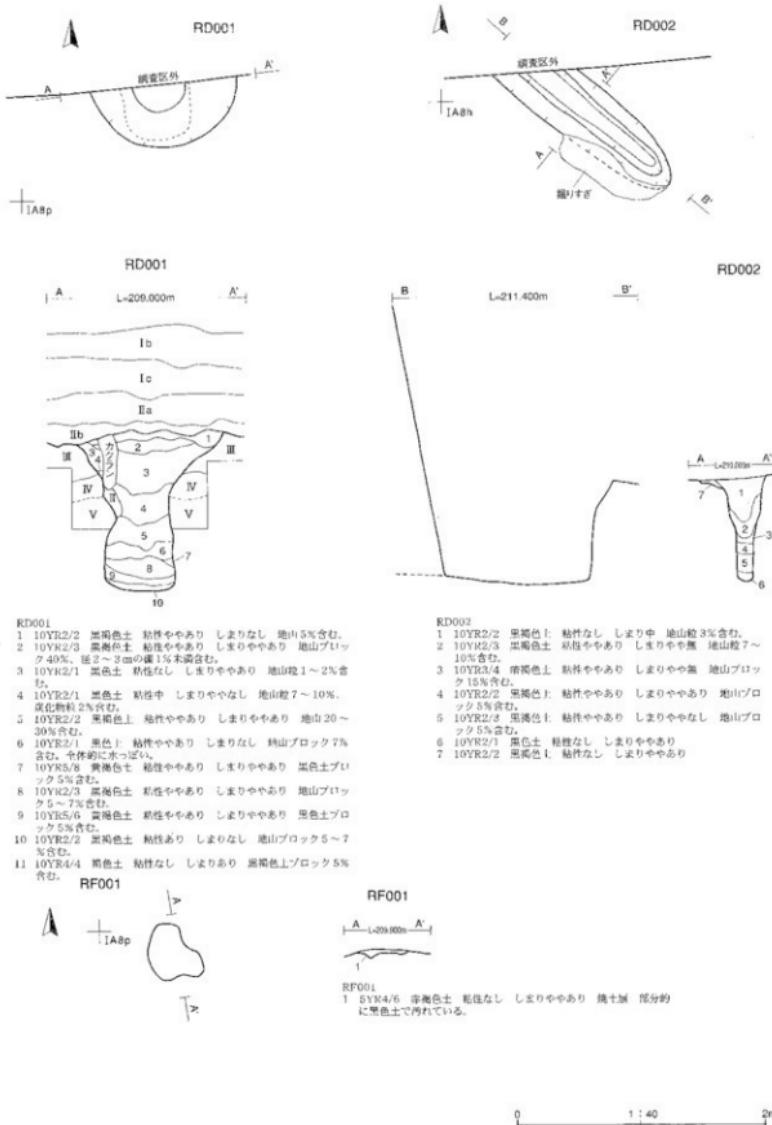
第11表 遺物観察表  
土器

NO	出土地点	層位	器種	部位	外面	内面	時期	図版	写真
1	I A 7 m	Ⅲ層	深鉢	口縁部	貝殻模様(左旋文、沈綱文)	口縁部に貝殻模様压痕	早中期中葉	56	47
2	I A 7 q	Ⅲ層	深鉢	胸部	貝殻模様压痕文、沈綱文	ナデ	早期中葉	56	47
3	I A 7 q	Ⅲ層	深鉢	胸部	貝殻模様压痕文、沈綱文		早期中葉	47	
4	I A 7 q	Ⅲ層	深鉢	胸部	貝殻条波文?		早期中葉	47	
5	I A 8 c	Ⅲ層	深鉢	胸部	沈綱文		早期中葉	56	47
6	I A 8 j	Ⅲ層	深鉢	胸部	貝殻模様压痕文、沈綱文		早期中葉	56	47
7	I A 8 n	Ⅲ層	深鉢	胸部	貝殻模様压痕文、沈綱文		早期中葉	47	
8	I A 8 r	Ⅲ層	深鉢	胸部	貝殻模様压痕文、沈綱文		早期中葉	47	
9	I A 7 q	Ⅱb層	深鉢	口縁部	貝殻模様压痕文、沈綱文		早期中葉	47	
10	I A 8 l	Ⅱb層	深鉢	口縁部	貝殻模様压痕文、沈綱文		早期中葉	47	
11	I A 8 l	Ⅱb層	深鉢	胸部~底部	纏文L R縱・横			56	47
12	I A 8 m	Ⅱa層	深鉢	胸部下半	結節羽状縄文(L.R.R.I.)			56	47
13	I A 7 q	Ⅱc層	深鉢	口縫~胸部	山形沈綱文、單軸格条体		前期後~末葉	56	47
14	I A 8 i	Ⅱa層	深鉢	胸部	纏文L R横			47	
15	I A 8 f	窓土	壺	胸部	纏文		後期	47	
16	I A 7 h	Ⅱa層	深鉢	口縫部	平行沈綱文、口唇部刻込み目		後期	56	47
17	I A 8 h	Ⅱa層	深鉢	口縫部	沈綱文、纏文L R横		晚期	56	48
18	I A 8 p	Ⅱb層	深鉢	口縫部	平行沈綱文	輪積み底あり	晚期	56	48
19	I A 9 c	Ⅱa層	ミニチュア	口縫部	無文	輪積み底あり		57	48

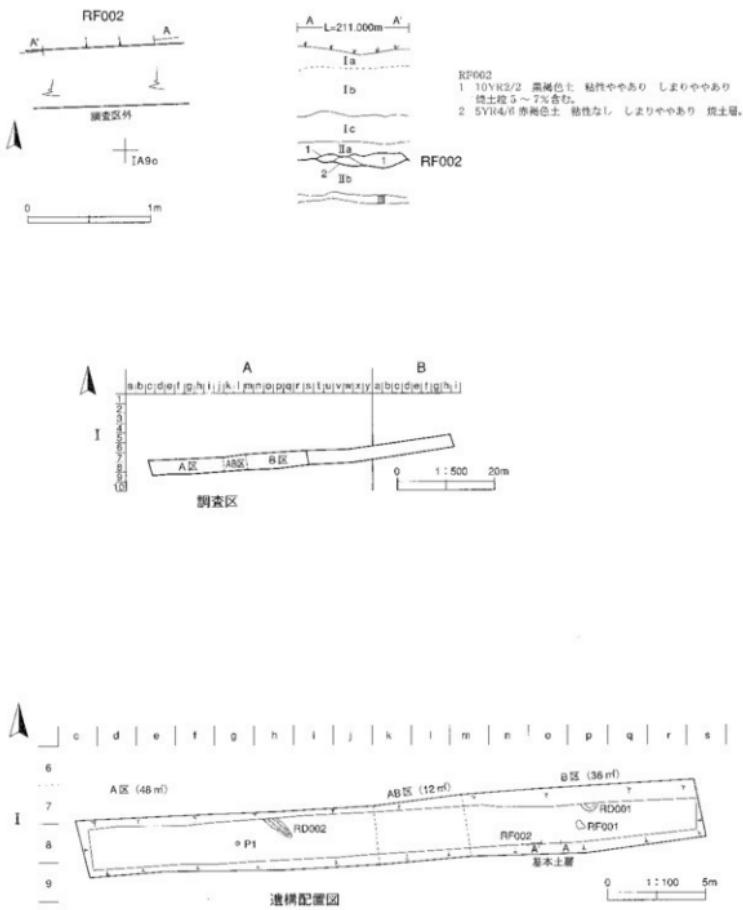
石器

NO	出土地点	層位	器種	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	石質	産地	備考	図版	写真
20	I A 8 p	Ⅱa層	石鏸	2.17	1.44	0.31	0.8	凝灰岩	新生代新第三紀 奥羽山脈		57	48
21	I A 8 l	Ⅲ層	石鏸	3.28	2.49	0.81	5.4	頁岩	新生代新第三紀 奥羽山脈	未製品	57	48
22	RD001	検出面	磨石	17.66	9.28	6.04	1049.5	安山岩	新生代新第四紀 奥羽山脈		57	48
23	I A 7 q	Ⅱa層	石鏸類	37.57	20.67	5.10	* 5.6	御料閃綠岩	中生代白堊紀 北上山地		57	48

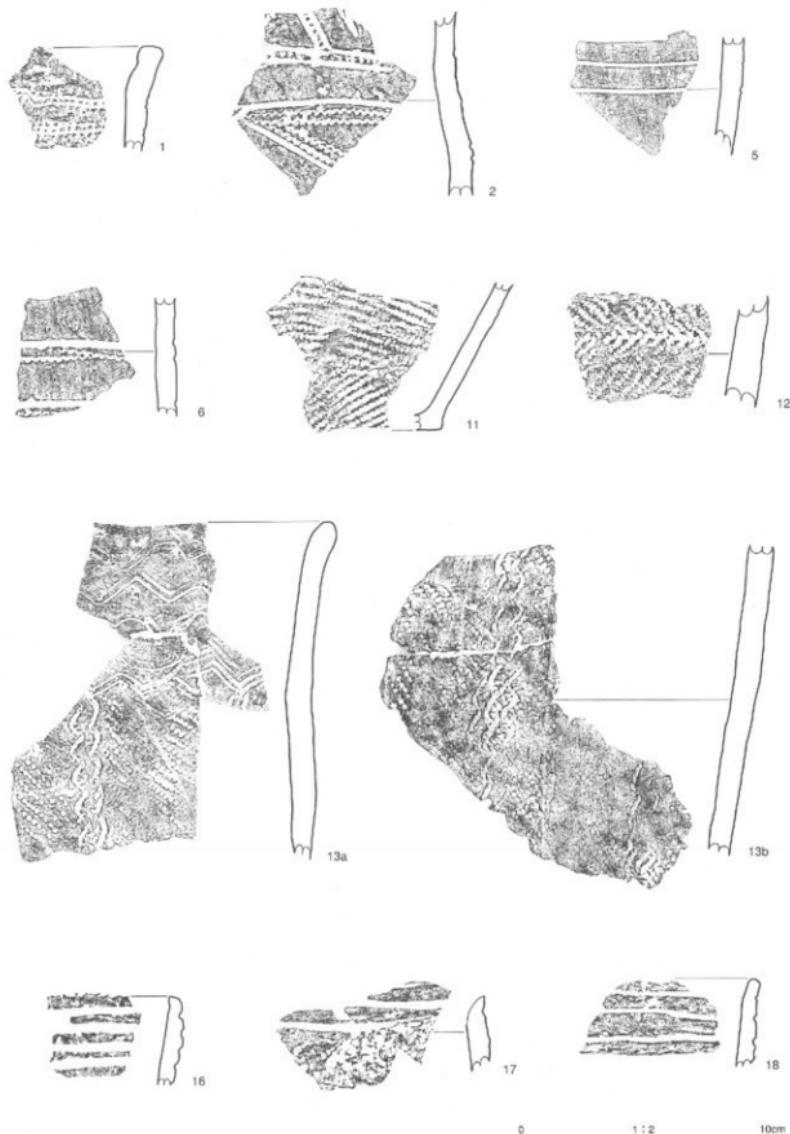
\*単位はkg。



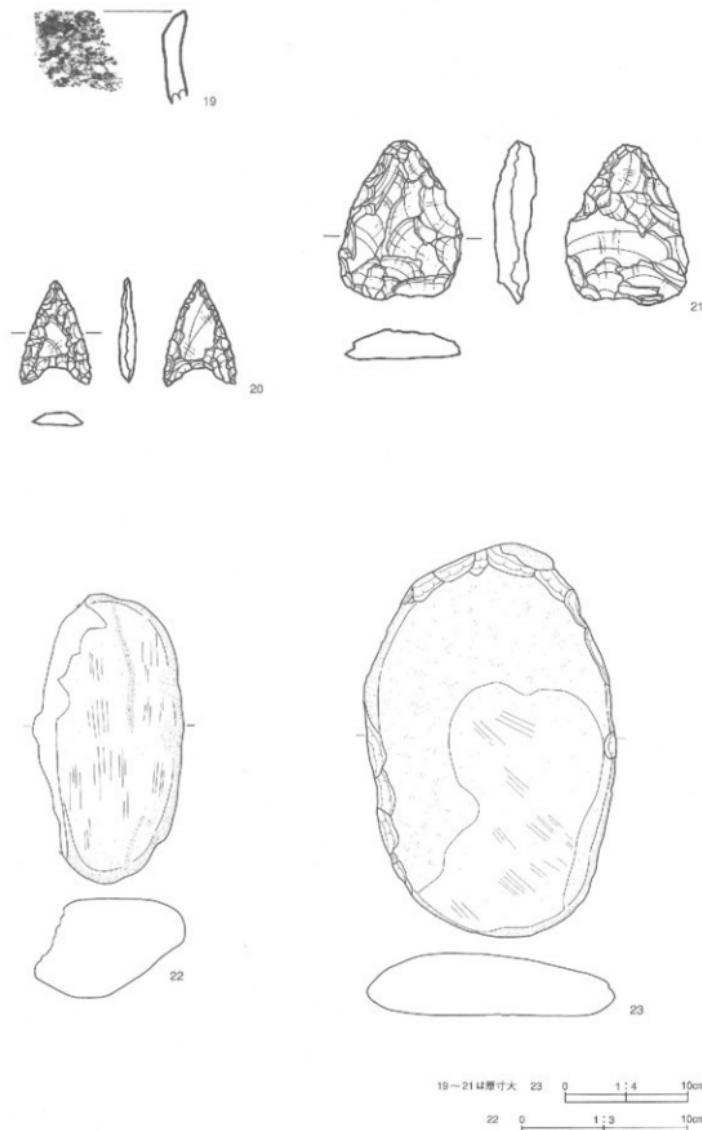
第54図 RD001・RD002、RF001



第55図 RF002、調査区、造構配置図



第56図 出土遺物(1) 土器



第57図 出土遺物(2) 土器・石器

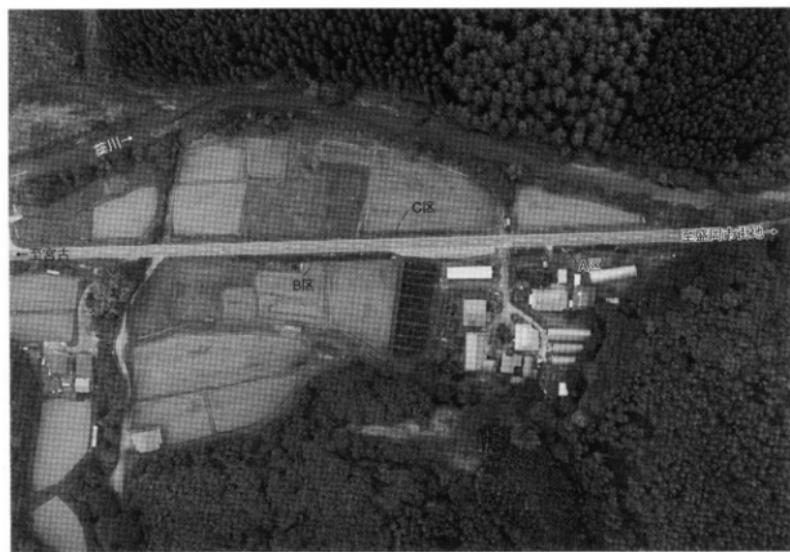
# 写 真 図 版

戸仲遺跡第1次調査 写真図版 1～44  
宇曾沢遺跡第2次調査 写真図版 45～48





遺跡遠景（上が西）



調査区全景（上が南）

写真図版1 航空写真



調査区近景（南から撮影）



調査前風景（A区・NW→）



調査前風景（B区・SE→）



A区 基本土層（NE→）

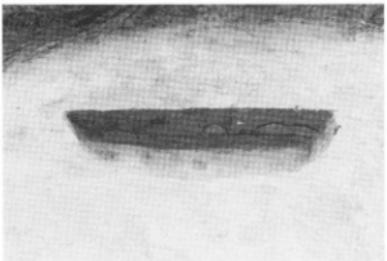


B区 基本土層（SW→）

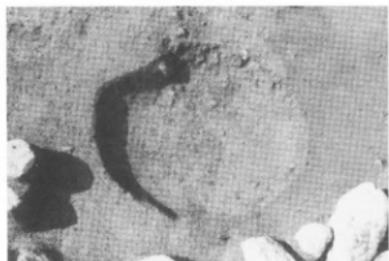
写真図版2 調査区、基本土層



RD001 (平面・NE →)



RD001 (断面・NE →)



RD002 (平面・SE →)



RD002 (断面・SE →)



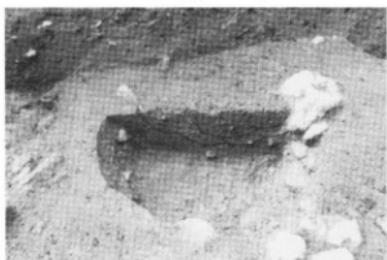
RD003 (平面・W →)



RD003 (断面・SE →)



RD004 (平面・NE →)



RD004 (断面・NE →)

## 写真図版3 RD001 ~ RD004



RD005 (平面・NE →)



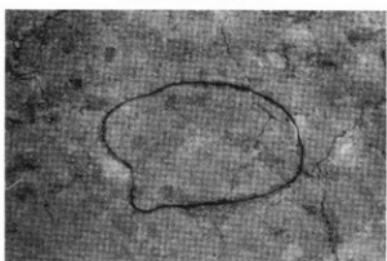
RD005 (断面・SW →)



RD006 (平面・NW →)



RD006 (断面・NW →)



RF001 (平面・NW →)



RF001 (断面・NW →)

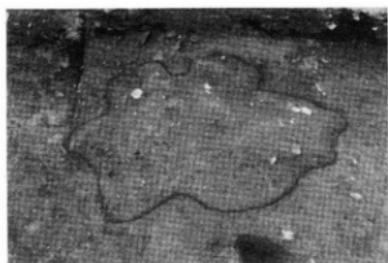


RF002 (平面・NW →)

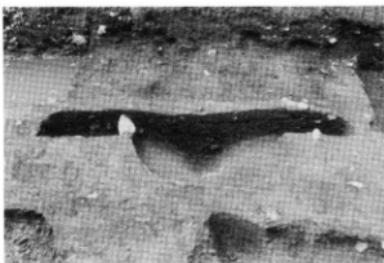


RF002 (断面・SW →)

写真図版4 RD005・RD006、RF001・RF002



RF003 (平面・NE→)



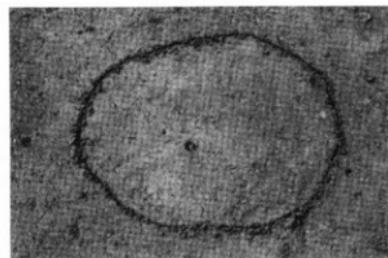
RF003 (断面・NE→)



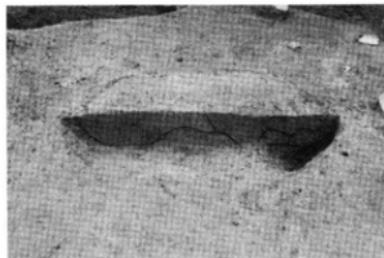
RF004 (平面・SW→)



RF004 (断面・SW→)



RF005 (平面・NE→)



RF005 (断面・NE→)



RF006 (平面・NE→)



RF006 (断面・NE→)

写真図版5 RF003～RF006



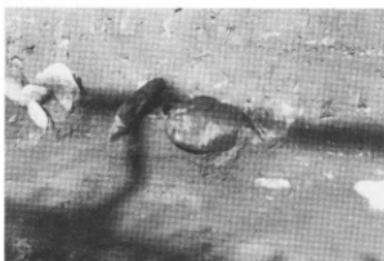
RH001 (平面・NW→)



RH001 (断ち割り・SW→)



RH002 (平面・NE→)



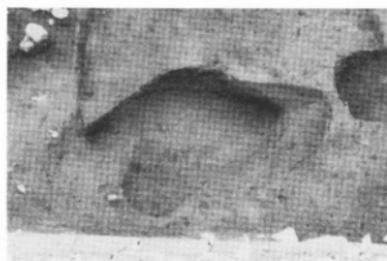
RH002 (断ち割り・SW→)



RH003 (平面・NW→)



RH003・土坑 (断面・SW→)



RH003・土坑 (完掘・NE→)



RH005 (平面・NE→)

写真図版 6 RH001 ~ RH003・RH005



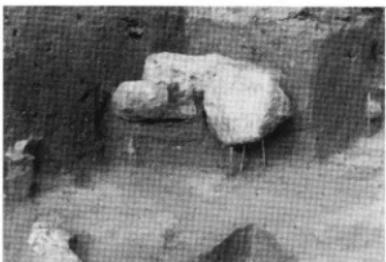
RH005・土坑(断面・NE→)



RH005・土坑(完掘・NE→)



RH004(平面・NE→)



RH004(断ち割り・NE→)



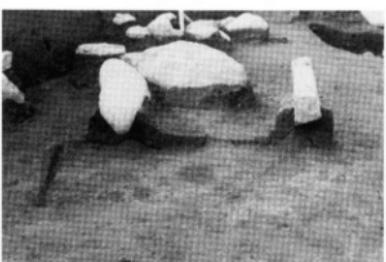
RH006(平面・NE→)



RH006(断ち割り・NE→)



RH007(平面・W→)



RH007(断ち割り・S→)

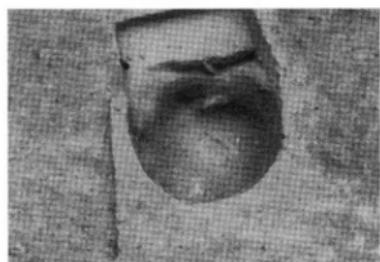
## 写真図版7 RH004～RH007



RH008 (検出・NE →)



RH008・土坑 (断面・SW →)



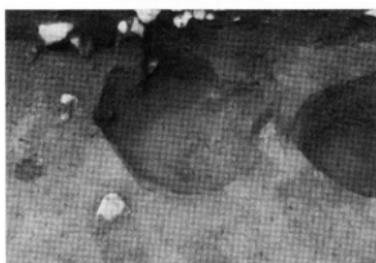
RH008・土坑 (完掘・NE →)



RH10 (検出・NE →)



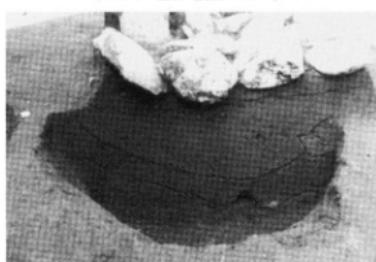
RH10・土坑 (断面・NE →)



RH10・土坑 (完掘・NE →)

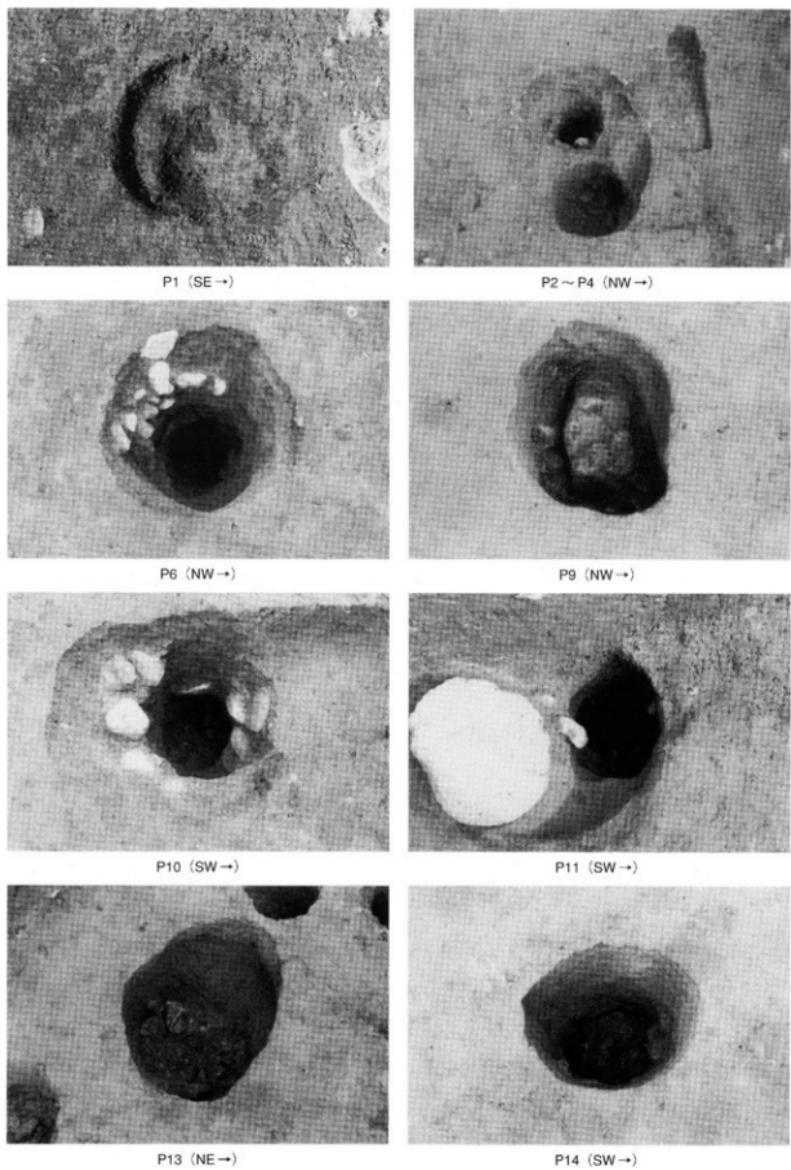


RH09 (検出・W →)

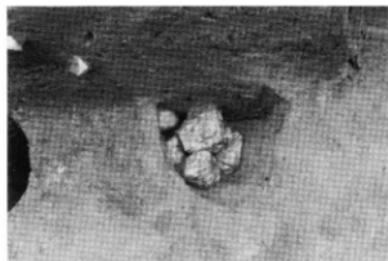


RH09 (断ち割り・E →)

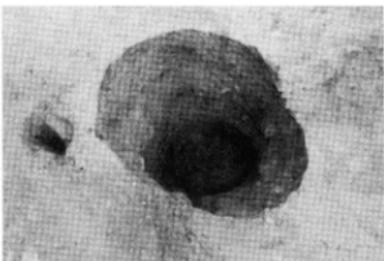
写真図版 8 RH008 ~ RH10



写真図版 9 P1 ~ P4 • P6 • P9 ~ P11 • P13 • P14



P15 (SW →)



P16 (SE →)



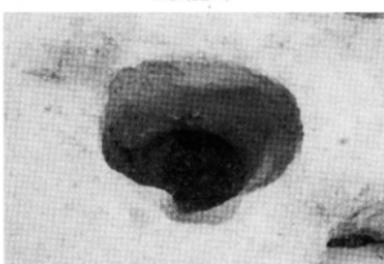
P17 (SW →)



P18 (SE →)



P19 (SE →)



P20 (SW →)



P22 (SW →)



P23 (SW →)

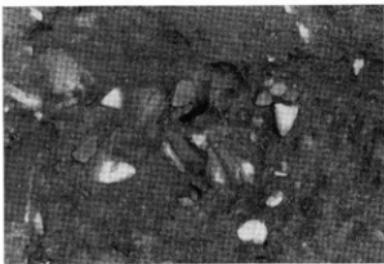
写真図版 10 P15 ~ P20 • P22 • P23



RP001



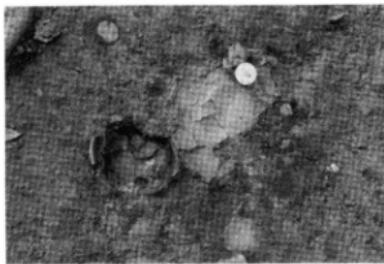
土器（深鉢）



台付鉢（No.104）

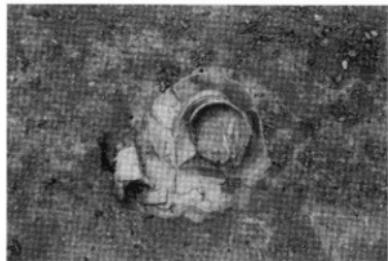


鉢（No.77）

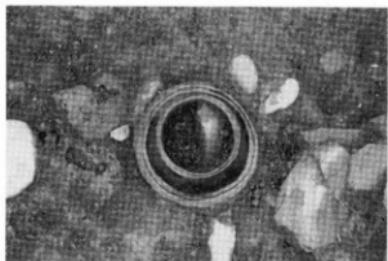


鉢（No.86）・浅鉢（No.112）

写真図版 11 RP001、遺物出土状況（1）



壺 (No.124)



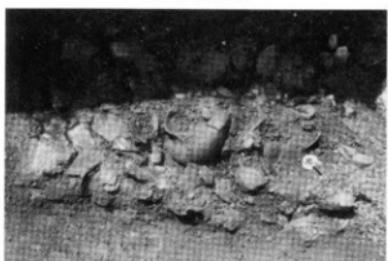
台付鉢 (No.94)



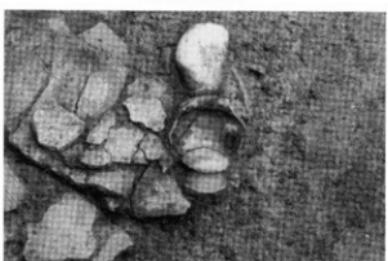
台付鉢 (No.99)



台付鉢 (No.91)



壺 (No.118)



台付鉢 (No.101)

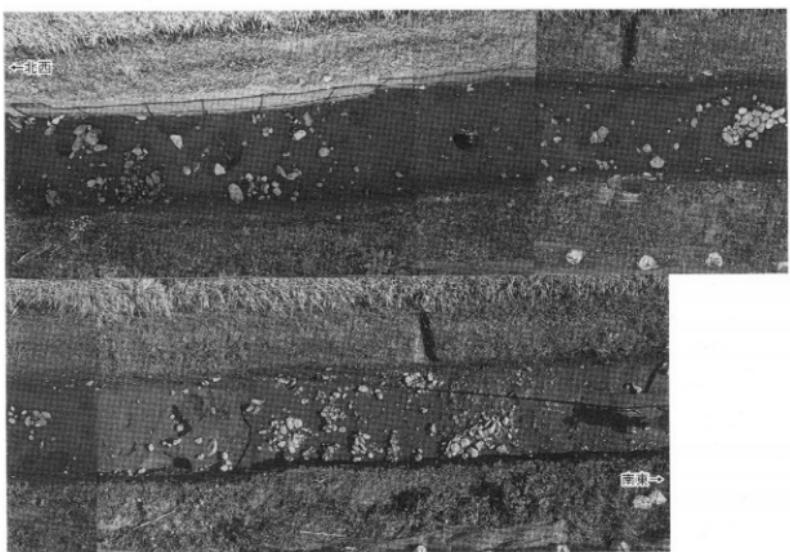


土偶 (No.195)

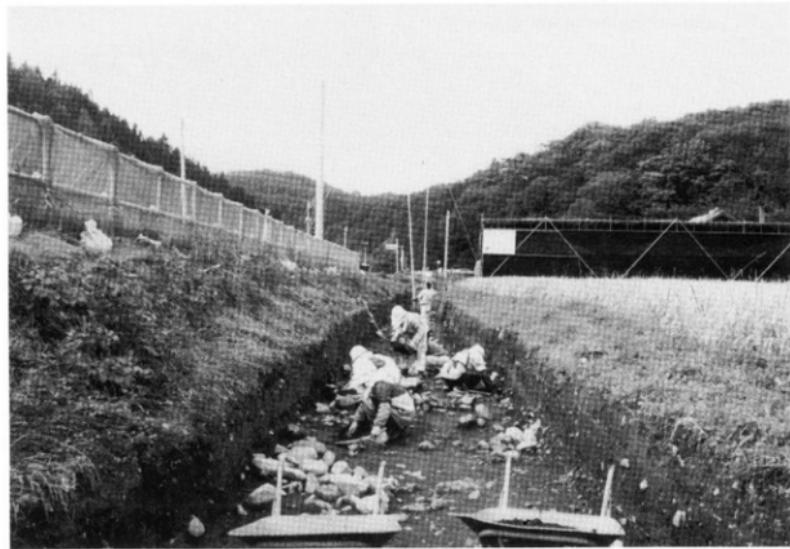


石製品 (No.375)

写真図版 12 遺物出土状況 (2)



配石造構



検出 (E→)

写真図版 13 配石造構、検出状況

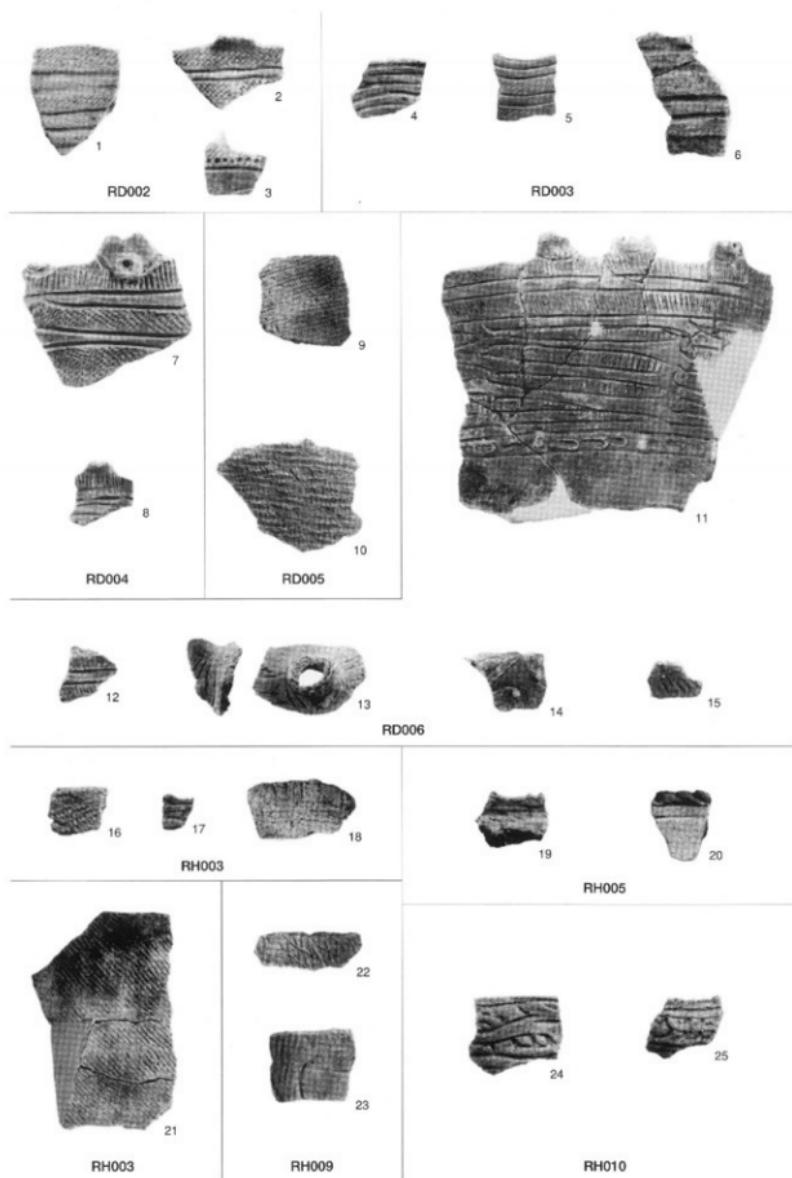


B区 東側 (E→)

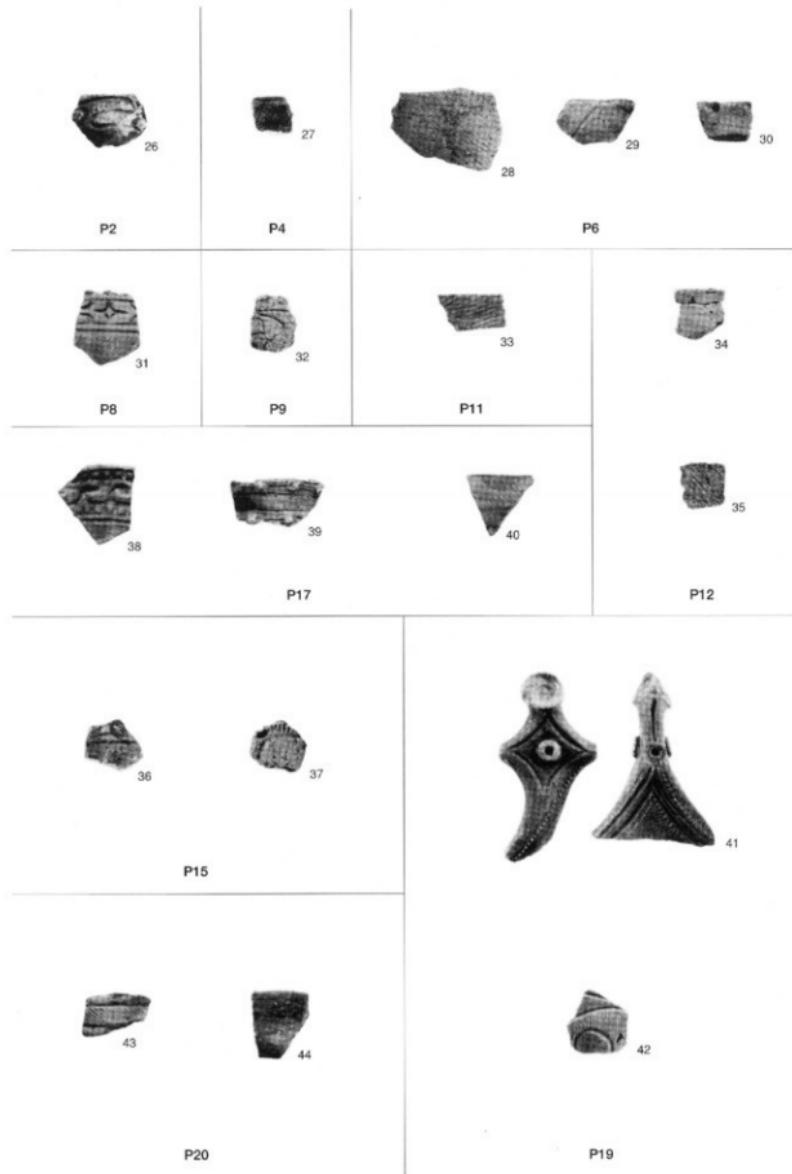


B区 西側 (E→)

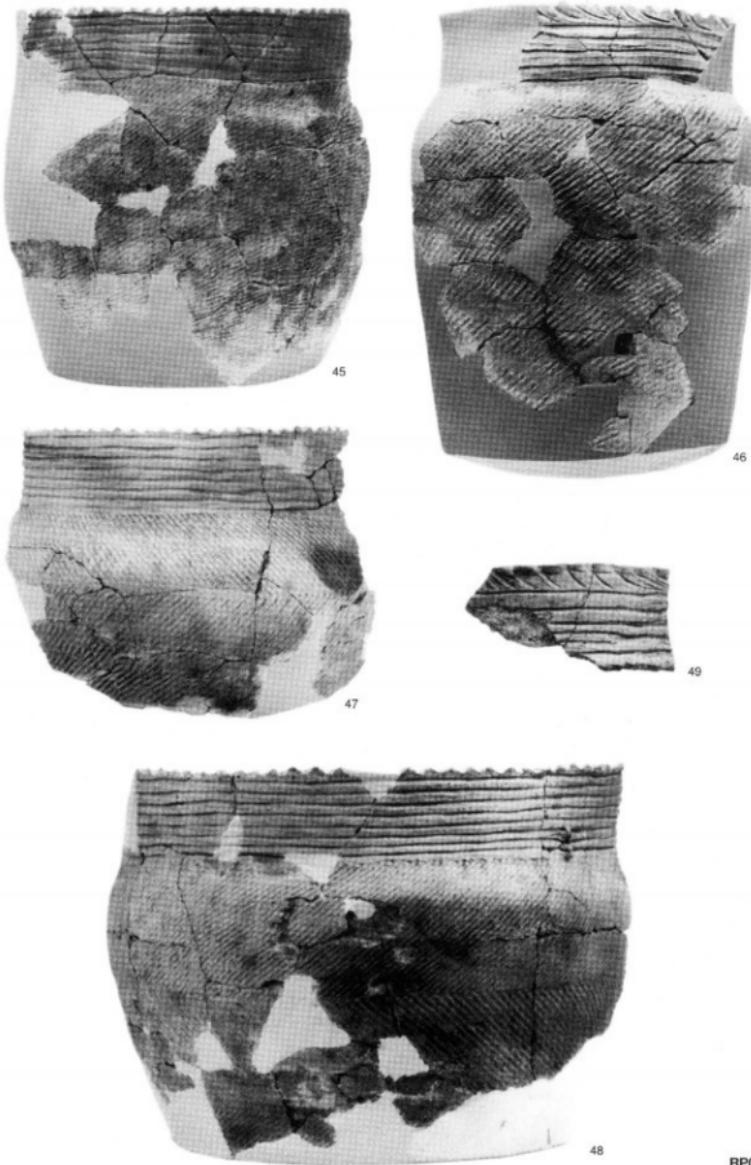
写真図版 14 調査区 (B区)



写真図版 15 遺構内出土土器 (1)



写真図版 16 遺構内出土土器 (2)



写真図版 17 遺構内出土土器 (3)

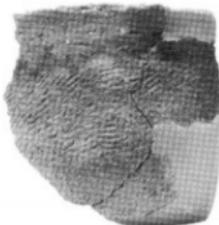


RP001

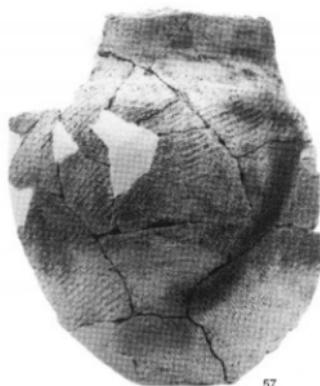
写真図版 18 遺構内出土土器 (4)



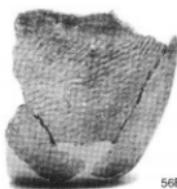
55



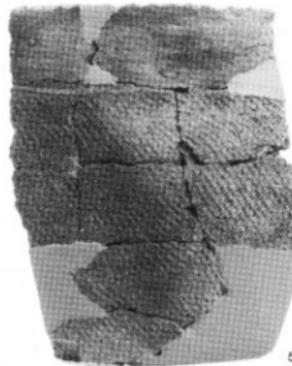
56A



57



56B



59



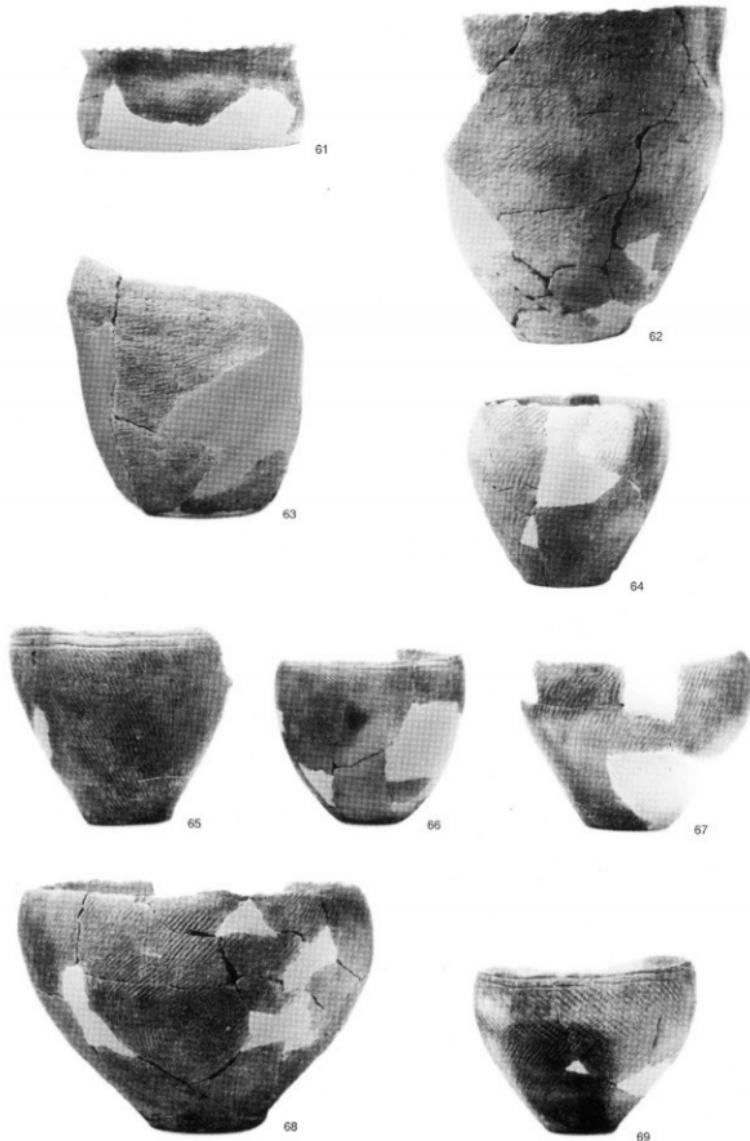
58



60

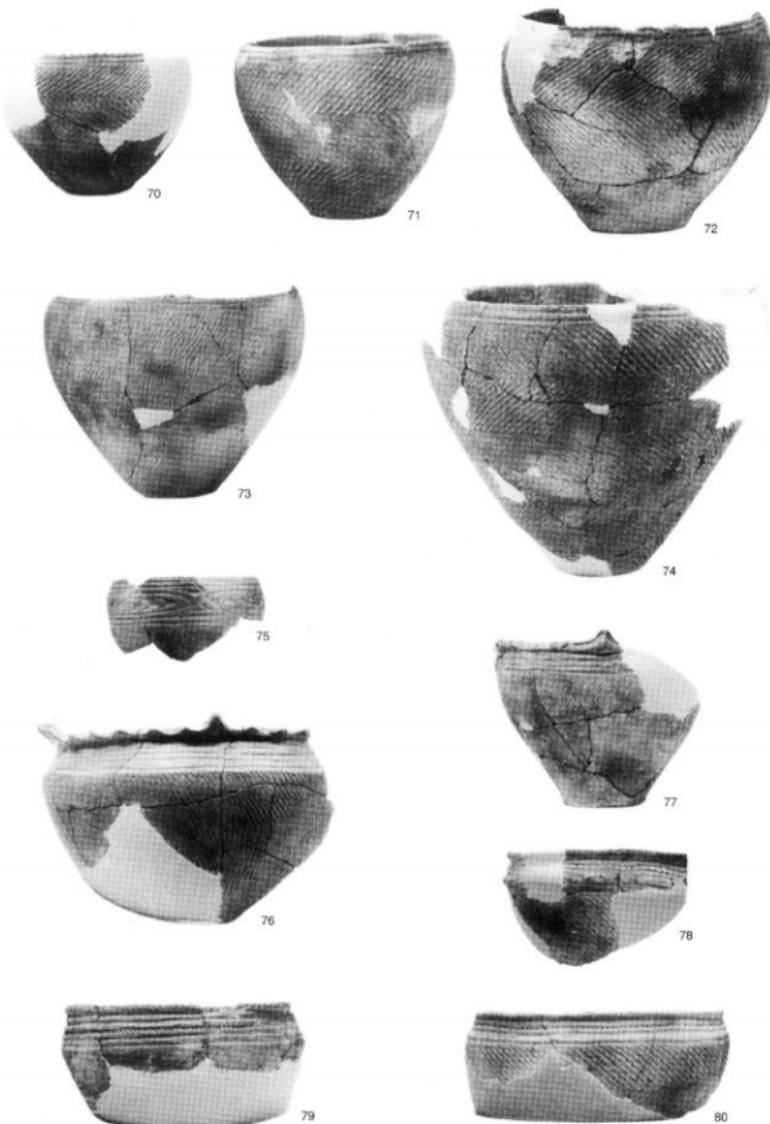
RP001

写真図版19 遺構内出土土器 (5)



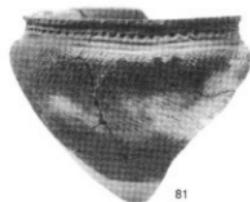
RP001

写真図版 20 遺構内出土土器 (6)



写真図版 21 遺構内出土土器 (7)

RP001



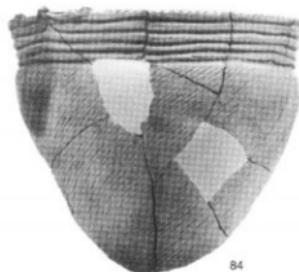
81



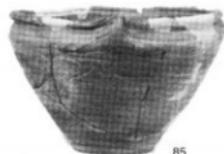
82



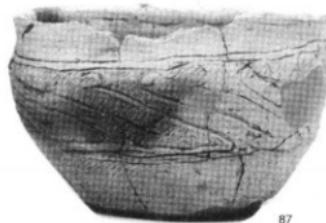
83



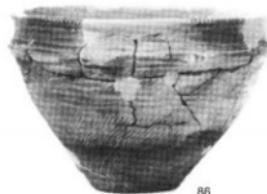
84



85



87



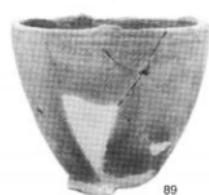
86



88

RP001

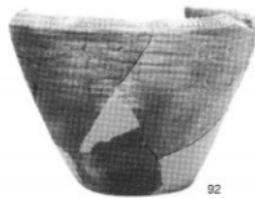
写真図版 22 遺構内出土土器 (8)



89



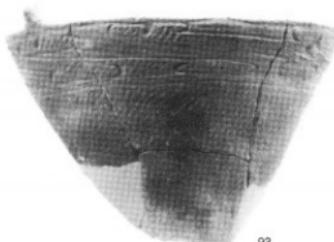
90



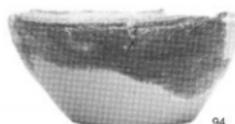
92



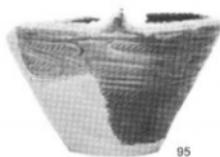
91



93



94



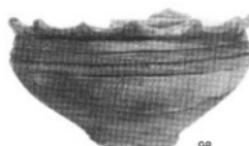
95



96



97



98



99



100

RP001

写真図版 23 遺構内出土土器 (9)

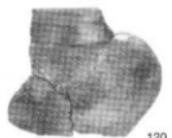


写真図版 24 遺構内出土土器 (10)



写真図版 25 遺構内出土土器 (11)

RP001



120



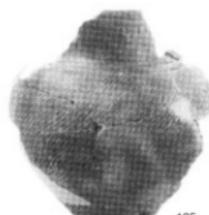
121



122



123



125



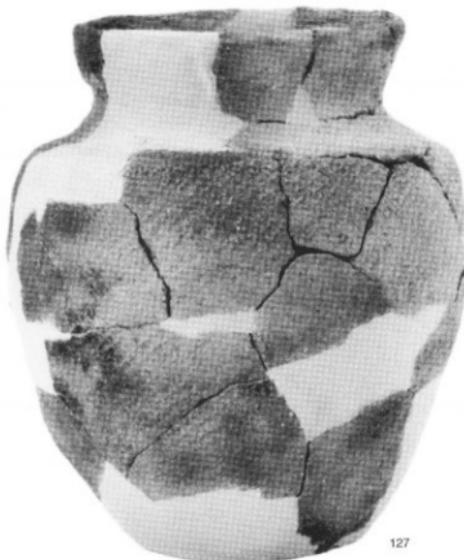
124



126

RP001

写真図版 26 遺構内出土土器 (12)



127



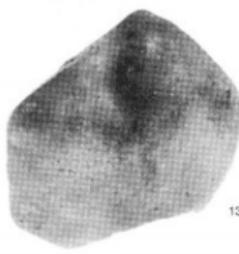
128



130



129



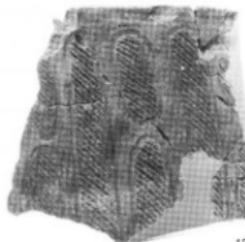
131

RP001

写真図版 27 遺構内出土土器 (13)



132



133



134



135



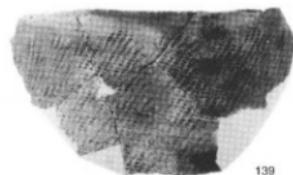
136



137



138



139



140



141

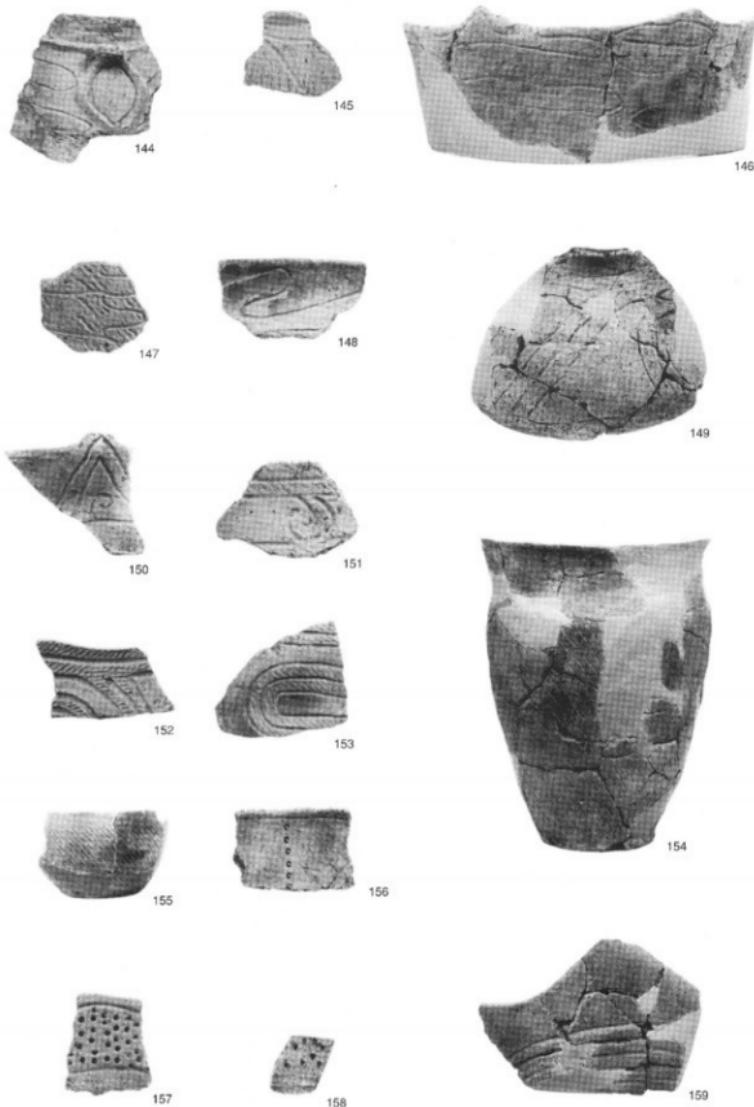


142

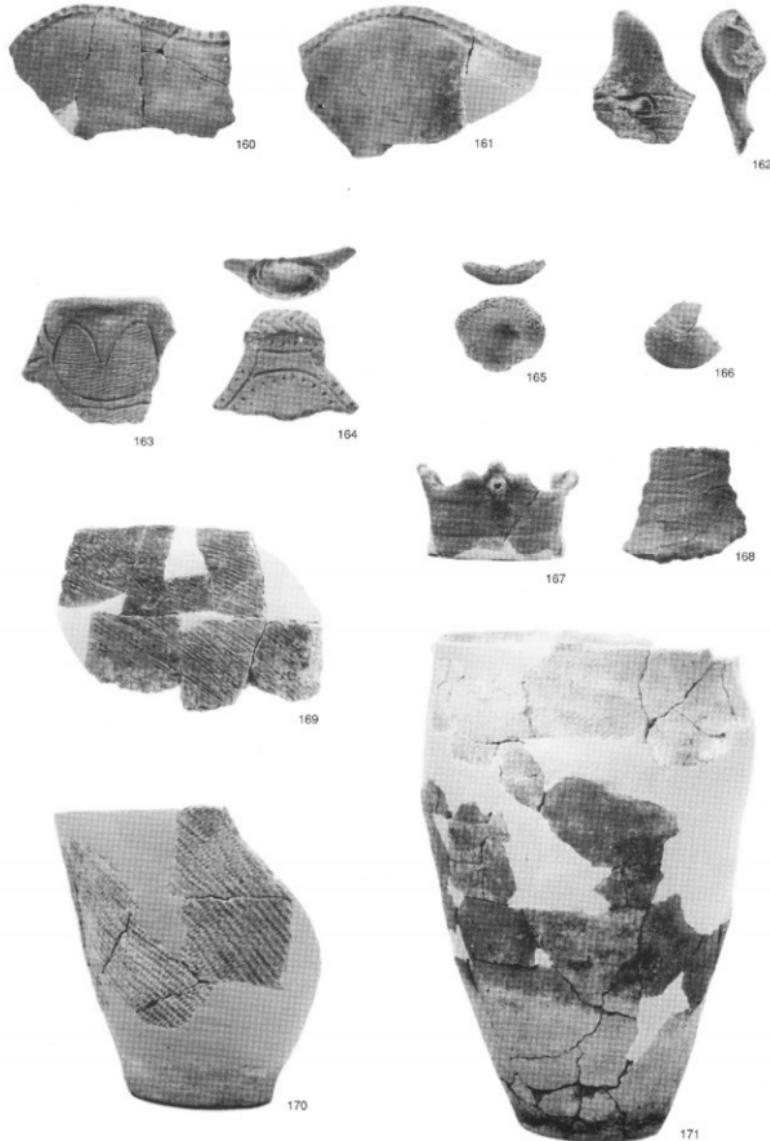


143

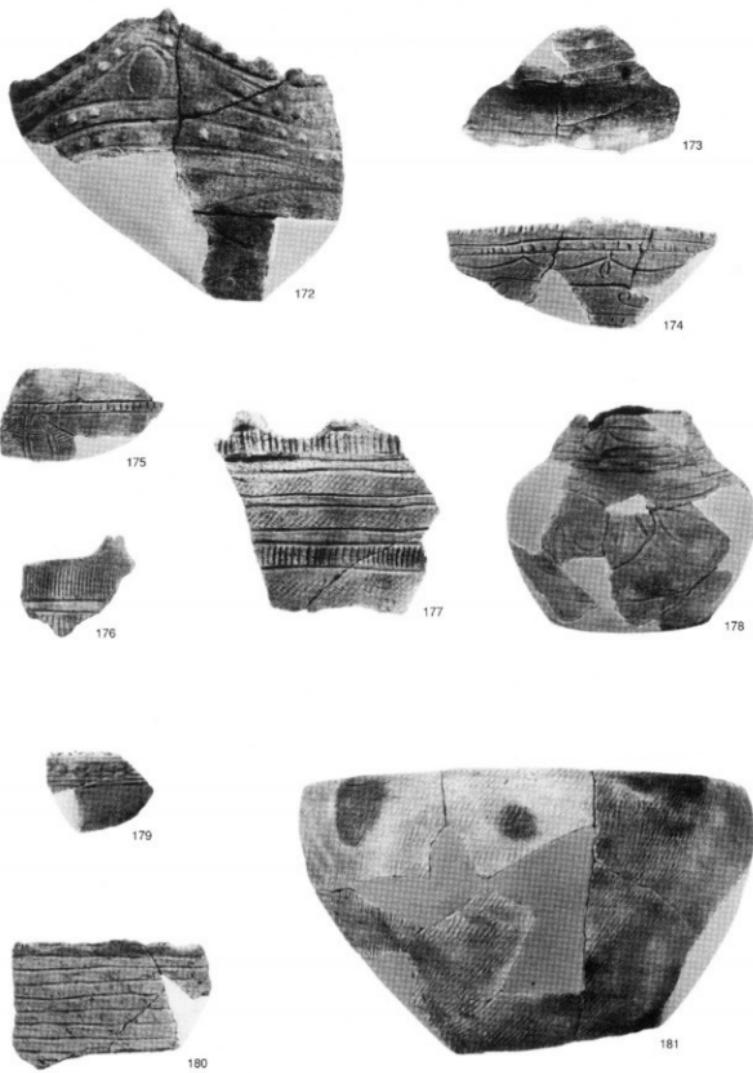
写真図版 28 遺構外出土土器 (1)



写真図版 29 遺構出土土器 (2)



写真図版 30 遺構出土土器 (3)



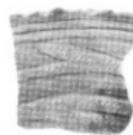
写真図版 31 遺構外出土土器 (4)



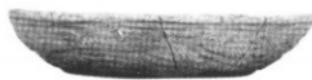
182



183



184



185



187



186



188



189



190



191



192

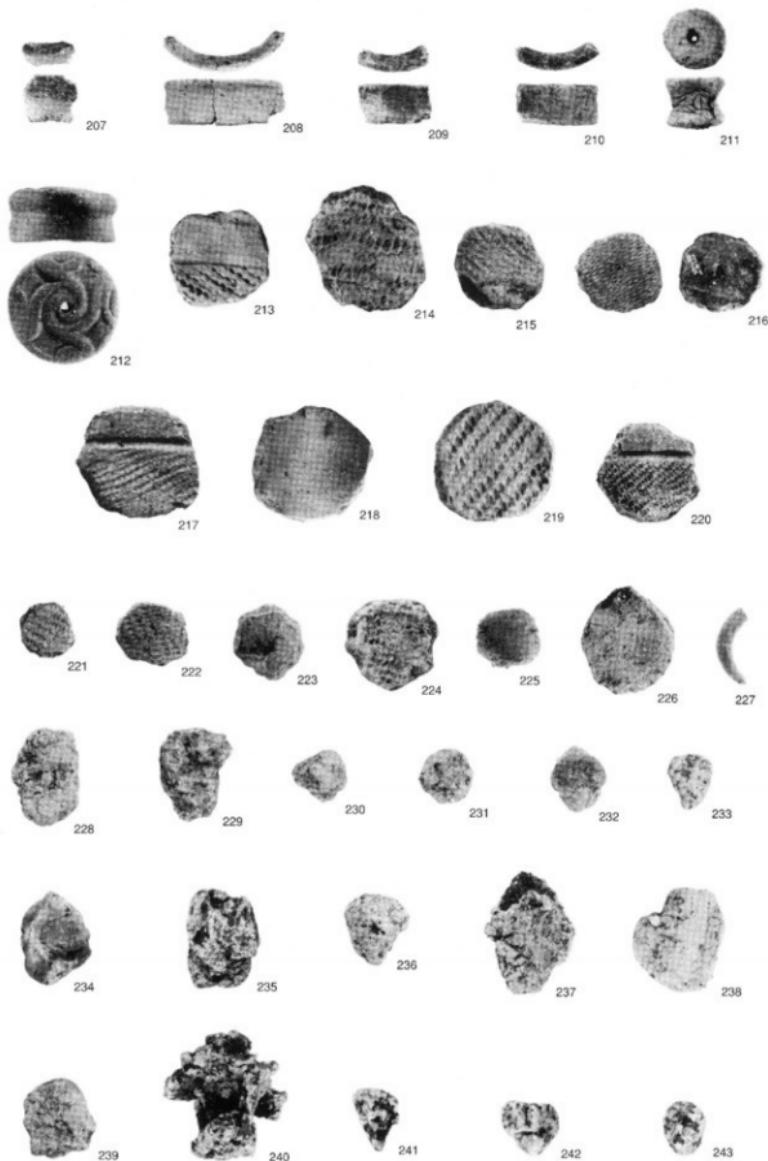


193

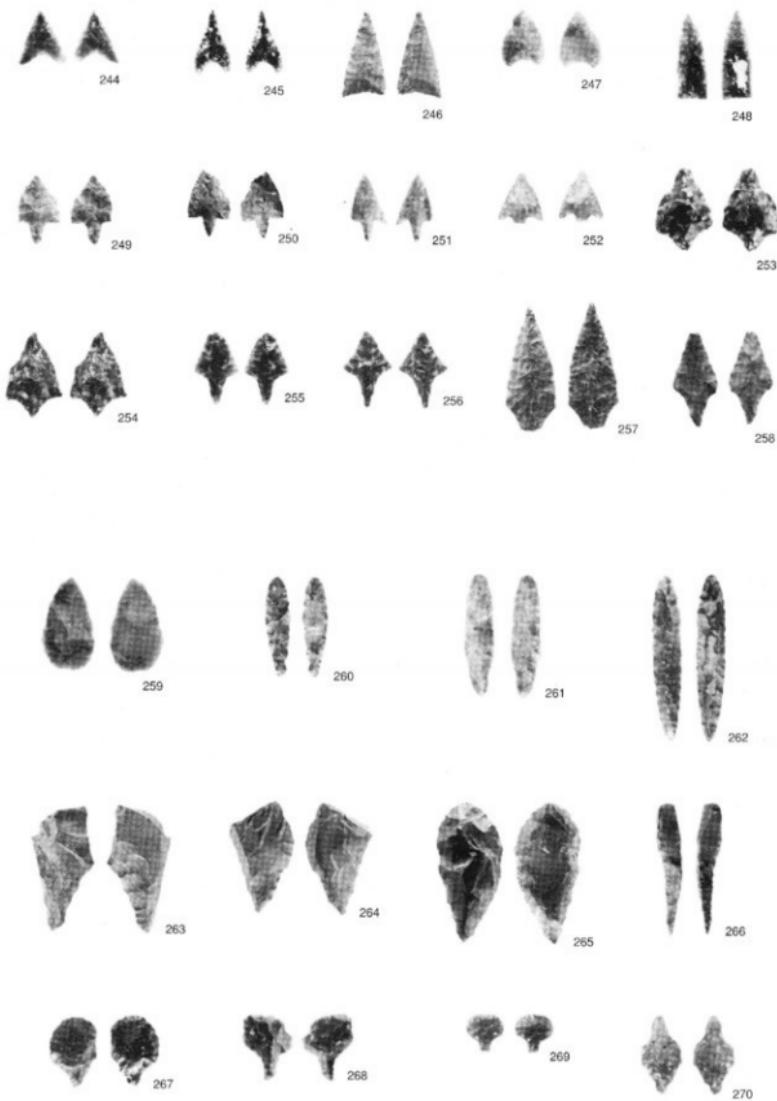
写真図版 32 遺構外出土土器 (5)



写真図版 33 土製品 (1)



写真図版 34 土製品 (2)



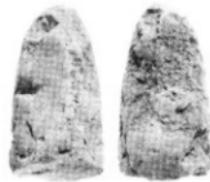
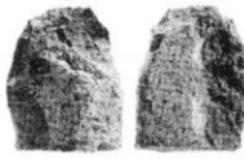
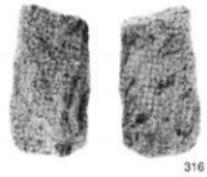
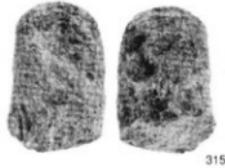
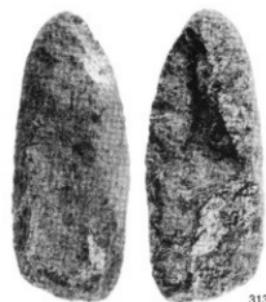
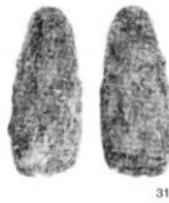
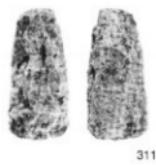
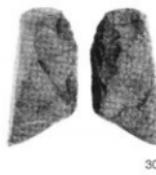
写真図版 35 石器 (1)



写真図版 36 石器 (2)



写真図版 37 石器 (3)



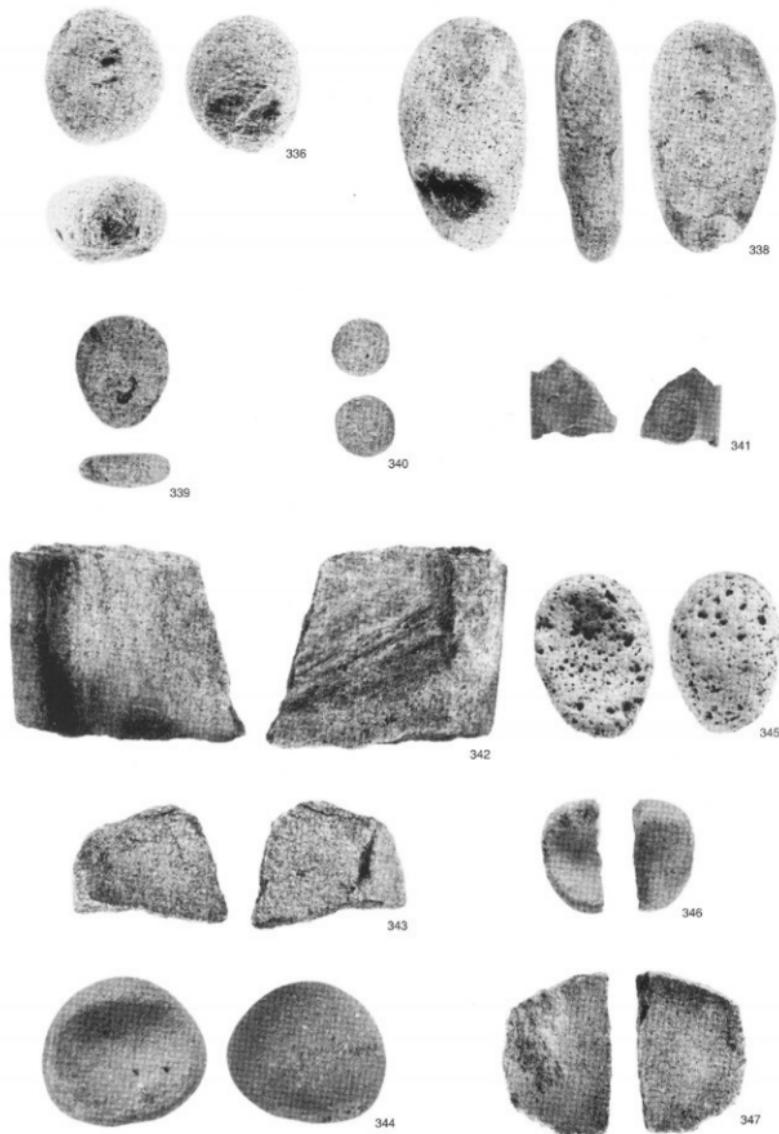
写真図版 38 石器 (4)



写真図版 39 石器 (5)



写真図版 40 石器 (6)



写真図版 41 石器 (7)



348



349



350



351



352



353



354

写真図版 42 石器 (8)



写真図版 43 石器 (9)、石製品 (1)



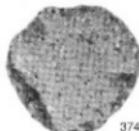
371



372



373



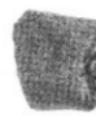
374



375



376



377



378



379



380

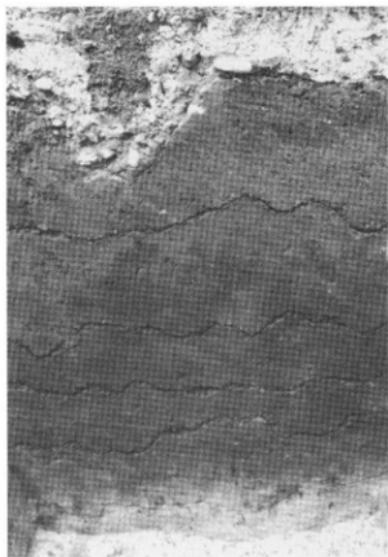
写真図版 44 石器 (10)、石製品 (2)、動物遺存体



遺跡遠景（西→）



調査区近景



基本土層

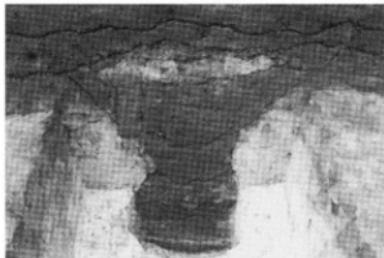


調査前風景

写真図版 45 航空写真、基本土層



RD001 (完掘・E→)



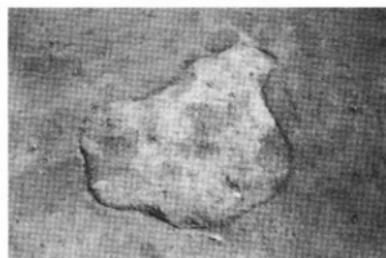
RD001 (断面・S→)



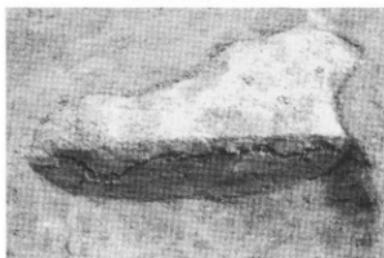
RD002 (完掘・NW→)



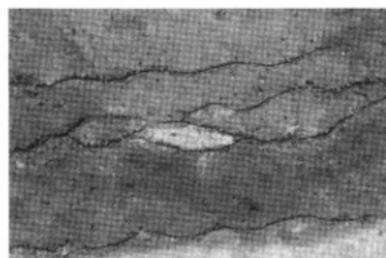
RD002 (断面・SE→)



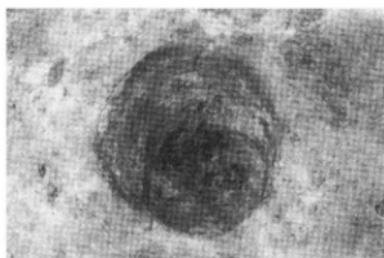
RF001 (平面・E→)



RF001 (断面・E→)

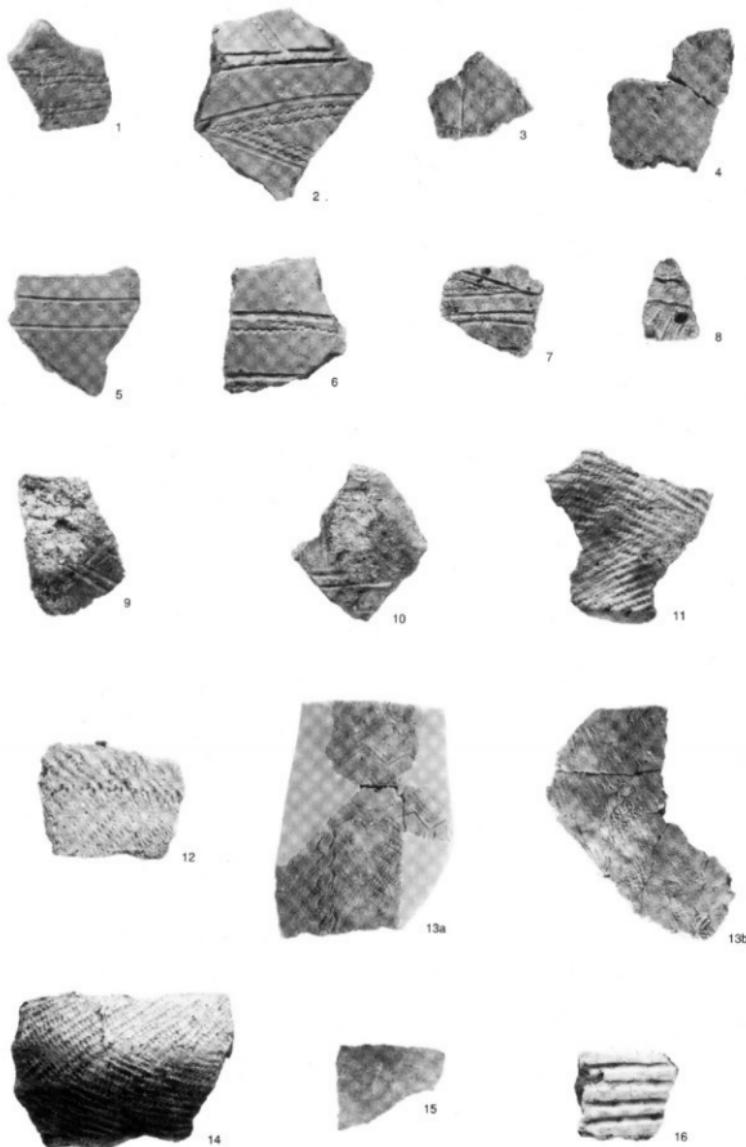


RF002 (断面)



P1

写真図版 46 RD001・RD002、RF001・RF002、P1



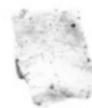
写真図版 47 出土遺物 (1) 土器



17



18



19



20



21



22



23

写真図版 48 出土遺物 (2) 土器、石器

## 報告書抄録

ふりがな 書名	とちゅういせきだいいちじ・うそざわいせきだいにじはくつちょうさほうこくしょ 戸仲遺跡第1次・宇曾沢遺跡第2次発掘調査報告書							
副書名	特定安全施設整備事業関連遺跡発掘調査							
卷次								
シリーズ名	岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書							
シリーズ番号	第519集							
編著者名	溜 浩二郎・北村忠昭							
編集機関	(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター							
所在地	〒020-0853 岩手県盛岡市下飯岡11地割185番地 TEL.(019)638-9001							
発行年月日	2008年3月17日							
ふりがな 所取遺跡	ふりがな 所在地	コード		北緯 ° °	東經 ° °	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
戸仲遺跡 戸仲遺跡 第1次調査	岩手県盛岡市川目 4-60-16ほか	03201	LE28-0232	39度 40分 34秒	141度 13分 38秒	2006.07.18 ～ 2006.11.02	654m <sup>2</sup>	特定安全施設整備事業 に伴う緊急 発掘調査
宇曾沢遺跡 宇曾沢遺跡 第2次調査	岩手県盛岡市川目 2-20-11ほか	03201	LE28-0376	39度 40分 11秒	141度 14分 47秒	2006.09.01 ～ 2006.09.26	96m <sup>2</sup>	特定安全施設整備事業 に伴う緊急 発掘調査
所取遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項			
戸仲遺跡 第1次調査	集落跡	縄文時代	土坑 焼土遺構 配石遺構 柱穴状土坑 遺物集中区	6基 6基 10基 23個 1箇所	純文土器・石器 (中期後葉～晚期末葉) 土製品(動物形・土偶、 耳飾り、円盤状土製品) 石製品(石棒頭・工具など)	・縄文時代後期後葉～晚期中葉の 配石遺構等		
宇曾沢遺跡 第2次調査	散布地	縄文時代	附し穴状遺構 土坑 焼土遺構 柱穴状土坑	1基 1基 2基 1個	土器・石器 (半・前・後・晚期)	縄文時代早期の土器出土 (物見台式)		
要約	戸仲遺跡第1次調査では縄文時代中期後葉～晚期中葉を中心とした遺構・遺物が見つかっており、 集落跡がその縁辺部と考えられる。宇曾沢遺跡第2次調査では縄文時代早期～晚期（中期を除く） までの幅広い時期にわたる遺物が出土している。							

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第519集

## 戸仲遺跡第1次・宇曾沢遺跡第2次発掘調査報告書

特定安全施設整備事業関連遺跡発掘調査

印 刷 平成20年3月11日

発 行 平成20年3月17日

発 行 (財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター

〒020-0853 岩手県盛岡市下飯岡11地割185番地

電話 (019)638-9001

FAX (019)638-8563

印 刷 株式会社 阿部印刷

〒020-0873 岩手県盛岡市松尾町2番2号

電話 (019)624-2242

